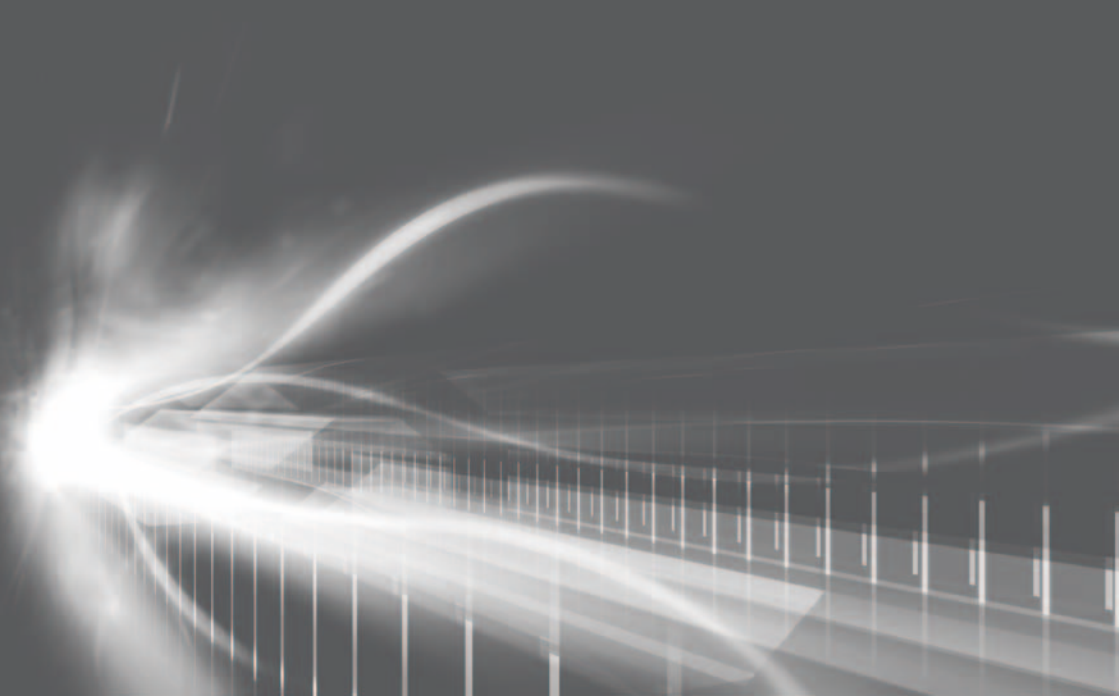




取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AVENSIS



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	30
排気ガスに対する注意	38
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	39
チャイルドシート	40
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	61

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	64
計器類	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い	
キー	76
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	
(フロントドア・リヤドア) ...	79
バックドア	86
スマートエントリー&	
スタートシステム	91
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	100
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	102
インナーミラー	104
ドアミラー	106
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	108

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	112
荷物を積むときの注意	121

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）	
スイッチ	123
トランスミッション	128
方向指示レバー	134
パーキングブレーキ	135

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	137
フォグランプスイッチ	142
ワイパー & ウォッシャー（フロント）	143
ワイパー & ウォッシャー（リヤ）	146

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	148
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C.....	152
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）	157
LDA（レーンディパーチャーアラート）	165
オートマチックハイビーム.....	172

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール	177
運転を補助する装置	181

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	187
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン	192
---------------	-----

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	199
・メインスイッチ	200
・パーソナルランプ／インテリアランプ	200

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	202
・グローブボックス	203
・コンソールボックス	204
・カップホルダー	205
・ボトルホルダー	206
・小物入れ	208
ラゲージルーム内装備	209

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	214
・サンバイザー	214
・バニティミラー	214
・アクセサリースOCKET	215
・リヤアームレスト	216
・ラゲージスルー	217
・コートフック	218
・アシストグリップ	218
・ステアリングスイッチ	219

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	222
内装の手入れ	226

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	229
ガレージジャッキ	232
エンジンルームカバー	233
ウォッシャー液の補給	235
タイヤについて	236
タイヤ空気圧について	240
エアコンフィルターの交換	242
ワイパーゴムの交換	244
キーの電池交換	246
ヒューズの点検・交換	248
電球（バルブ）の交換	252

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	264
非常点滅灯 （ハザードランプ）	265
発炎筒	266
車両を緊急停止するには	268

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	269
フューエルポンプ シャットオフシステム	276
警告灯がついたときは	277
警告メッセージが 表示されたときは	280
パンクしたときは	289
エンジンが かからないときは	299
シフトレバーが シフトできないときは	301
パーキングブレーキが 解除できないときは	302
電子キーが正常に 働かないときは	305
バッテリーが あがったときは	307
オーバーヒートした ときは	310
スタックしたときは	313

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)316

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....322

さくいん

こんなときは
(症状別さくいん)328

車から音が鳴ったときは
(音さくいん)332

アルファベット順さくいん334

五十音順さくいん335

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の実装については、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense C

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

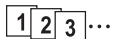
本書の見方



お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



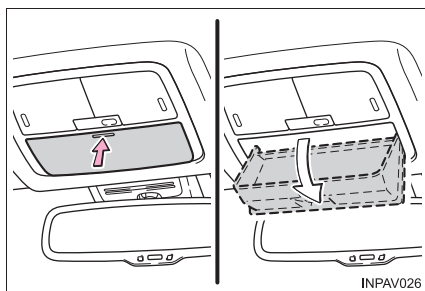
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

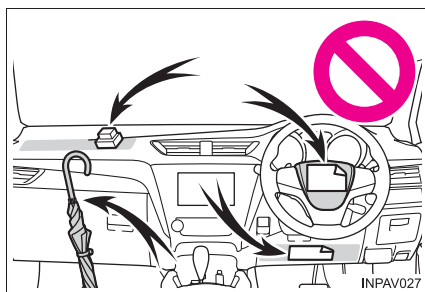
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

❌ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

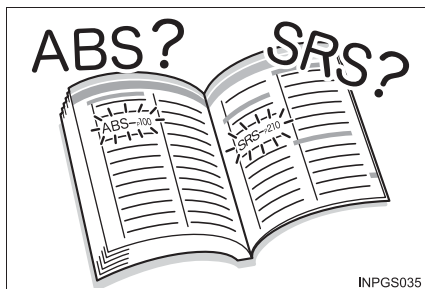


機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

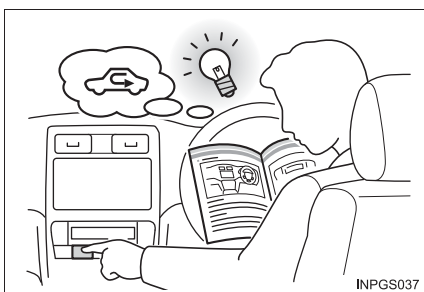
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん335
- ・ アルファベット順
さくいん334



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



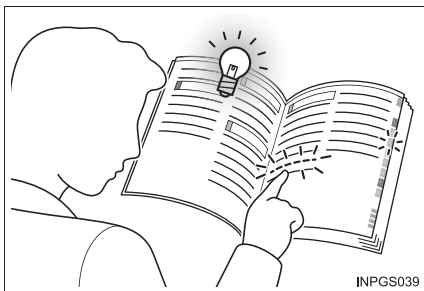
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)328
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)332



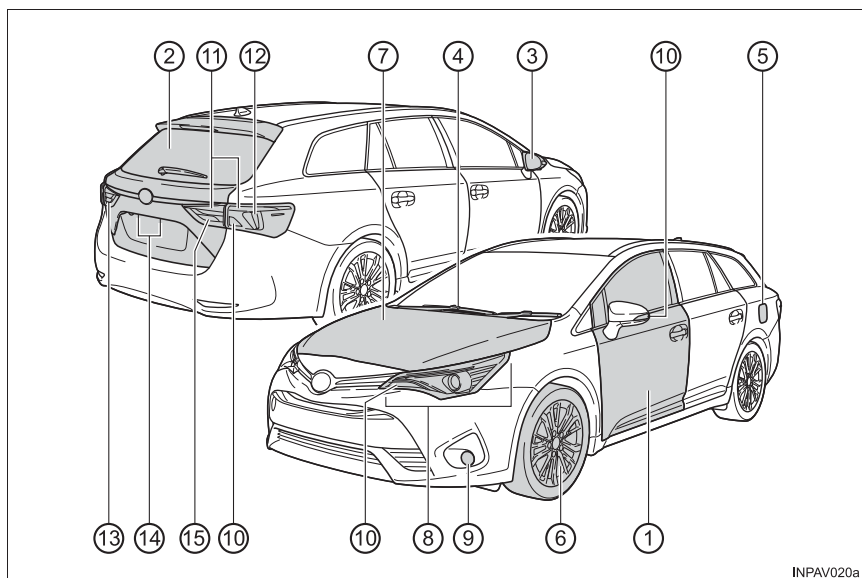
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



- ① ドアP. 79
 - 施錠／解錠P. 79
 - ドアガラスの開閉P. 108
 - メカニカルキーでの施錠／解錠P. 305
 - 警告メッセージP. 282
- ② バックドアP. 86
 - 車外から開けるP. 86
 - 警告メッセージP. 282
- ③ ドアミラーP. 106
 - 鏡面の角度調整P. 106
 - ミラーの格納P. 106
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）P. 195

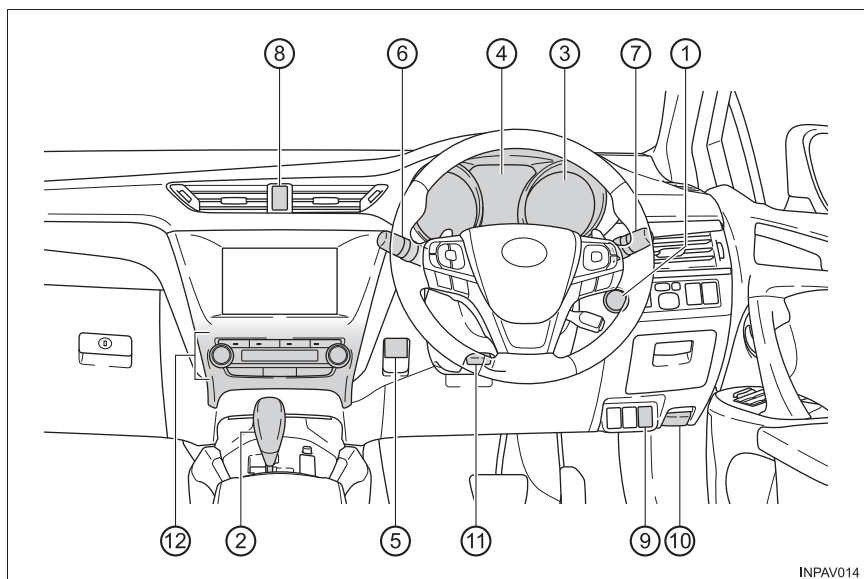
④	ワイパー	P. 143
	冬季の注意	P. 187
	洗車時の注意	P. 224
⑤	給油口	P. 148
	給油方法	P. 148
	燃料の種類・燃料タンク容量	P. 316
⑥	タイヤ	P. 236
	サイズ・空気圧	P. 320
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 187
	点検・ローテーション	P. 236
	パンク時の対処	P. 289
⑦	ボンネット	P. 229
	開け方	P. 229
	エンジンオイル	P. 317
	オーバーヒート時の対処	P. 310

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 252, ワット数：P. 321)

⑧	ヘッドランプ・車幅灯	P. 137
⑨	フロントフォグランプ★	P. 142
	コーナリング／フォグランプ★	P. 139
⑩	方向指示灯	P. 134
⑪	尾灯	P. 137
⑫	制動灯	
⑬	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P. 128
⑭	番号灯	P. 137
⑮	リヤフォグランプ	P. 142

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

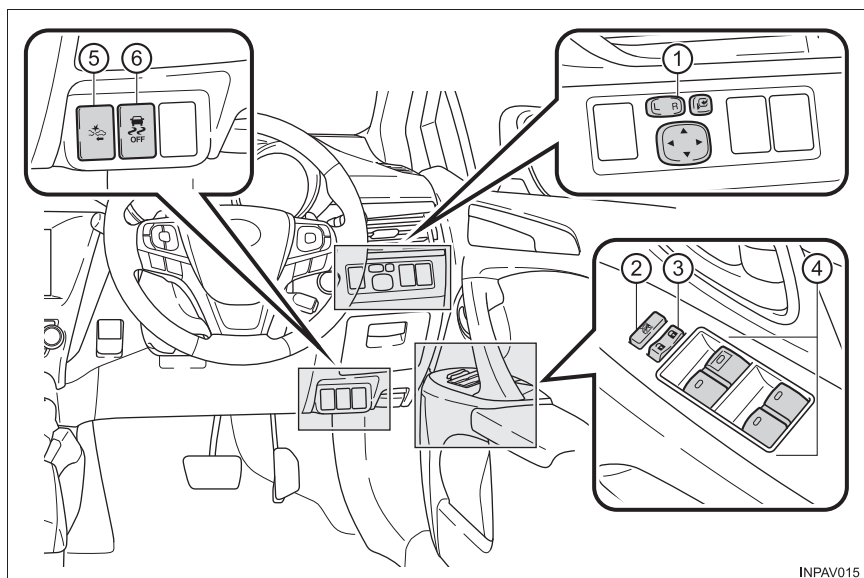


INPAV014

- ① エンジンスイッチP. 123
 - エンジンの始動・モード切りかえP. 123
 - エンジンの緊急停止P. 268
 - エンジンが始動できないときの対処.....P. 299
 - 警告メッセージ.....P. 280
- ② シフトレバーP. 128
 - シフトポジションの切りかえ.....P. 128
 - けん引時の注意.....P. 269
 - シフトレバーが動かないときの対処.....P. 301
- ③ メーター.....P. 68
 - 見方・明るさの調整P. 72
 - 警告灯／表示灯.....P. 64
 - 警告灯点灯時の対処P. 277

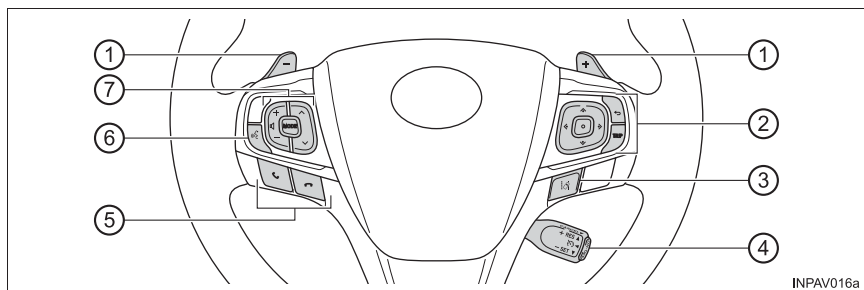
④ マルチインフォメーションディスプレイ	P. 70
表示内容	P. 70
警告メッセージ表示時の対処	P. 280
⑤ パーキングブレーキ	P. 135
かける・解除する	P. 135
冬季の注意	P. 187
警告ブザー・警告メッセージ	P. 280
⑥ 方向指示レバー	P. 134
ランプスイッチ	P. 137
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯	P. 137
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ	P. 142
⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 143
使い方	P. 143
ウォッシャー液の補充	P. 235
⑧ 非常点滅灯スイッチ	P. 265
⑨ 給油口オープナー	P. 148
⑩ ボンネット解除レバー	P. 229
⑪ ハンドル位置調整レバー	P. 102
⑫ オートエアコン	P. 192
操作方法	P. 194
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）...	P. 195

■ スイッチ類



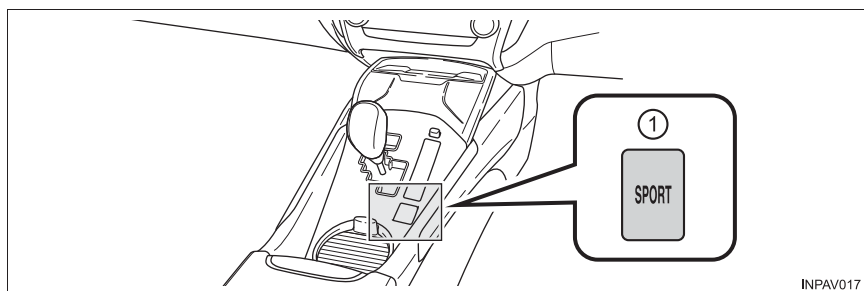
INPAV015

- ① ドアミラースイッチP. 106
- ② ウィンドウロックスイッチP. 108
- ③ ドアロックスイッチP. 81
- ④ パワーウィンドウスイッチP. 108
- ⑤ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) スイッチ★P. 157
- ⑥ VSC OFF スイッチP. 181



INPAV016a

- ① パドルシフトスイッチ.....P. 130
- ② メーター操作スイッチ.....P. 71
- ③ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★.....P. 165
- ④ クルーズコントロールスイッチ★.....P. 177
- ⑤ 電話スイッチ.....P. 219
- ⑥ トークスイッチ.....P. 219
- ⑦ オーディオスイッチ.....P. 219

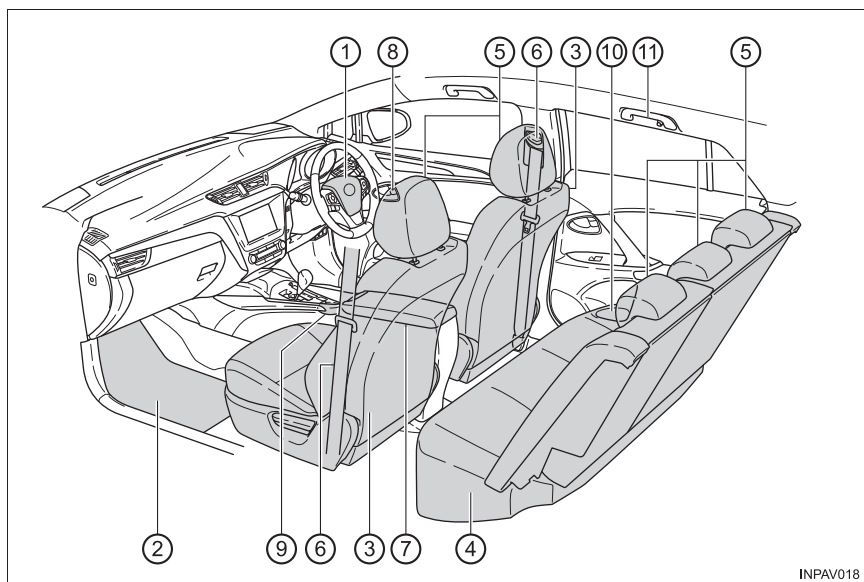


INPAV017

- ① スポーツモードスイッチ.....P. 129

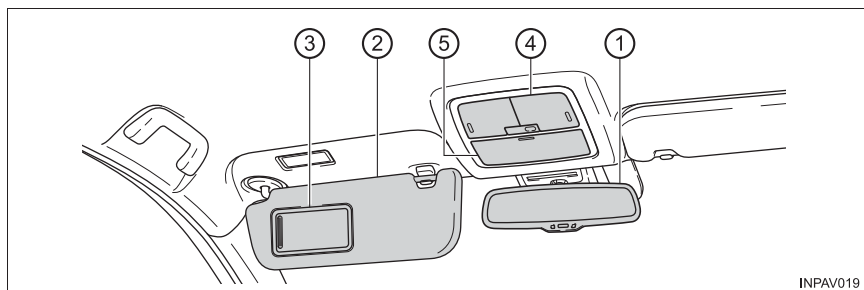
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



INPAV018

① SRS エアバッグ	P. 30
② フロアマット	P. 22
③ フロントシート	P. 97
④ リヤシート	P. 98
⑤ ヘッドレスト	P. 100
⑥ シートベルト	P. 26
⑦ コンソールボックス	P. 204
⑧ ロックレバー	P. 81
⑨ カップホルダー	P. 205
⑩ ボトルホルダー	P. 205
⑪ アシストグリップ	P. 218



INPAV019

- | | |
|----------------------|--------|
| ① インナーミラー | P. 104 |
| ② サンバイザー※ | P. 214 |
| ③ バニティミラー | P. 214 |
| ④ フロントパーソナルランプ | P. 200 |
| ⑤ 小物入れ | P. 208 |

※ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 46)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	30
排気ガスに対する注意	38
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	39
チャイルドシート	40
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム.....	61

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

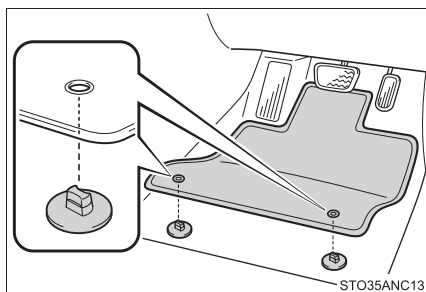
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

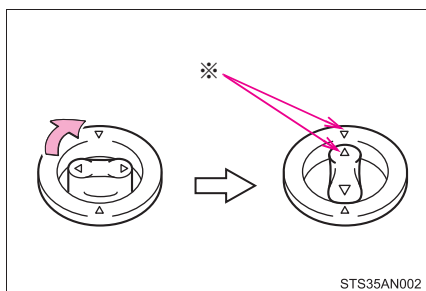
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

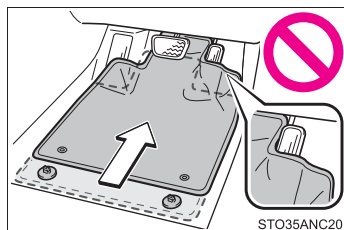
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

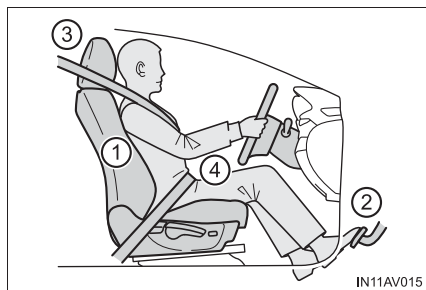


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 97）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 97）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 100）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意下さい。（→ P. 40）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 104, 106）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

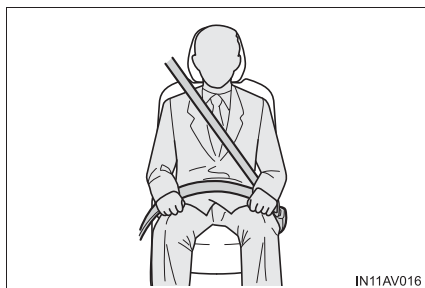
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

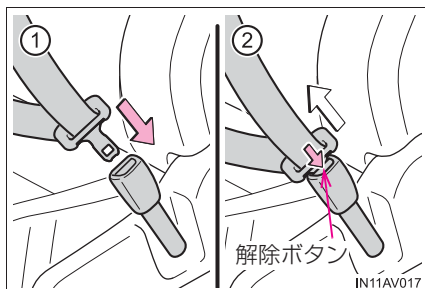
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



IN11AV016

着け方・はずし方

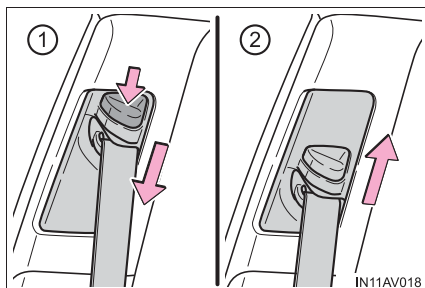
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



IN11AV017

シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

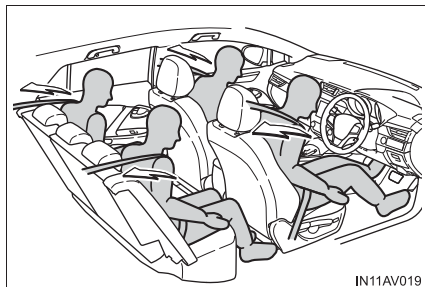


IN11AV018

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

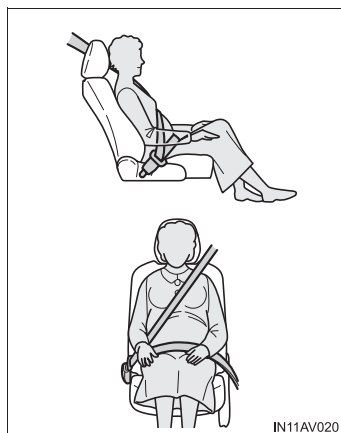
■お子さまを乗せるときは

→ P. 51

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるとお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかると着用してください。ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



IN11AV020

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 警告**■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

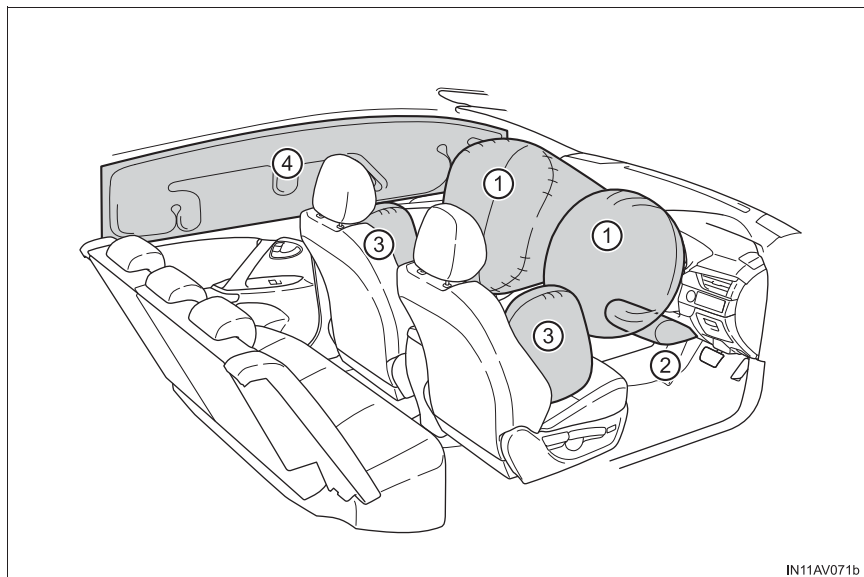
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

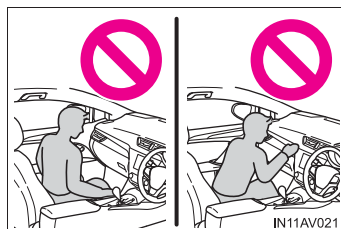
警告

■ SRS エアバッグについて

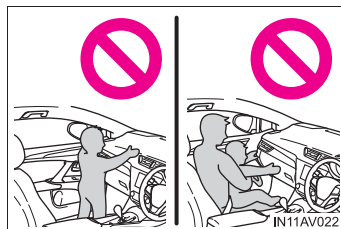
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がSRSエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 40)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告**■ SRS エアバッグについて**

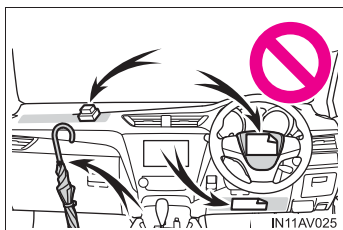
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



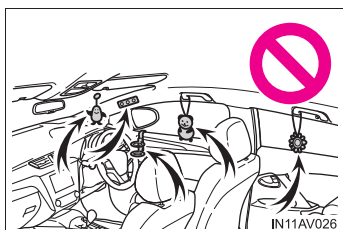
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部・グローブボックスのドアなどには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



 警告**■ SRS エアバッグについて**

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する车速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

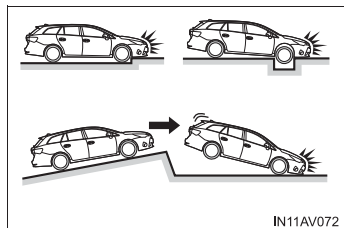
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

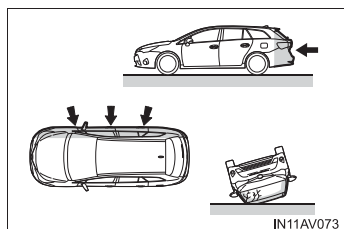
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

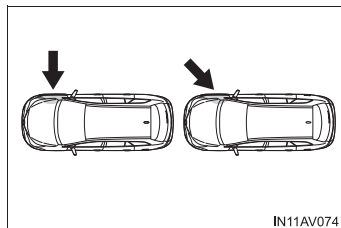
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

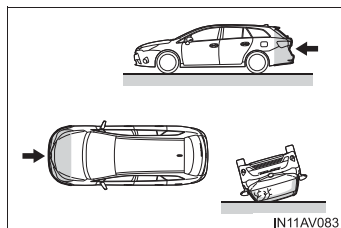
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



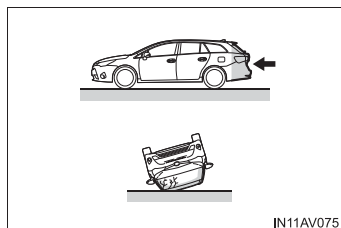
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

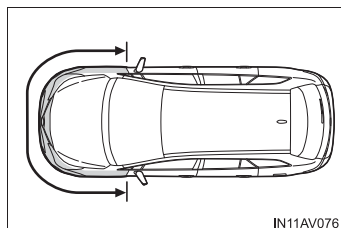
- 後方からの衝突
- 横転



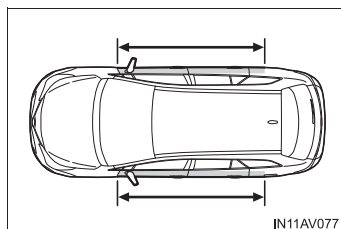
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

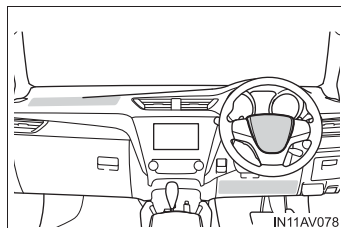
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



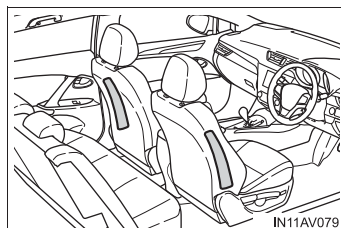
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



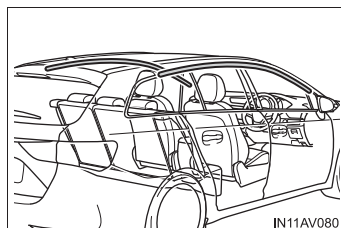
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 40)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 82)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 108) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 40)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 40
チャイルドシートについて	P. 42
チャイルドシートを使用するときは	P. 45
チャイルドシートの取り付け方法	
・ シートベルトで固定する	P. 48
・ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	P. 52
・ トップテザーアンカーを使用する	P. 59

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 48, 52)

 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。(→ P. 48, 52) 本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

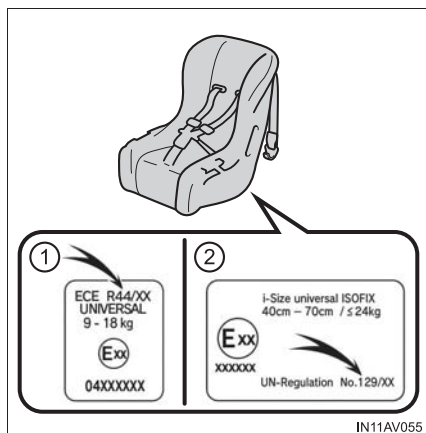
■ チャイルドシートの規格

ECE R44 ※¹ または、ECE R129 ※^{1, 2} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

- ① ECE R44 認可マーク※³
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② ECE R129 認可マーク※³
対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



※¹ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。
チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※³ 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて (ECE R44 のみ)

この質量グループは、チャイルドシートの適合性を確認する際に必要となります。チャイルドシートの適合性一覧表と合わせてご確認ください。(→ P. 48, 54)

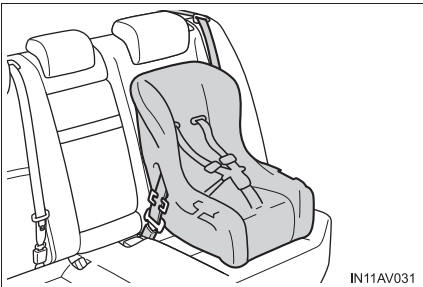
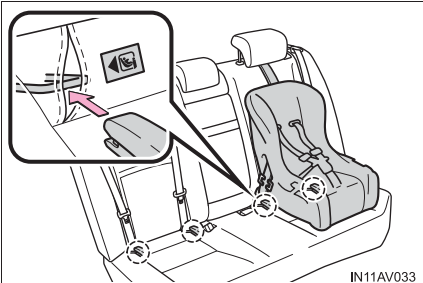
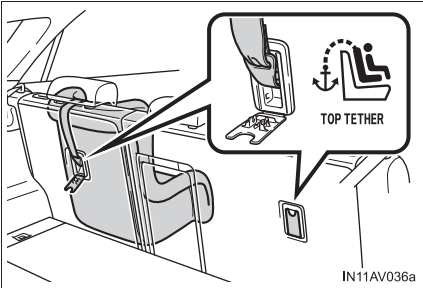
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0 +	13kg まで	1 歳半頃まで
グループ I	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループ II	15 ～ 25kg	3 歳頃～ 7 歳頃まで
グループ III	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 48
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 52
テザーベルトを固定する		P. 59

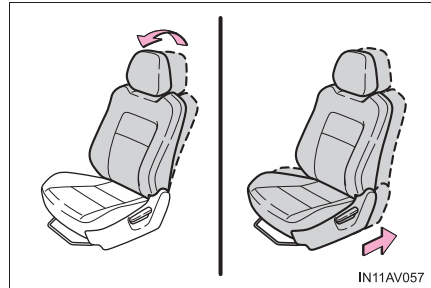
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす



警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

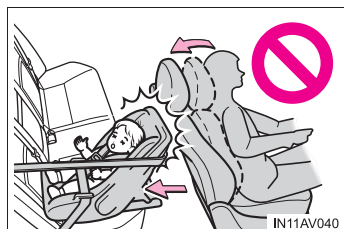


警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表（→ P. 48）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。

次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 43）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 48）

◆ チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーの場合、次の表中の U または UF が示す位置に取り付けることができます。（UF は前向きのチャイルドシートのみ取り付けできます。）

チャイルドシートのカテゴリーと質量グループはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

質量グループ	着席位置			推奨チャイルドシート
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	左右席	中央席	
0 (10kg まで)	×	U	U	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ (13kg まで)	×	U	U	
Ⅰ (9 ～ 18kg)	うしろ向き ×	U ※ 2	U ※ 2	
	前向き UF ※ 1, 2			
Ⅱ, Ⅲ (15 ～ 36kg)	UF ※ 1, 2	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

※¹ 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 助手席：

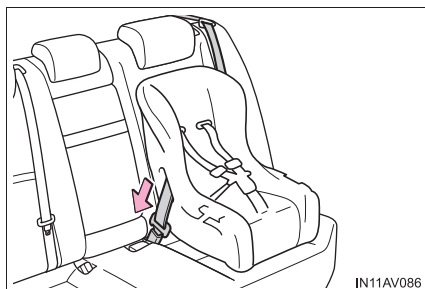
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→ P. 45)

リヤシート：

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 100)

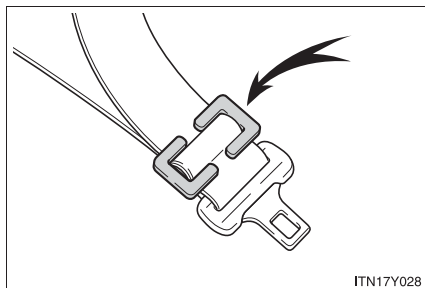
2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロックングクリップ品番：73119-22010)



4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→ P. 51)

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

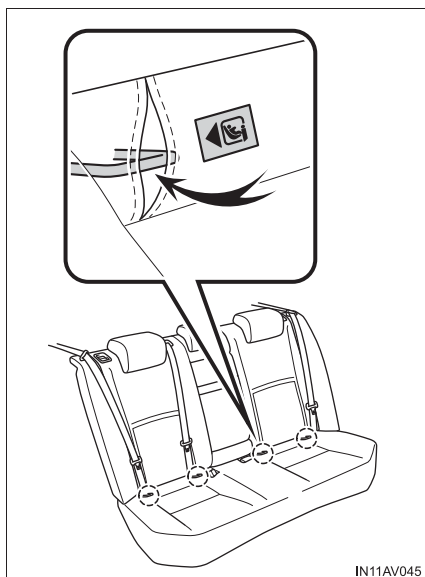
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



IN11AV045

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表 (→ P. 54, 57) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認してください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

- 1** お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→ P. 43)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2** サイズ等級を確認する

手順で確認した「質量グループ」を「チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 54) ※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「着席位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 55) で指定されている製品を使用してください。

◆ チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「サイズ等級」に分かれています。

次の表に示す「サイズ等級」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

チャイルドシートの「サイズ等級」と「質量グループ」を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	使用の向き・形状・大きさ
A	全高前向きチャイルドシート
B	低型前向きチャイルドシート
B1	低型前向きチャイルドシート
C	大型うしろ向きチャイルドシート
D	小型うしろ向きチャイルドシート
E	うしろ向きチャイルドシート
F	左向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）
G	右向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）

質量グループ	サイズ 等級	着席位置			推奨チャイルドシート
		フロント シート	リヤシート		
		助手席	左右席	中央席	
キャリコット	F	×	×	×	—
	G	×	×	×	
0 (10kg まで)	E	×	IL	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	×	IL	×	
	D	×	IL	×	
	C	×	IL	×	
I (9 ～ 18kg)	D	×	IL	×	—
	C	×	IL	×	
	B	×	IUF※ IL※	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	×	IUF※ IL※	×	
	A	×	IUF※ IL※	×	

表に記入する記号の説明

×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL： この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ i-Size チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R129) - 適合性一覧表

チャイルドシートが「i-Size」カテゴリーの場合、次の表中の i-U が示す位置に取り付けることができます。チャイルドシートのカテゴリーはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。

	着席位置		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U ※	×

表に記入する文字の説明

×： i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートを取り付けることはできません。

i-U： 前向きおよび後ろ向きの i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

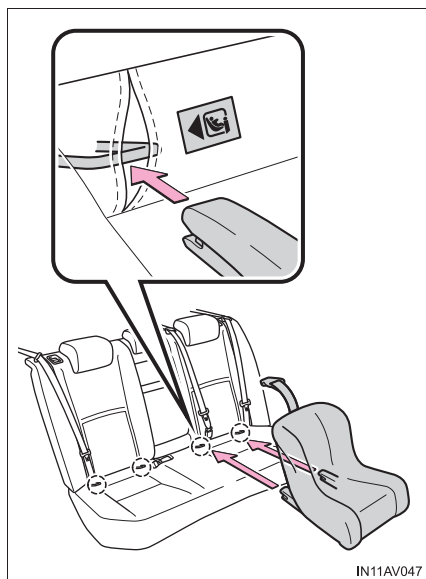
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 100)

- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 51)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

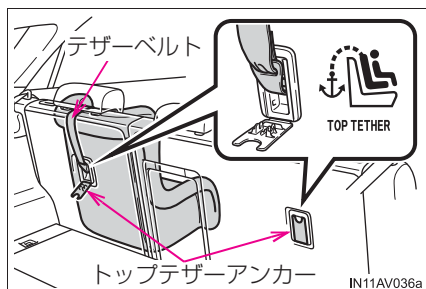
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。

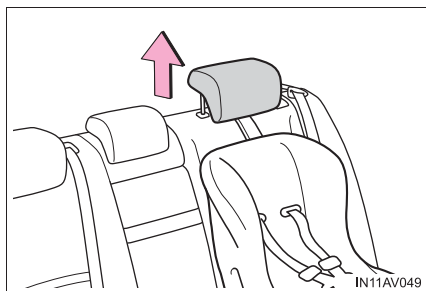


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

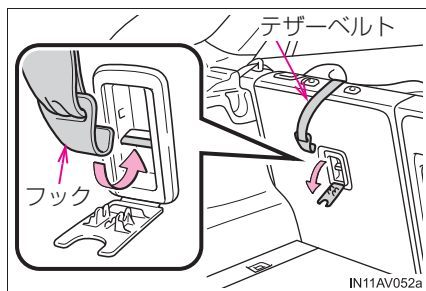
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 100)



2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 51)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

 注意**■トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

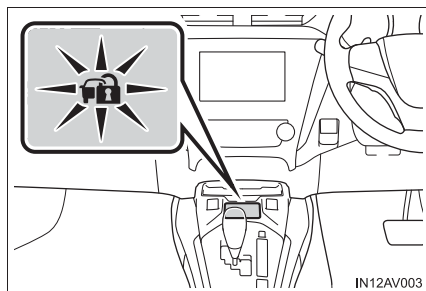
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

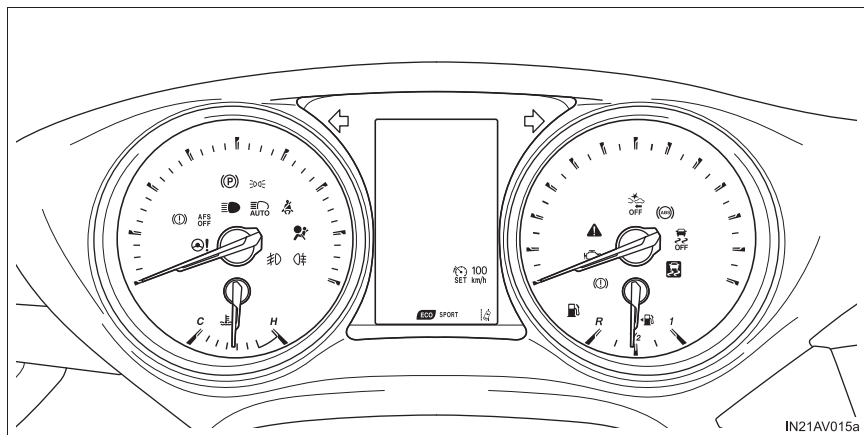
2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	64
計器類	68
マルチインフォメーション ディスプレイ	70

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 277)



ブレーキ警告灯
(→ P. 277)

(赤色)



AFS OFF 表示灯★
(→ P. 278)

(点滅)



エンジン警告灯
(→ P. 277)



スリップ表示灯
(→ P. 278)



SRS エアバッグ／プリテンションナー警告灯
(→ P. 277)



燃料残量警告灯
(→ P. 278)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 277)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 278)



ブレーキ警告灯
(→ P. 277)

(黄色)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 278)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 277)



マスターウォーニング
(→ P. 279)



PCS 警告灯★
(→ P. 278)

(点滅)

※ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 134)



エコドライブインジケーター
ランプ (→ P. 67)



尾灯表示灯 (→ P. 137)



セキュリティインジケーター
(センターパネル)
(→ P. 61)



ハイビーム表示灯
(→ P. 138)



クルーズコントロール
表示灯★ (→ P. 177)



フロントフォグランプ
表示灯 (→ P. 142)



クルーズコントロール
セット表示灯★
(→ P. 177)



リヤフォグランプ表示灯
(→ P. 142)



LDA (レーンディパー
チャーアラート) 表示灯★
(→ P. 165)



オートマチックハイビーム
表示灯★ (→ P. 172)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 135)



AFS OFF 表示灯★
(→ P. 138)



シフトポジション・シフトレ
ンジ表示 (→ P. 128)



スリップ表示灯
(→ P. 182)
(点灯
または
点滅)



スポーツモード表示灯
(→ P. 129)



PCS 警告灯★
(→ P. 157)



低温表示灯 (→ P. 69)



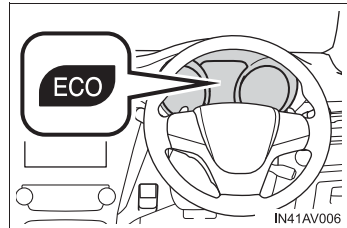
VSC OFF 表示灯
(→ P. 182)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² システムが OFF のときに点灯します。
- ※³ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。



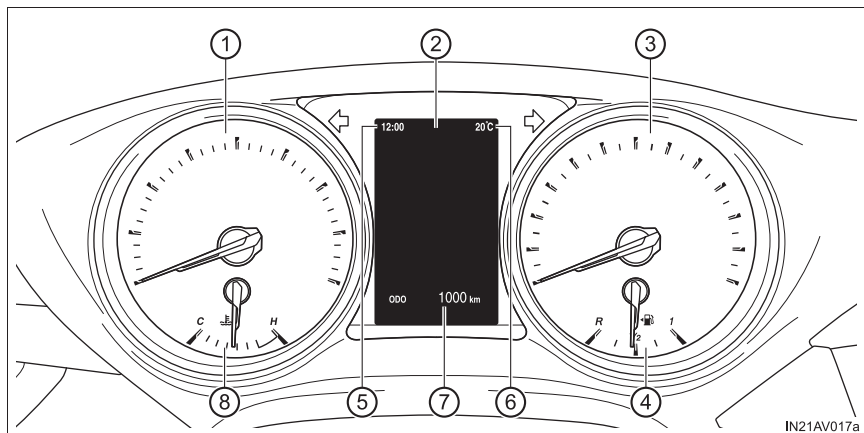
- シフトレバーが D 以外のとき
- 走行モードがスポーツモードのとき (→ P. 129)
- パドルシフトを操作したとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

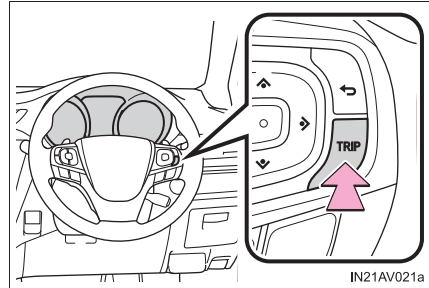
計器類



- ① タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 70)
- ③ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ④ 燃料計
燃料残量を示します。
- ⑤ 時計
時刻を表示します。
- ⑥ 外気温度表示
→ P. 69
- ⑦ オドメーター／トリップメーター
オドメーター：走行した総距離を表示します。
トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
- ⑧ 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切り替え

スイッチを押すごとにオドメーターとトリップメーターの表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



IN21AV021a

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20 km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- “--” が表示されたときは
システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点滅します。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 310）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

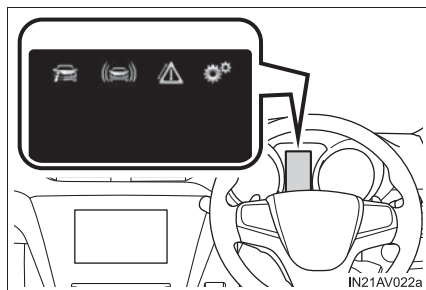
マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 71)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。

ドライブインフォメーション



走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 71)

運転支援機能情報★

LDA（レーンディパーチャーアラート）に関する情報を表示します。
(→ P. 165)

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→ P. 280)

設定

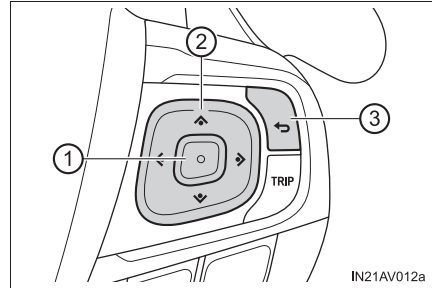
メーターの表示設定や、運転支援装置の操作設定などを切りかえることができます。(→ P. 72)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① 決定／設定
- ② 選択／ページ送り
- ③ ひとつ前の画面にもどる



ドライブインフォメーション

■ 瞬間燃費※¹

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費（リセット間※²・始動後・給油後）※¹

リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速（リセット間※²・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の平均車速を表示します。

■ 走行時間（リセット間※²・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の経過時間を表示します。

■ 距離（航続可能・始動後走行）※¹

燃料残量による走行可能な距離、エンジン始動後の走行距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

- ※¹ 「設定」のドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2 で選択した項目が表示されます。(→ P. 72)
- ※² リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの  スイッチを 1 秒以上押します。
リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

設定

-  (LDA [レーンディパーチャーアラート]) ★

LDA の警報感度を選択することができます。

- AFS (アダプティブフロントライティングシステム) ★

AFS の作動 / 非作動を選択することができます。

-  (時計)

時計の時刻と表示形式を設定することができます。

-  (メーター照度調整)

メーター照明の明るさを調整できます。

- 設定

以下の項目を設定することができます。

- ・ 単位

燃費表示の単位を選択することができます。

- ・  (エコドライブインジケータランプ)

エコドライブインジケータランプの表示 / 非表示を選択することができます。

- ・ ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目を 1・2 それぞれに 2 つまで選択することができます。

- 言語

表示される言語を選択することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 割り込み表示

マルチインフォメーションディスプレイには、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

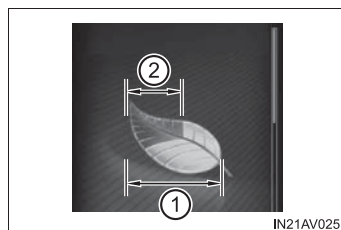
■ エコドライブインジケータゾーン表示について

アクセル操作に連動してバー表示が変化します。

① エコ運転の範囲

② 現状のアクセル開度

バー表示がエコ運転の範囲をこえると、緑色の範囲が消灯し、エコドライブインジケータランプが消灯します。(→ P. 67)



IN21AV025

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

各部の操作**3**

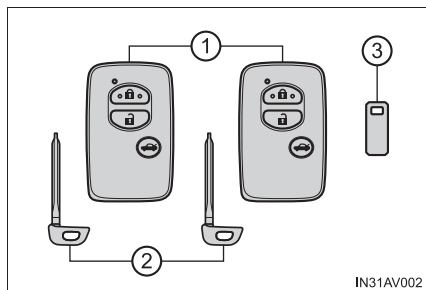
3-1. キーの取り扱い	
キー	76
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア (フロントドア・リヤドア)	79
バックドア	86
スマートエントリー& スタートシステム	91
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	100
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	102
インナーミラー	104
ドアミラー	106
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	108

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

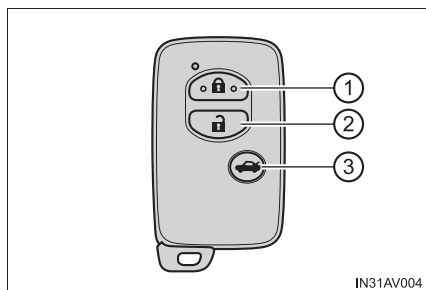
- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 91)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



IN31AV002

ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 80)
- ② 全ドアを解錠する (→ P. 80)
- ③ バックドアを解錠する

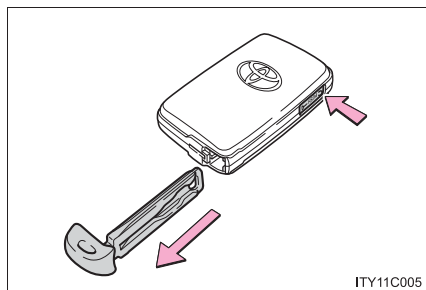


IN31AV004

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 305)



ITY11C005

 知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

グローブボックスを施錠します。(→ P. 203)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(電子キーを使用しなくても電池は消耗します) スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 246)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 92, 287)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 246

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

ドア（フロントドア・リヤドア）

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

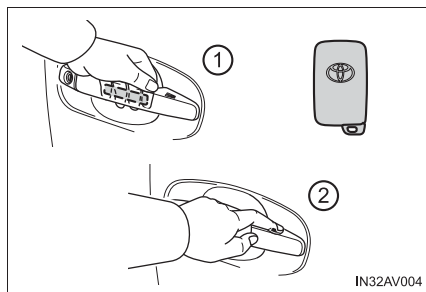
- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は、解錠できません。

- ② フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

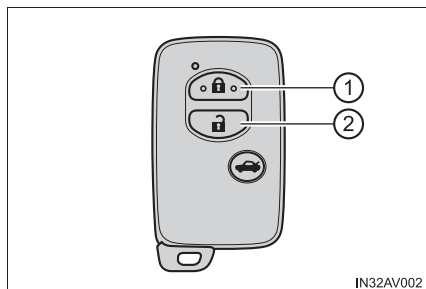


◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する


 知識

■ 作動の合図

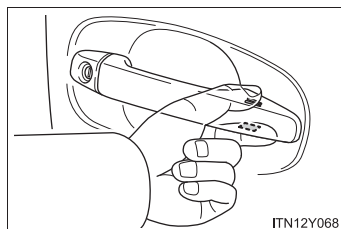
非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側ロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■ 半ドア警告ブザー

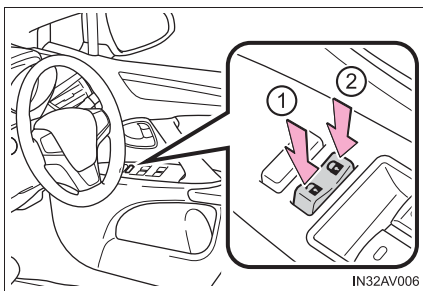
ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 305)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 246)

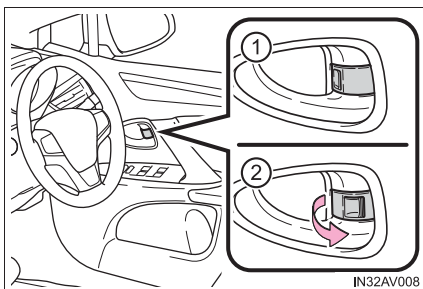
車内からの施錠／解錠**◆ ドアロックスイッチ**

- ① 全ドア解錠
- ② 全ドア施錠

**◆ ロックレバー**

- ① 施錠
- ② 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッションONモードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

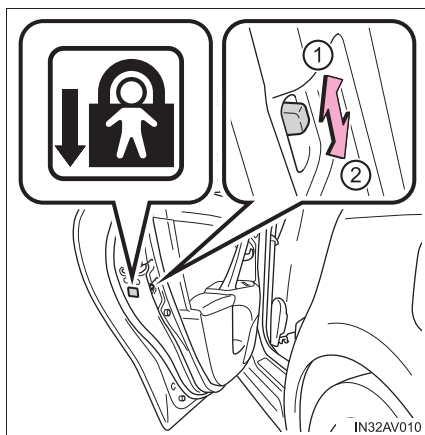
電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。*
運転席ドア連動オートアンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

※ 1 回作動すると、エンジンスイッチを OFF にするか、ドアを開閉するまでは再度作動しません。

■ 設定・解除のしかた

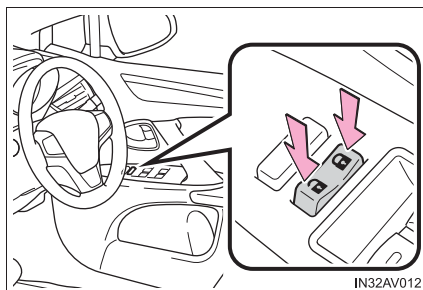
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 10 秒以内に2を行う）

- 2 シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押し続ける

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次ページの表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順で行います。



機能	シフトレバーの位置	ドアロック スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感応オートロック	N	
運転席ドア連動オートアンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 305)

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 94

■ カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 322)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

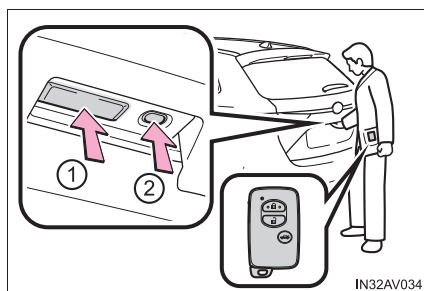
① バックドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

バックドアを開閉して車両を離れるときは、必ず施錠してください。バックドアを閉めても自動的に施錠されません。



IN32AV034

◆ ワイヤレスリモコン

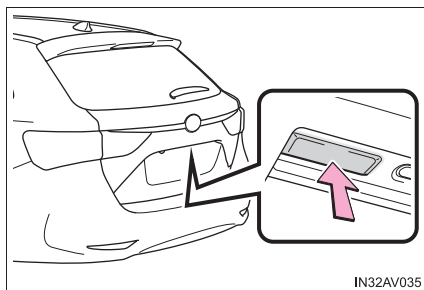
→ P. 76

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 81

バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

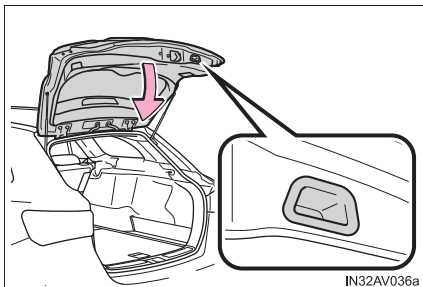


IN32AV035

バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときに横方向に力をかけないでください。



知識

■ラゲージルームランプ

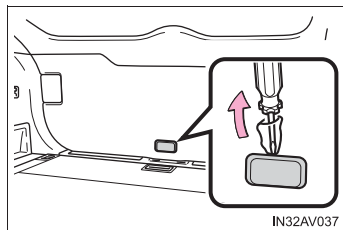
バックドアを開けるとラゲージルームランプが点灯します。

■バックドアが開かないときは

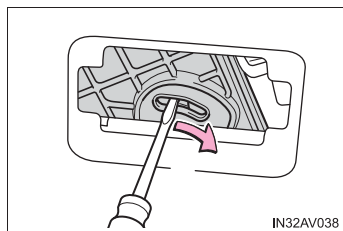
バックドアを内側から開けることができます。

1 バックドア内側のカバーをはずす

傷付き防止のため、テープなどを巻いたマイナスドライバーを使用してください。



2 レバーを押す



 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ バックドアの操作にあたって

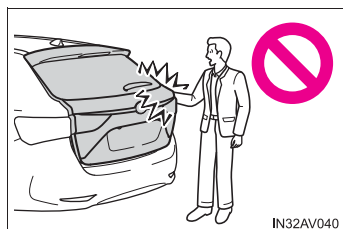
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアにはり付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

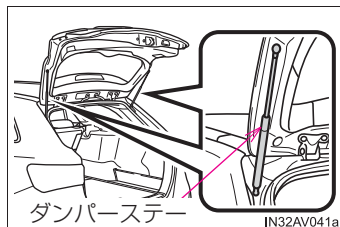


- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

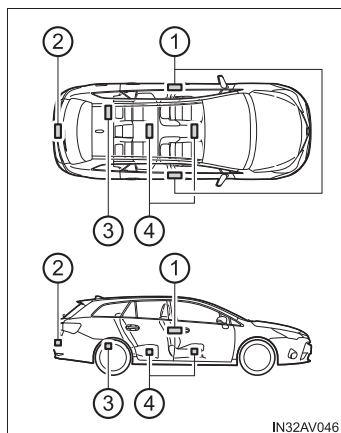
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 79）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 86）
- エンジンを始動する（→ P. 123）

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② ラゲージルーム外アンテナ
- ③ ラゲージルーム内アンテナ
- ④ 車内アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

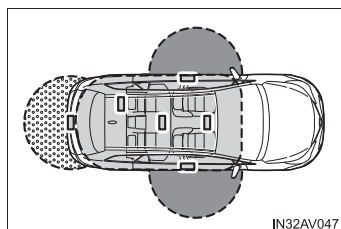
フロントドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：エンジン始動時、またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

●：バックドアの施錠・解錠時

バックドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 280）

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン”と 1 回鳴る 車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアをスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける	エンジンスイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリモードのとき、シフトレバーをP以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーをPに入れ、エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
車内から“ポーン”と1回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。（→P. 246）
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動してください。※
車内から“ピー”と1回鳴る 車外から“ピッ・ピッ・ピッ”と3回鳴る	エンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度運転席ドアを閉めてください。
	エンジンスイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	電子キーを車内にもどしてください。

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→P. 305）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドルのロックセンサー部にふれて施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→ P. 80）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→ P. 305）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。

（対処方法：→ P. 305）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ バックドアの施錠・解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバーなどの上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）
- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）
- 車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとにもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの施錠・解錠：→ P. 305
- エンジンの始動：→ P. 305

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 322)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 76, 305)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 305
- エンジンの停止：→ P. 123

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告

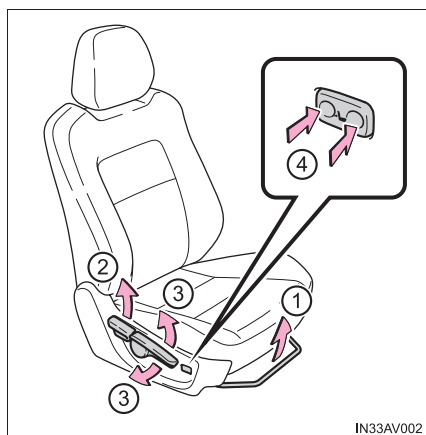
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ(→ P. 91) から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- ④ 腰部硬さ調整★ (運転席のみ)



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

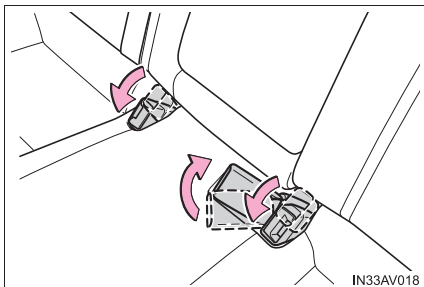
リヤシート

リヤシートは前倒しすることができます。

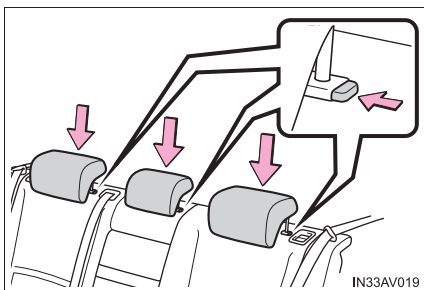
前倒しのしかた

■ 前倒しする前に

- 1 シートベルトのバックルを格納する

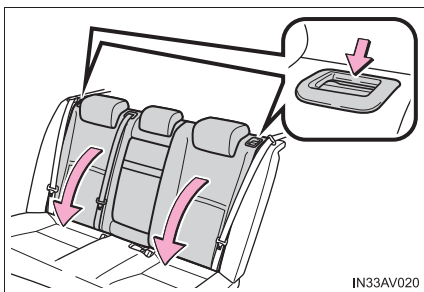


- 2 解除ボタンを押しながらヘッドレストを下げる



■ 前倒しするときは

レバーを引いてロックを解除し、背もたれを倒す



警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

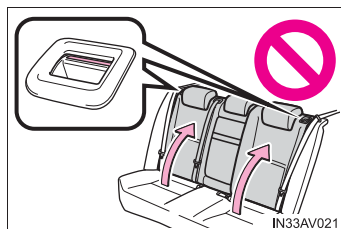
■ 背もたれを前倒しするときは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバー部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

注意

■ 背もたれを前倒しするときは

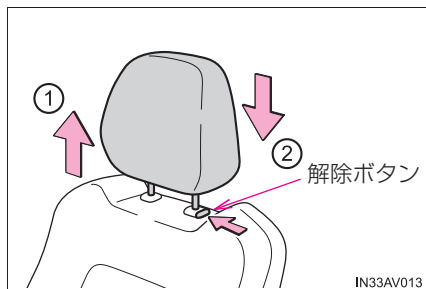
背もたれを倒す前に必ずリヤ席のシートベルトのバックルとアームレストを格納してください。(→ P. 98, 216)

ヘッドレスト

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



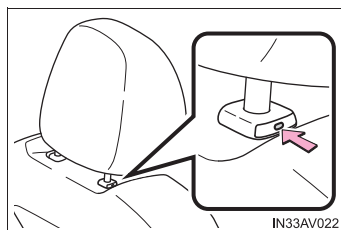
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

▶ フロント席

① スロットにマイナスドライバーを挿し込む

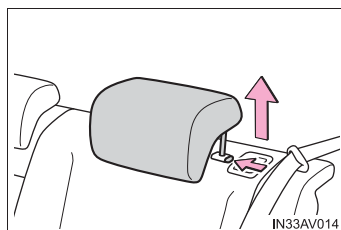
スロットはヘッドレスト右側にあります



② マイナスドライバーを挿し込んだ状態で、解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き抜く

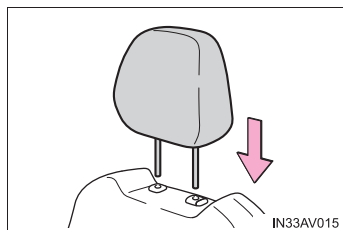
▶ リヤ席

解除ボタンを押しながら取りはずす



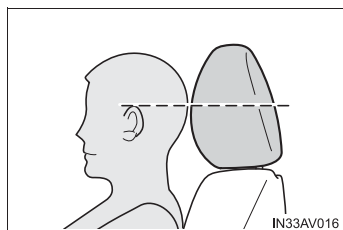
■ヘッドレストを取り付けるときは

挿入穴にヘッドレストを挿入し、ヘッドレストがロックする位置まで押し込む



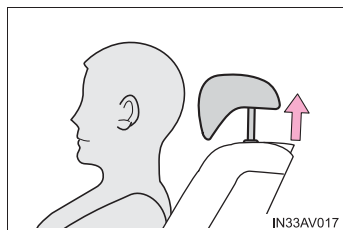
■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するとき、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

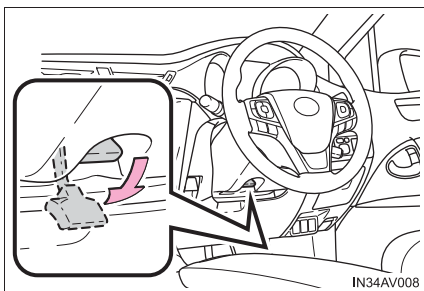
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

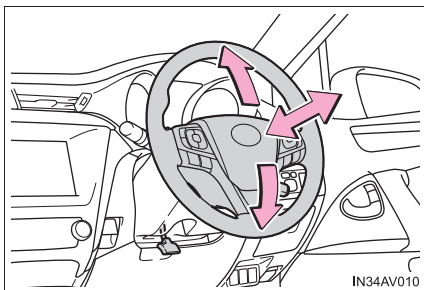
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



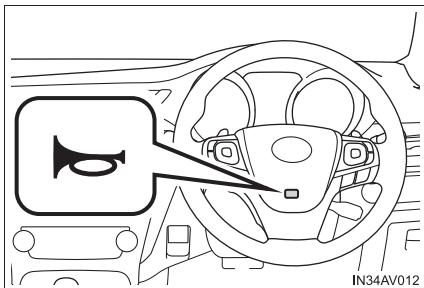
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げて
ハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

 警告**■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

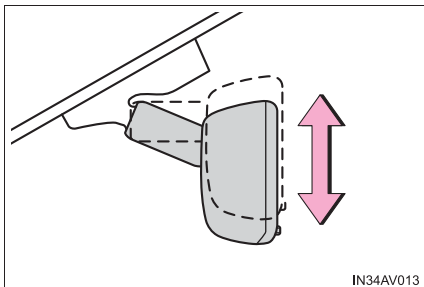
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



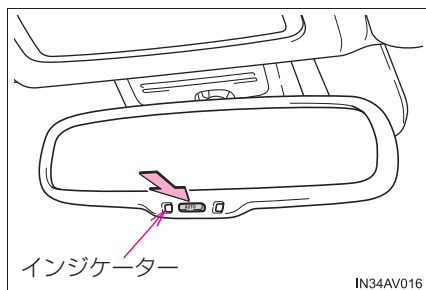
自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切り換え
ON / OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

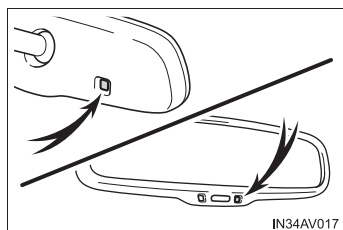
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

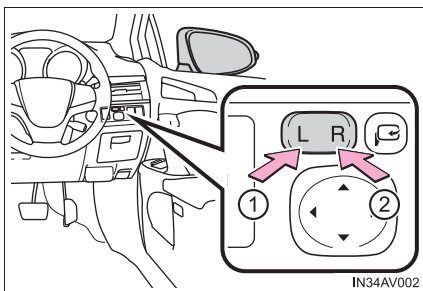
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

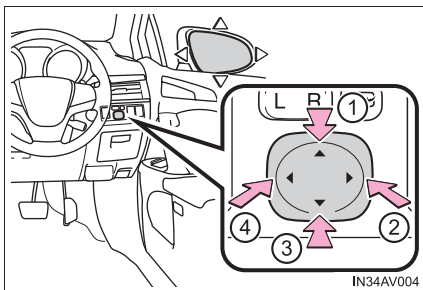
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

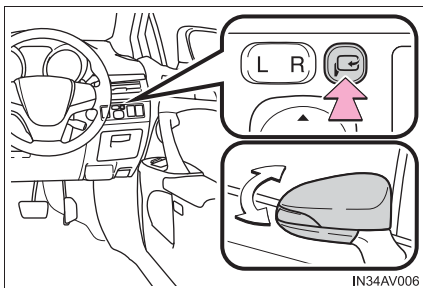
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウィンドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 195)

 警告

■ 走行しているとき

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

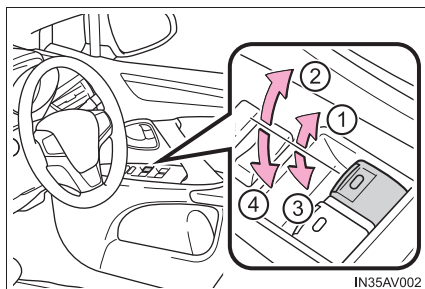
パワーウィンドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。
スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

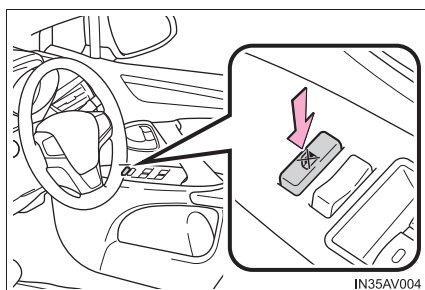
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだにフロントドアを開くと作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ ドアガラスを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。
 - 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける
 - 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける
 - 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

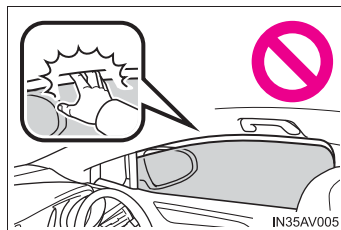
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	112
荷物を積むときの注意	121

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	123
トランスミッション	128
方向指示レバー	134
パーキングブレーキ	135

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	137
フォグランプスイッチ	142
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	143
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	146

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	148
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C ...	152
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	157
LDA（レーンディパーチャー アラート）	165
オートマチックハイビーム ...	172

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール	177
運転を補助する装置	181

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	187
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 123

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→ P. 128)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 135)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み
発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→ P. 135)
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。
(→ P. 128)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 シフトレバーを P にする (→ P. 128)
- 3 パーキングブレーキをかける (→ P. 135)
- 4 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

ヒルスタートアシストコントロールにより、車両の後退を緩和し、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→ P. 181)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき
- ブレーキペダルを踏んで急減速したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッド装着車について

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

● 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 268を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 131）

● 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

● すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ **シフトレバーを操作するとき**

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがP以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずシフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 289 を参照してください。

 注意**■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

 警告**■ 荷物を積むとき**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

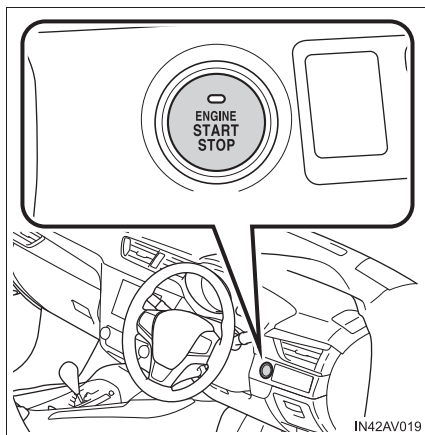
電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→ P. 135）
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。
- 4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間
スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまで、
ブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモードからで
もエンジンを始動できます。



エンジン停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 パーキングブレーキをかける（→ P. 135）
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてエンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

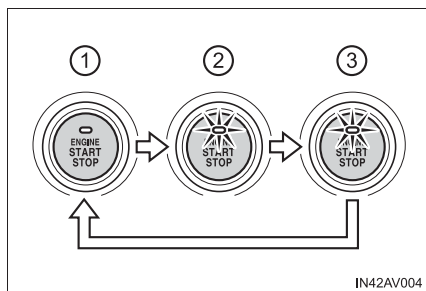
① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。



③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外の場合はアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- 4 エンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

 知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 77

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 94

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 95

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→ P. 61)

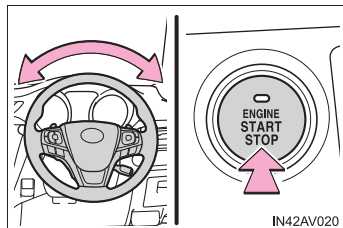
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、エンジンスイッチ上のインジケータが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら、再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチ上のインジケータが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 305

 警告**■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 268)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンスイッチのインジケーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。
エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

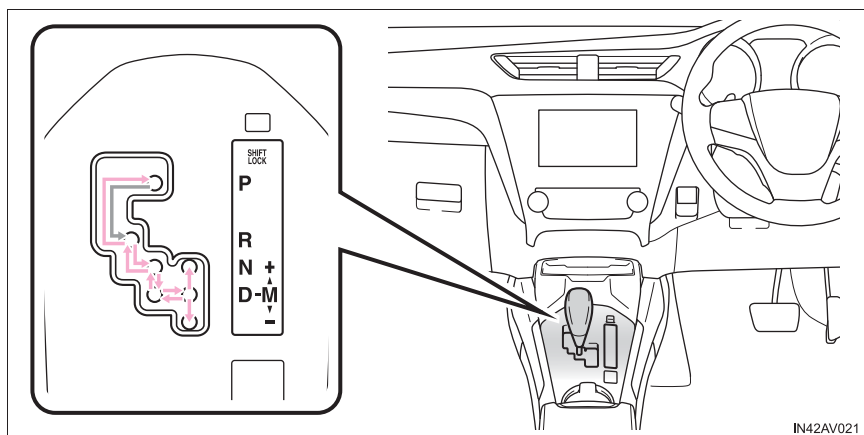
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



- ← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
M	7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→ P. 131) ※ ²

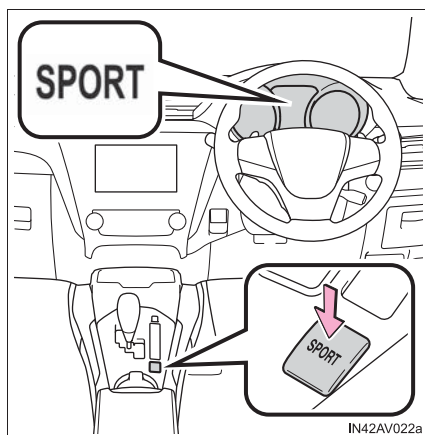
※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² M ポジションによる変速段選択により、加速力とエンジンブレーキを切り替えることができます。

走行モードの選択

スイッチを押すとスポーツモードになります。

メーター内のスポーツモード表示灯が点灯します。パワフルな運転や山間地などの走行に適しています。もう一度スイッチを押すと通常走行モードにもどります。



D ポジションでのシフトレンジ選択

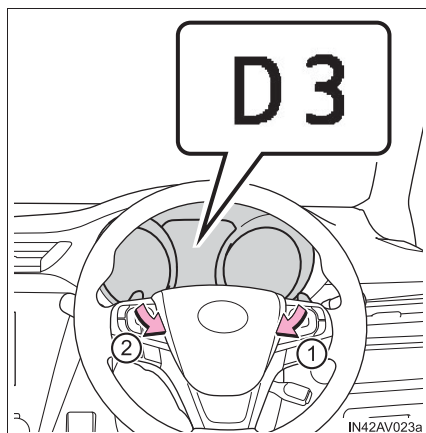
シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの“-”側を操作すると、一時的に変速段を選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、使用する変速段の上限を制限し、高速変速段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で変速段を選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1～7のあいだで選択されている変速段がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。



■ シフト機能

- エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、変速段の数字を小さくしてください。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

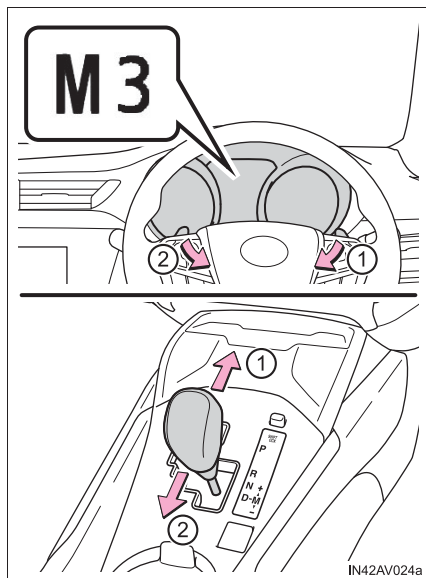
シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトの操作で思いどおりの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトの“-”側または“+”側の操作で変速段を切りかえることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに1速ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



変速段を選択して走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、現在の変速段から自動的に1段シフトアップ、またはシフトダウンされます。

■ シフト機能

- エンジンブレーキ力は、7段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、変速段の数字を小さくしてください。

 知識**■ M ポジションで走行中に停車したときは**

- 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- 停車後、走行するときは M1 からの発進となります。
- 停車後は M1 に固定されます。

■ 一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて

- パドルシフトを操作したときの初期レンジは、車速に応じて設定されます。
- 一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードは次の状態になると解除されます。
 - ・ パドルシフトのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき
 - ・ 車両停止状態のとき
 - ・ 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき★

エンジnbrakeを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールが解除されないためエンジnbrakeは効きません。

- D、7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードで走行中に6・5または4にシフトダウンしたとき（→P. 131）
- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P. 129）

■ スポーツモードの自動解除について

エンジンスイッチをOFFにすると、スポーツモードは解除されます。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーをPからシフトできないときは

→ P. 301

■ シフトレバーをMにしても、シフトポジション・シフトレンジ表示の“M”が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ G AI-SHIFT について

G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速段に切りかえます。

G AI-SHIFT は、シフトレバーをDポジションで走行モードをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（走行モードをノーマルモードにするか、シフトレバーをMポジションにすると機能が解除されます）

警告

■ すべりやすい路面では

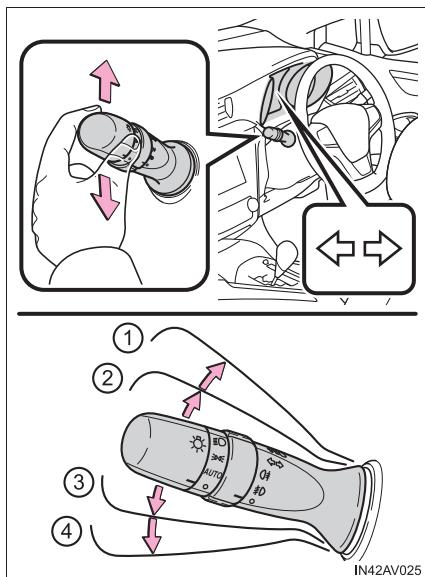
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジnbrake力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 右折
- ② 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ④ 左折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

- ① パーキングブレーキをかけるにはスイッチを押す

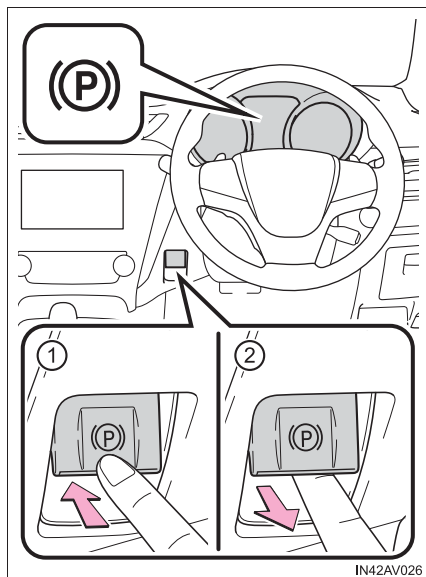
スイッチを押すと表示灯が点滅し、パーキングブレーキがかかると点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

- ② パーキングブレーキを解除するにはスイッチを引く

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。



知識

■ パーキングブレーキの解除について

エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外のときは、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ システムの過熱について

短時間に操作をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。しばらく操作を控えると、もとの状態にもどります。

■ システムに異常があるときは

電子制御ブレーキ警告灯が点灯または点滅します。（→ P. 277）

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 278

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 188

 警告**■ 駐車するとき**

- パーキング表示灯が点灯していることを確認してください。パーキングブレーキがかかっていないと車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。(→ P. 280)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキ解除ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。(→ P. 302)

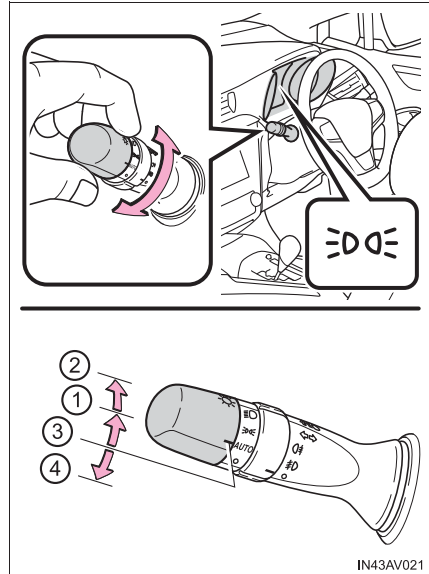
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

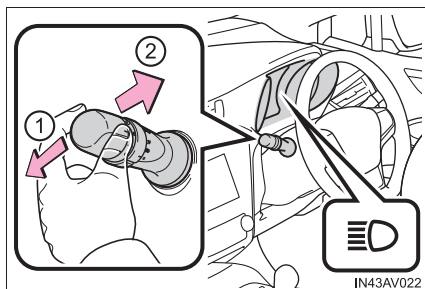
操作のしかた

- ①  車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- ②  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ③ **AUTO** ヘッドランプ・車幅灯などを同時に自動点灯・消灯（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）
- ④  消灯



ハイビームにする

- ① ランプ点灯時、ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



AFS (アダプティブフロントライティングシステム) ★

AFS は交差点やカーブの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

- ① 設定画面で「AFS」を選択してください。(→ P. 71)
- ②  を押してください。



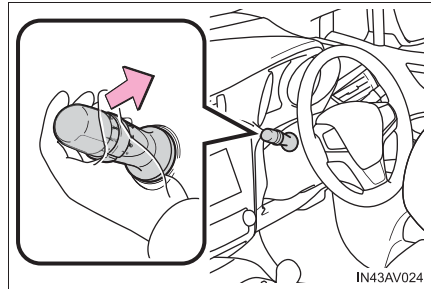
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォローミーホーム

フォローミーホームはエンジンスイッチを OFF にしたあとでも、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させておくことができる機能です。

エンジンスイッチを OFF にして、ランプスイッチを **AUTO**、または OFF にし、レバーを手前にひく

もう一度レバーを手前に引くと、消灯します。



コーナーリングランプ★

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナーリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき（左右両側のコーナーリングランプが点灯）

ただし、車速が 35km/h 以上の場合は、コーナーリングランプは点灯しません。コーナーリングランプは点灯した状態で車速が 40km/h を超えた場合、消灯します。

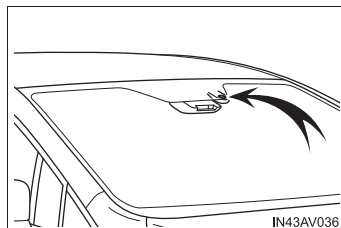
コーナーリングランプは点灯した状態で約 30 分間経過すると、自動で消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ライトセンサー

センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

- ランプスイッチが AUTO の位置にあるときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にすると、全てのランプが消灯します。
- ランプスイッチが  の位置にあるときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にすると、フロントフォグランプのみ消灯します。
- ランプスイッチが  の位置にあるときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にすると、ヘッドランプとフロントフォグランプが消灯します。

車幅灯や尾灯は約 20 分後に自動消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを  の位置にもどし、再度  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチがアクセサリモードまたは OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯★が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 322)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

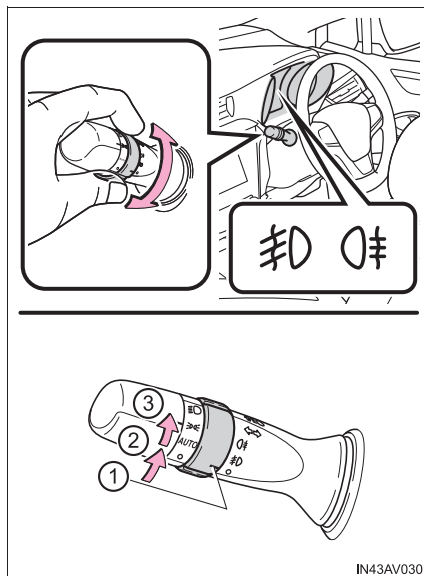
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

- ① ○ 消灯
- ② ㊦ フロントフォグランプが点灯
- ③ ㊧ フロント&リアフォグランプが点灯

手を離すと、㊦ の位置までもどります。
再度操作すると、リアフォグランプのみ消灯します。



IN43AV030

知識

■点灯条件

- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- リアフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リアフォグランプについて

- リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

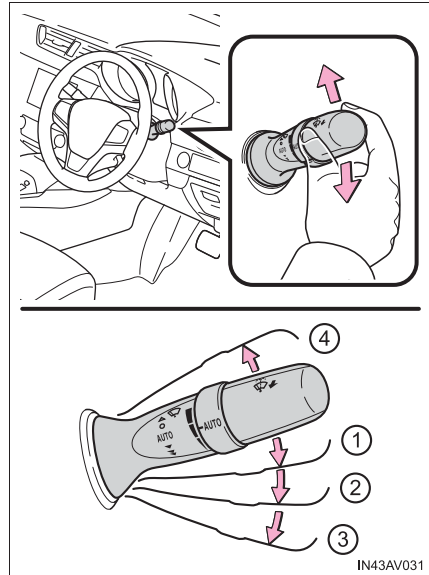
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

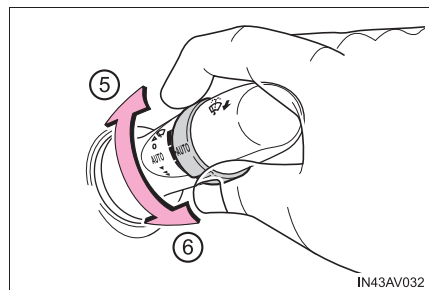
- ① 雨滴感知オート作動
- ② 低速作動
- ③ 高速作動
- ④ 一時作動

“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



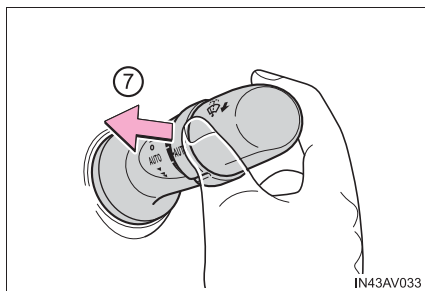
“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

- ⑤ 雨滴センサーの感度調整（高）
- ⑥ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑦ ウォッシャー液を出す

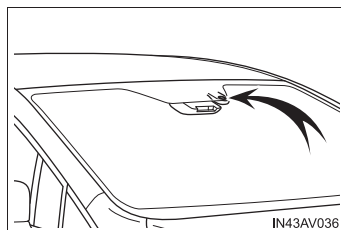
ワイパーが連動して作動します。

**知識****■ 作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 雨滴感知センサー

雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。



●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを“ AUTO ”にすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●ワイパースイッチを“ AUTO ”にしているとき、雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告**■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

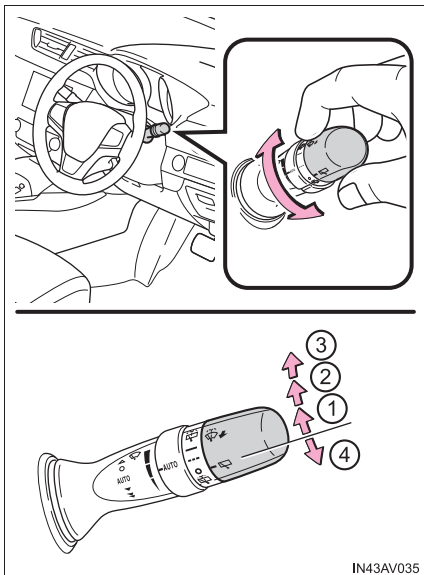
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① --- 間欠作動
- ② — 通常作動
- ③  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



IN43AV035

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

 警告**■ 給油について**

給油するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がある場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するときは**

指定のガソリンを使用してください。

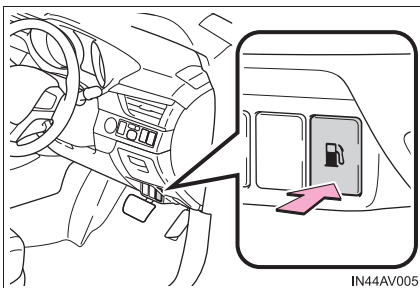
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

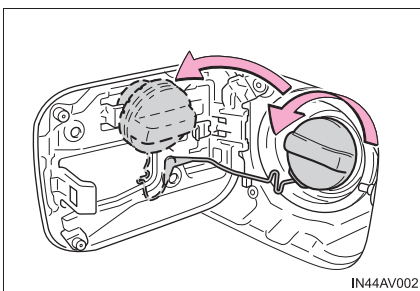
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

- 1** オープナーを押して、給油扉を開ける

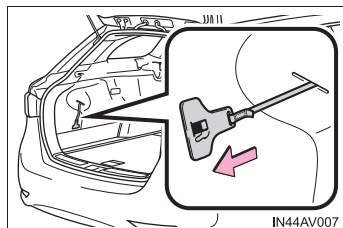


- 2** キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



知識

- 車内のスイッチで給油扉が開かないときは
緊急用レバーを車両後方に引いてください。
(横に引かないでください)



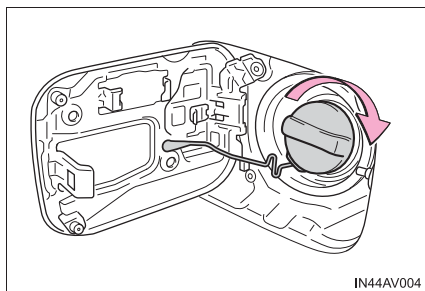
注意

- 緊急用レバーの損傷を防ぐために
- 必要以上の力で引かないでください。
 - 緊急時以外は使用しないでください。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

- キャップが正常に閉まらないとき
必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
- 正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 157

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 165

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 172

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

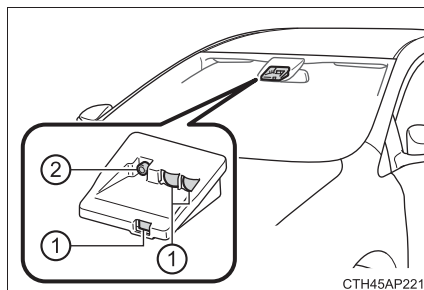
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 単眼カメラ



警告

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS
(MAGNIFIERS)**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平×垂直）：28° × 12°

⚠ 注意

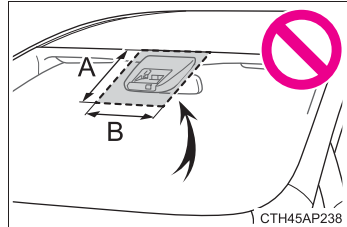
■ 前方センサーについて

前方センサーの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

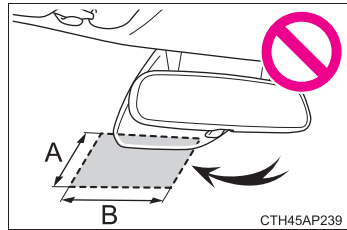
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



- フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



 注意

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。(→ P. 195)
- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしてください。また、前方センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。汚れていたり、油膜・水滴・雪などが付着したり、ふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
前方センサー取り付け部のフロントウインドウガラス内側が汚れた場合は、取り外さずトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。前方センサー前部を適切にふき取れない場合、性能が低下することがあります。
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。前方センサーのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- ダッシュボードに反射物を置かない

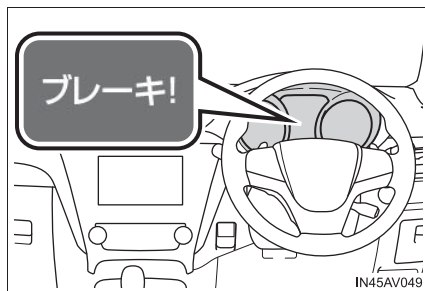
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更や ON / OFF を切りかえることができます。
(→ P. 158)

◆ 衝突警報

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

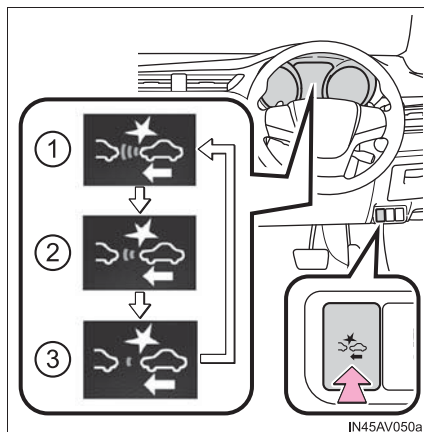
プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

- ① 遠い（タイミングが早くなる）
- ② 中間（初期設定）
- ③ 近い（タイミングが遅くなる）

PCS スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。



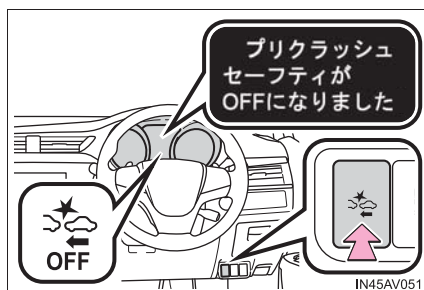
■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。



 知識

■ 作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方車両（オートバイ・自転車は除く）と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 車速約 15 ～ 140km/h
- ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 車速約 30 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 30m/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 車速約 10 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た前方車両との相対速度約 10km/h 以上

ブレーキペダルを踏んでいる場合は、ドライバーに回避操作の準備ができていると判断し、プリクラッシュブレーキの開始タイミングを遅らせる場合があります。

以下の操作中はドライバー操作を優先し、システムが作動しないことがあります。

- アクセルペダルを強く踏み込んでいるとき
- ハンドルを大きくきった、または素早く操作しているとき

以下の場合、システムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）
- PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- シフトポジションが R のとき

■ プリクラッシュブレーキの作動解除

- プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

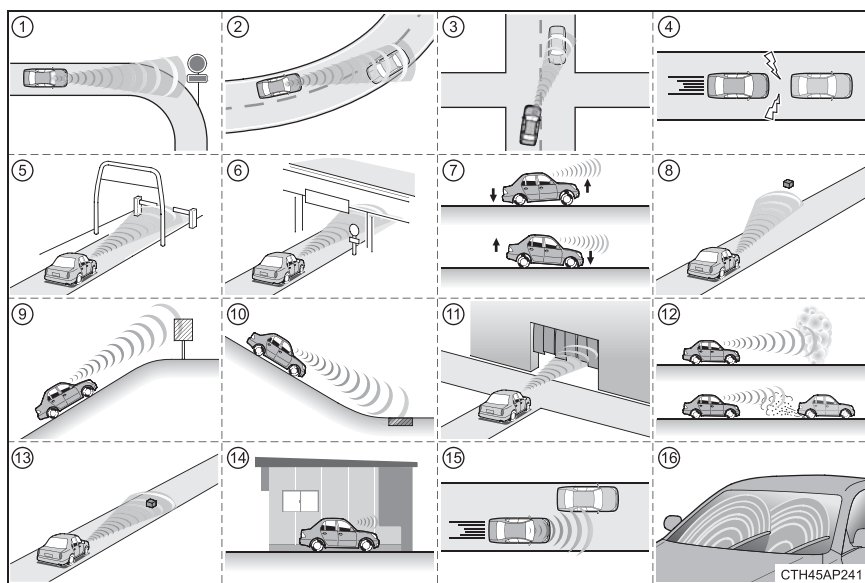
- ・ アクセルペダルを強く踏み込んだ*
- ・ ハンドルを大きくきった、またはすばやく操作した

※ 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

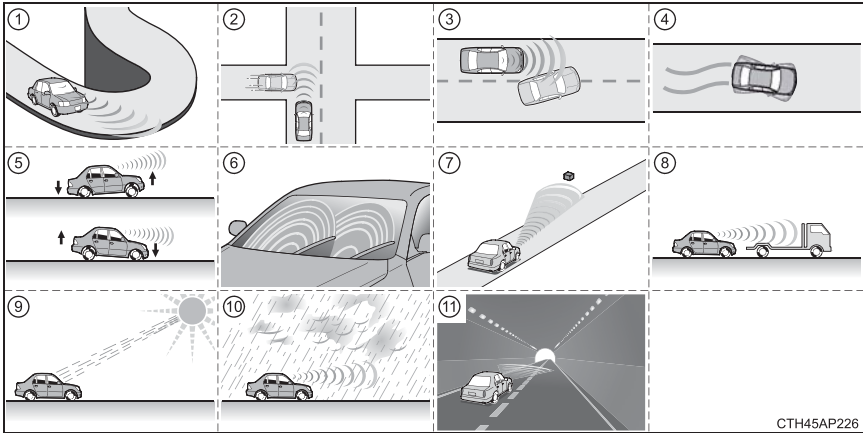


- ① カーブの入り口の道路脇に障害物（道路標識・ガードレールなど）があるとき
- ② カーブで対向車とすれ違ったとき
- ③ 右左折時に対向車とすれ違ったとき
- ④ 先行車に急速に接近したとき
- ⑤ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ⑥ 立体交差・道路標識・看板などが進行方向にあるとき
- ⑦ 車両姿勢が変化しているとき
- ⑧ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- ⑨ 上り坂で進行方向の道路上方に構造物（看板・街灯など）があるとき
- ⑩ 下り坂で進行方向の路面に金属物（マンホール・鉄板など）があるとき
- ⑪ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝など）があるとき
- ⑫ 濃い霧や煙などがある場所を通過するときや、先行車などから水・雪などの巻き上げがあるとき
- ⑬ 路面上に反射物・段差・突起物などがあるとき
- ⑭ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき
- ⑮ 障害物（停止車両・ガードレールなど）の横すれすれを通過するとき

- ⑯ フロントウインドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき

■ システムが正常に働かないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正しく作動しない場合があります。



- ① きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ② 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがあるとき
- ③ 自車の進行方向に急な割り込みがあるとき
- ④ 車が横すべりしているとき
- ⑤ 車両姿勢が変化しているとき
- ⑥ フロントウインドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき
- ⑦ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- ⑧ レーザー波を反射しにくい先行車（後ろ部分が極端に低い・ひどく汚れているなど）のとき
- ⑨ 前方からの強い光（太陽光・対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき
- ⑩ 雨・霧・雪・砂嵐など悪天候のとき
- ⑪ トンネル内や夜間など、周囲が暗いとき

■ PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（→ P. 195）
 - ・ ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられているとき
- PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ TRC と VSC を停止したとき

- TRC と VSC の作動を停止（→ P. 183）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 159）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、以下の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。
 - ・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 159）
 - ・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする（→ P. 158）
- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。また、プリクラッシュブレーキ作動終了後は、クリープ現象により車両が前進しますので、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

 警告**■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方車両を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方車両の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突の可能性が高いと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 注意**■ システムの誤作動を防ぐために**

次のときは、プリクラッシュセーフティシステムを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

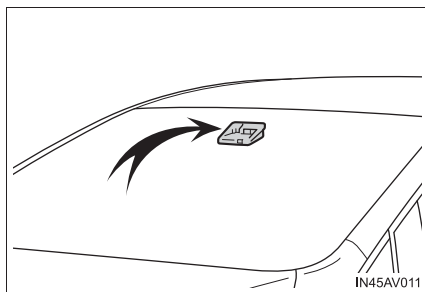
- 点検でシャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどに積載するとき
- 車両姿勢が変化しているとき(メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているときや、サスペンションを改造しているときなど)
- 車両けん引時

LDA (レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報)★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中に、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線から車両が逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告します。

前方センサー



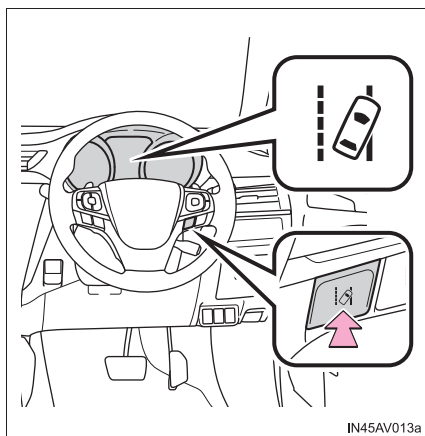
設定のしかた

LDA を使用するにはスイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が点灯します。

解除するには再度スイッチを押します。

LDA の ON/OFF 状態は、エンジンスイッチ OFF 後、再始動しても継続します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

作動条件

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 150m 以上）を走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

両側の白線表示内側が白いとき：
左右の白（黄）線が認識されている
ことを示しています。

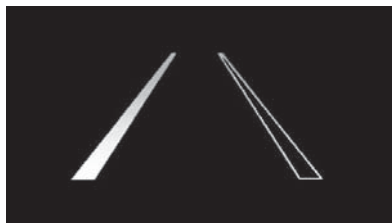
車両が車線から逸脱した場合、逸脱し
ている側の白線表示が橙色で点滅しま
す。（→ P. 283）



IN45AV057

片側の白線表示内側が白いとき：
左右いずれか一方の白（黄）線が認
識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車
両が逸脱した場合、その白線表示が橙
色で点滅します。（→ P. 283）



IN45AV058

両側の白線表示内側が黒いとき：
白（黄）線が認識されていない、ま
たは LDA が一時的に解除されてい
ることを示しています。



IN45AV059

 知識

■ 機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- 車線逸脱警報吹鳴直後

車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■ 車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンなどの音により、警報ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、警告メッセージ（→ P. 283）が表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 165）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがあります。故障ではありません。

- 料金所や検札所の手前や交差点を走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などのとき
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ウィンドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりするとき
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウィンドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。
- フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

■タイヤを交換したとき

タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA の警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 281)

■カスタマイズ機能

LDA のセンサー感度の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 322)

警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき

 注意**■ LDA の故障や誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けしないでください。

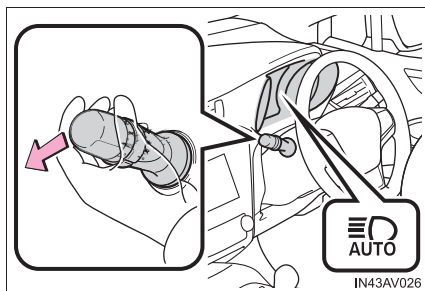
オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

オートマチックハイビームの使い方

ランプスイッチを **AUTO** にし、レバーを前方へ押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

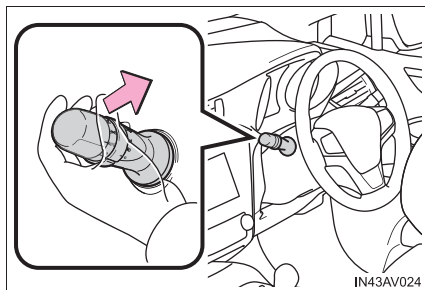
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

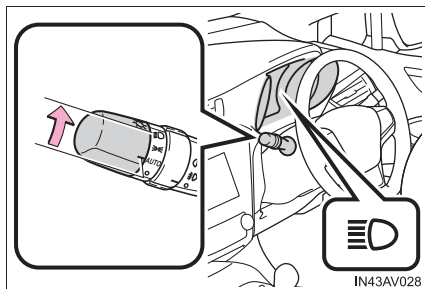
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。



■ ハイビームへの切りかえ

ランプスイッチを  にする

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

■ オートマチックハイビームの警告メッセージ

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P. 283）

警告

■ 安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■ オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

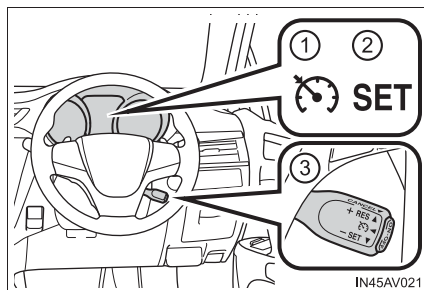
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

- ① クルーズコントロール表示灯
- ② クルーズコントロール
セット表示灯
- ③ クルーズコントロールスイッチ

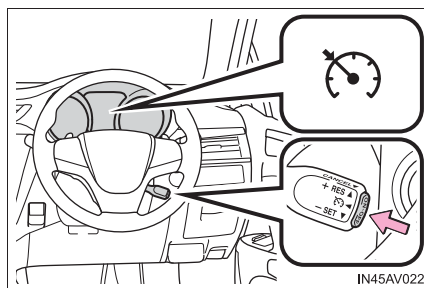


速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF には、再度スイッチを押します。



- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

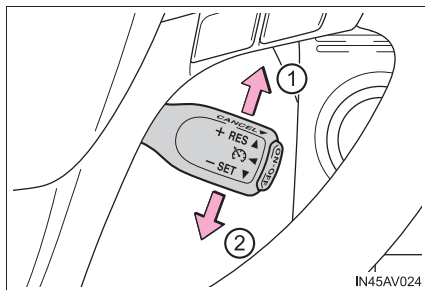
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作することにより約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

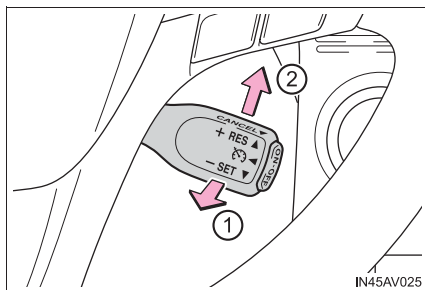
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- S-VSC が作動した

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

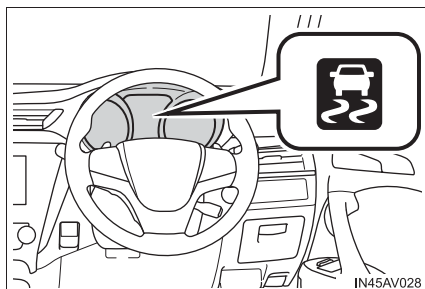
→ P. 157

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したときは、VSC・TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。



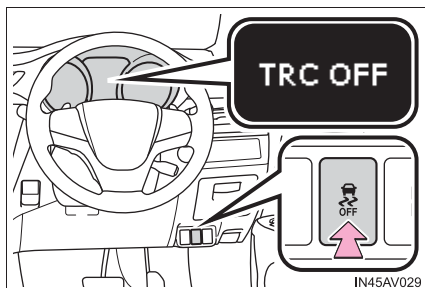
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRCとVSCを停止するには、停車時に  を押し3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※：PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→ P. 283)

■ TRC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
但し、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除します。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルを離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告**■ TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤ、またはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 236）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコン・デフォグガーの
使い方**

オートエアコン.....192

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....199

・メインスイッチ.....200

・パーソナルランプ/
インテリアランプ.....200**5-3. 収納装備の使い方**

収納装備一覧.....202

・グローブボックス.....203

・コンソールボックス.....204

・カップホルダー.....205

・ボトルホルダー.....206

・小物入れ.....208

ラゲージルーム内装備.....209

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....214

・サンバイザー.....214

・バニティミラー.....214

・アクセサリースOCKET.....215

・リヤアームレスト.....216

・ラゲージスルー.....217

・コートフック.....218

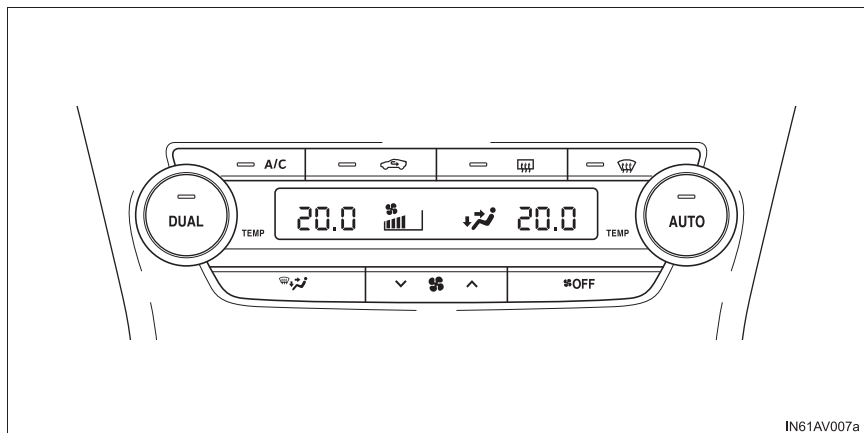
・アシストグリップ.....218

・ステアリングスイッチ.....219

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



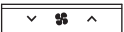
IN61AV007a

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右にまわし、下げるときは左にまわす。

運転席側と助手席側でそれぞれ独立した温度調整ができます。(→ P. 194)

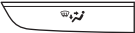
■ 風量を切りかえる

風量をかえるには、 の“^”(増)か“v”(減)を押します。

風量は 7 段階で表示されます。

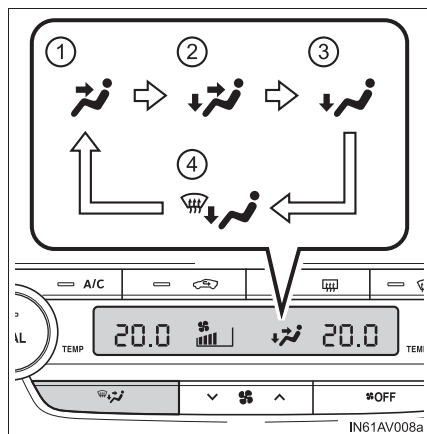
 を押すと停止します。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す。

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（P. 195）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（P. 195）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る（P. 195）

オート設定で使用する

- 1  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切り替えると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの  を押す
-  を左右いずれかにまわす（助手席の設定温度を変更する）

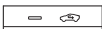
左右独立モードになり  の作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードに戻ります。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

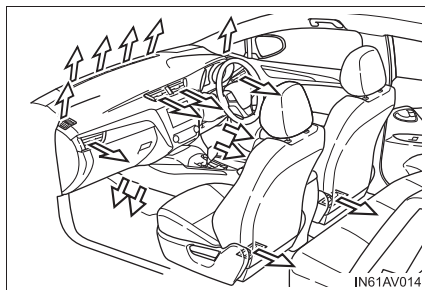
 を押す

リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

吹き出し口について

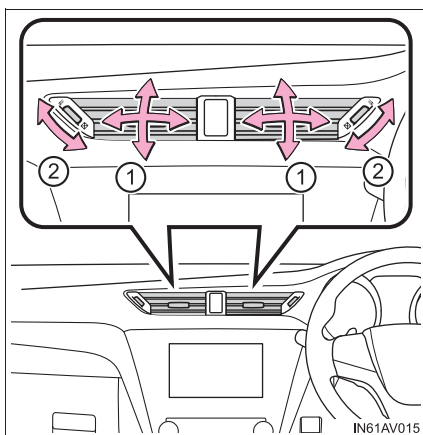
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



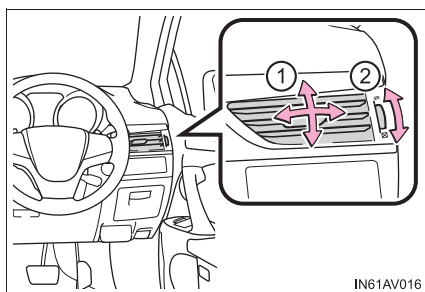
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

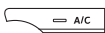


 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

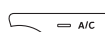
■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入／内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車室内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

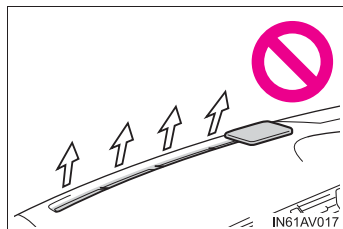
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 242

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

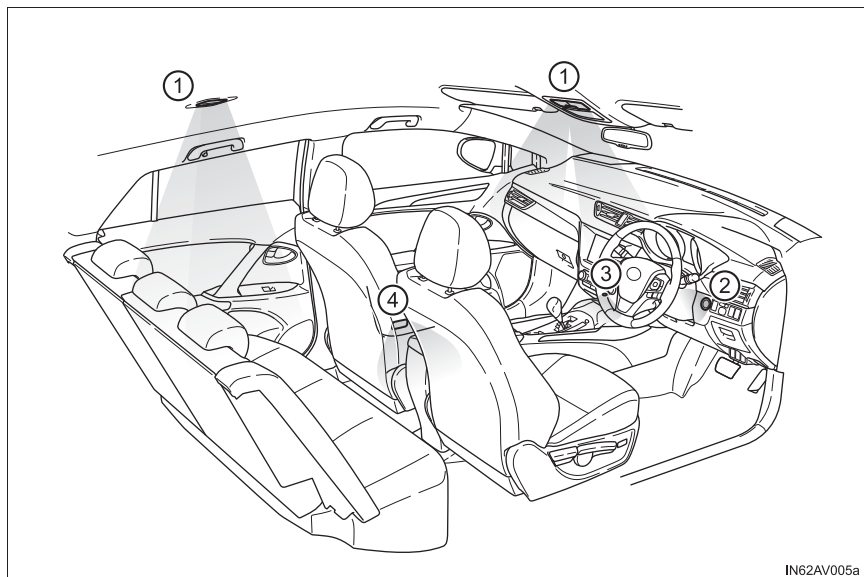
**■ ミラーヒーター作動中の警告**

ドアミラーの表面が熱くなります。やけどをするおそれがありますのでふれないでください。

⚠ 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

室内灯一覧



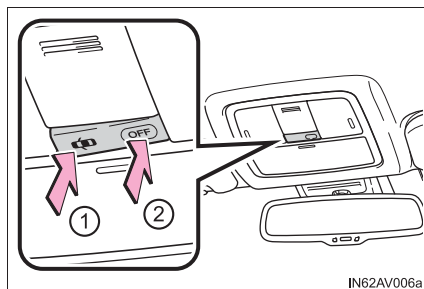
- ① パーソナルランプ (→ P. 200)
- ② エンジンスイッチ照明
- ③ トレイランプ
- ④ フロントドアカーテシランプ

メインスイッチ

① ドアポジション

ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

② OFF

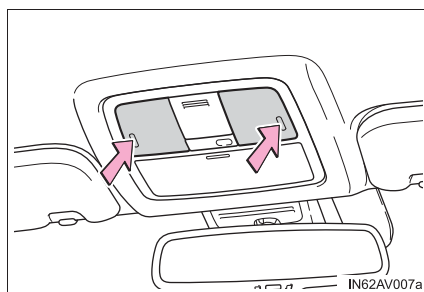


パーソナルランプ

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する

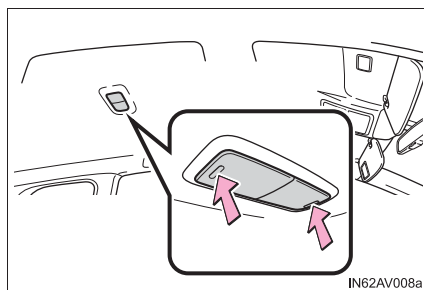
メインスイッチがドアポジションのときは、ドアの開閉によっても点灯・消灯します。



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

メインスイッチがドアポジションのときは、ドアの開閉によっても点灯・消灯します。



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 自動消灯機能

エンジンスイッチが OFF の場合、パーソナルランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

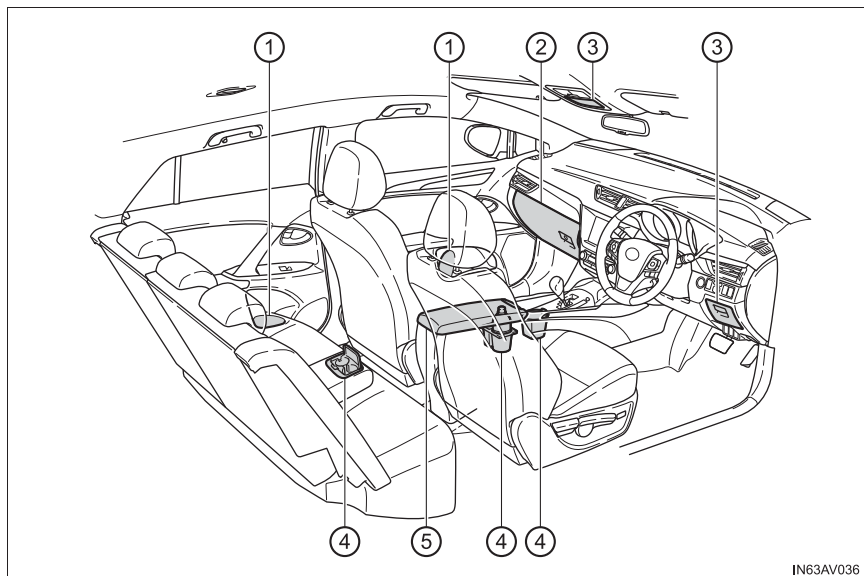
■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 322)

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



IN63AV036

- | | |
|------------|-------------|
| ① ボトルホルダー | ④ カップホルダー |
| ② グローブボックス | ⑤ コンソールボックス |
| ③ 小物入れ | |

⚠ 警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

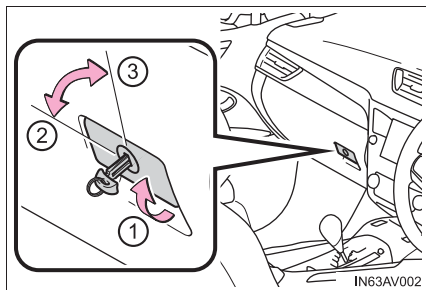
- ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

グローブボックスはレバーを引いて開けます。メカニカルキーを使用して施錠・解錠できます。

- ① 開ける
- ② 施錠
- ③ 解錠

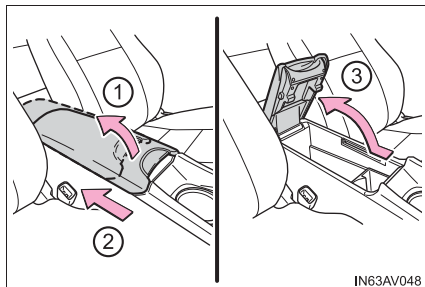


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

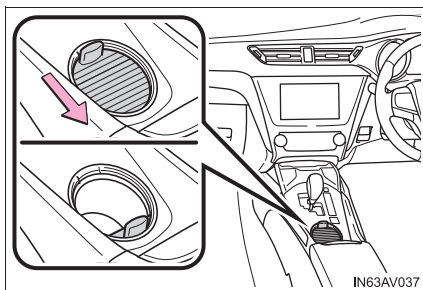
コンソールボックス

- ① レバーを引いてロックを解除する
- ② アームレストをスライドする
- ③ レバーを引いて、アームレストを持ち上げる

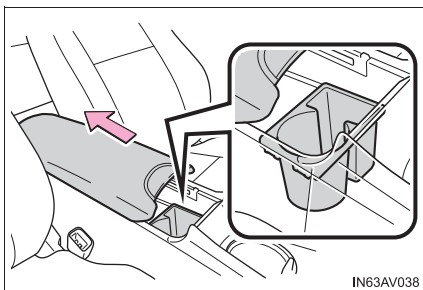


⚠ 警告

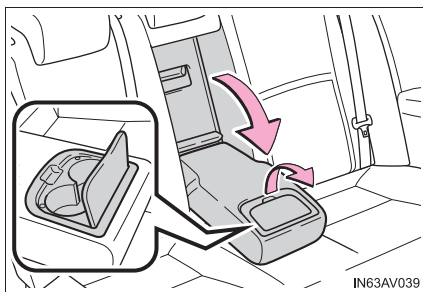
コンソールボックスのフタをうしろにスライドさせたときは、フタの後端部分に手をついたりしないでください。不意にフタが開き、けがをするおそれがあります。

カップホルダー／ボトルホルダー**■ カップホルダー****▶ フロント**

フタをスライドして開ける

▶ コンソール内

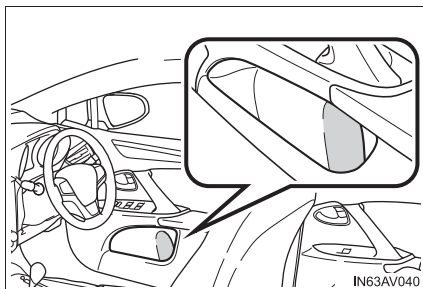
アームレストをスライドする

▶ リヤ

リヤアームレストを引き出し、フタを開ける

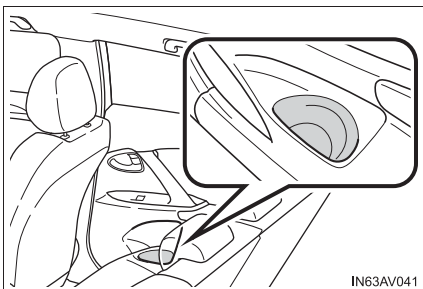
■ ボトルホルダー

▶ フロントドア



IN63AV040

▶ リヤドア

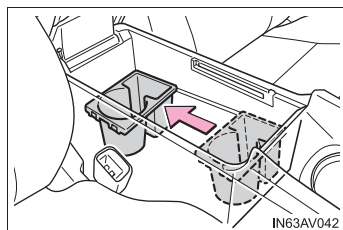


IN63AV041

☐ 知識

■ コンソール内カップホルダーについて

カップホルダーをスライドさせて位置を調整できます。



IN63AV042

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

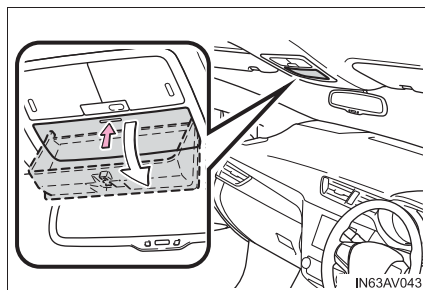
- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

 注意

- カップホルダーの破損を防ぐために、カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- カップホルダーの破損を防ぐために、リヤシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

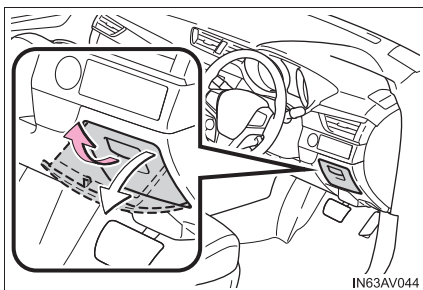
▶ オーバーヘッド部



フタを押して開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのには便利です。

▶ 運転席側インストルメントパネル部



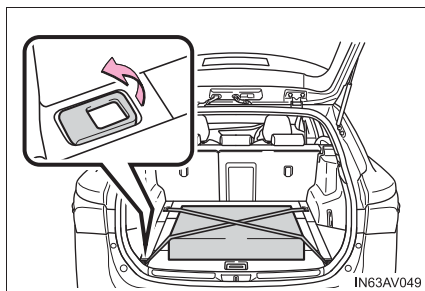
レバーを引いて開ける

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用してください。

フックを使って、荷物を固定することができます。



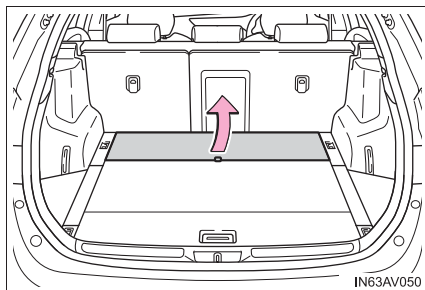
⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

デッキアンダートレイ

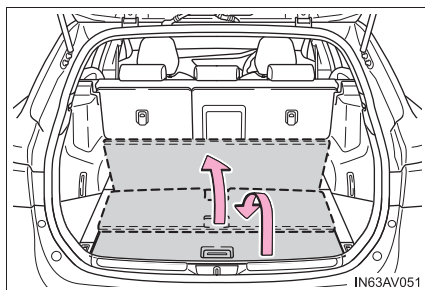
▶ 前部

前部デッキボードを持ち上げて開ける

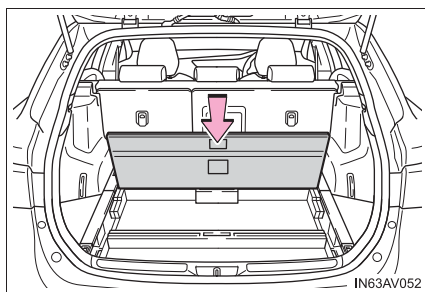


▶ 後部

- 1** レバーを引き上げて、後部デッキボードを持ち上げる

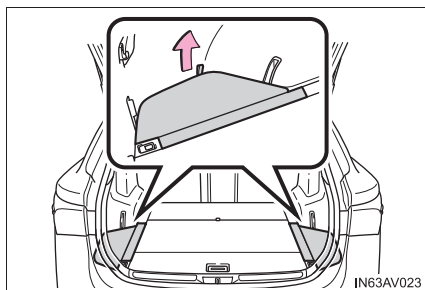


- 2** 後部デッキボードを押し込んで固定する



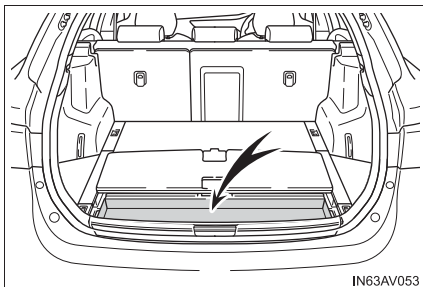
▶ 左右部

左右デッキボードをはずして開ける



三角表示板収納スペース

後部デッキアンダートレイに三角表示板を収納することができます。



知識

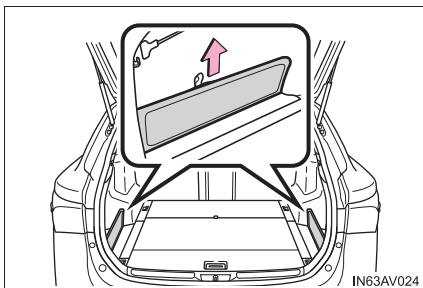
■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

デッキサイドボード

ラゲージルーム内の仕切りとして使用できます。

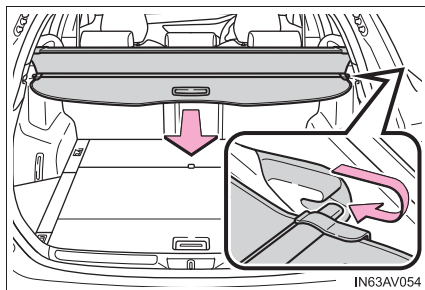
取りはずすときは、垂直に持ち上げ、取り付けるときは、溝に合わせて挿し込みます。



トノカバー

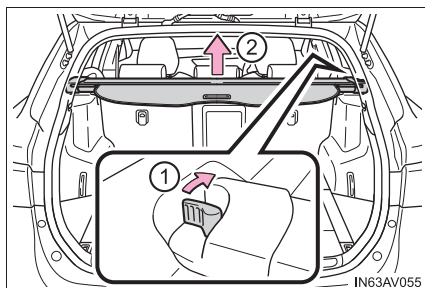
■ トノカバーを使うには

カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける



■ トノカバーを取りはずすには

- ① 解除レバーを押してロックを解除する
- ② 持ち上げる

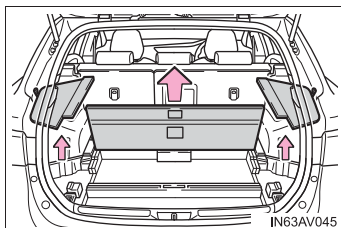


 知識

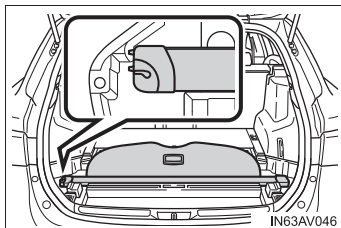
■ トノカバーを収納するには

1 デッキサイドボードを取りはずす (→P. 211)

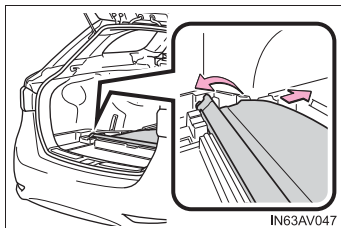
2 左右デッキボードを取りはずし、後部デッキボードを開ける



3 解除レバー側を左に向けて、デッキアンダートレイに収納する



4 トノカバーを傾け、カバー部を少し引き出す

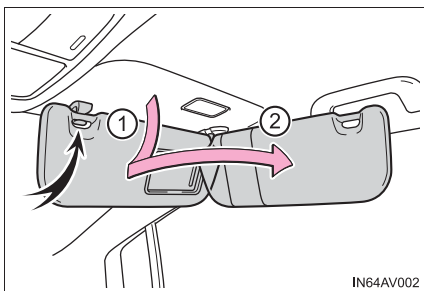
 警告

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

サンバイザー

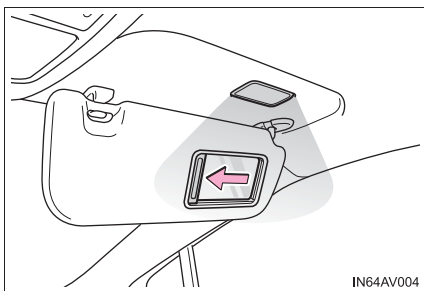
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける。

カバーを開けるとランプが点灯します。



知識

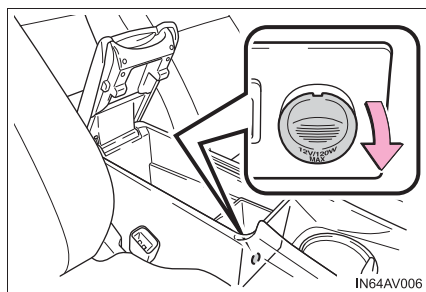
エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリースOCKET

DC12 V/10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。



知識

■使用条件

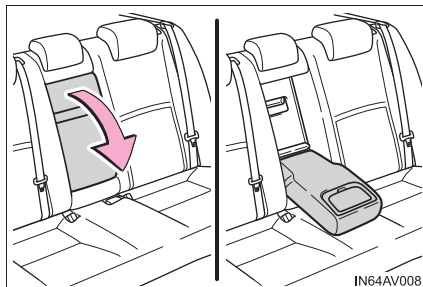
エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッションONモードのとき

⚠ 注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



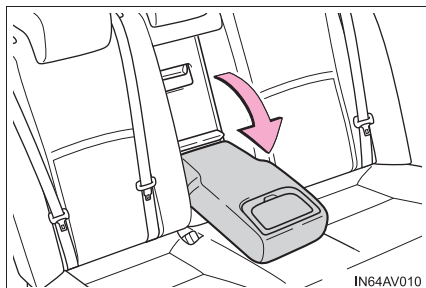
注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

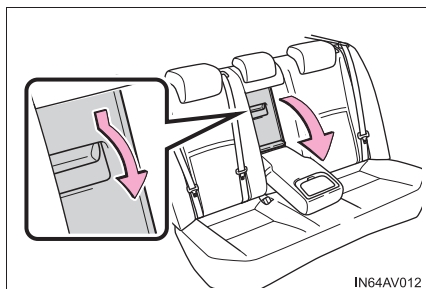
ラゲージスルー

ラゲージルームとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

- 1 リヤシートのアームレストを倒す



- 2 ノブを引いて開ける

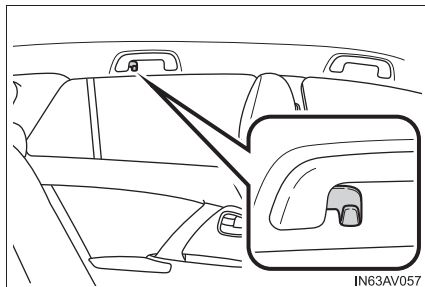


⚠ 警告

使用しないときは、ラゲージスルーを閉めておいてください。
急ブレーキをかけたときに収納していたものが客室に飛び出したり、けがを
するおそれがあります。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

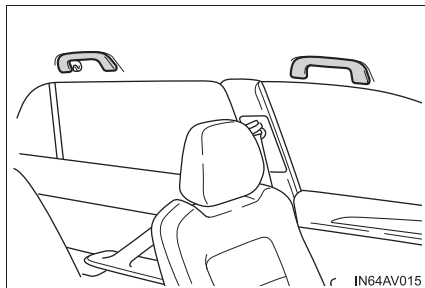


⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

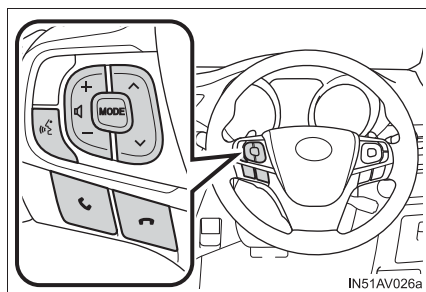
破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取り扱い説明書を参照してください。



お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....222

内装の手入れ.....226

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット229

ガレージジャッキ232

エンジンルームカバー233

ウォッシャー液の補給235

タイヤについて236

タイヤ空気圧について240

エアコンフィルターの交換 ...242

ワイパーゴムの交換244

キーの電池交換246

ヒューズの点検・交換248

電球（バルブ）の交換252

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- ワイパースイッチをAUTOモードにしているときは、洗車する前にOFFにしてください。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

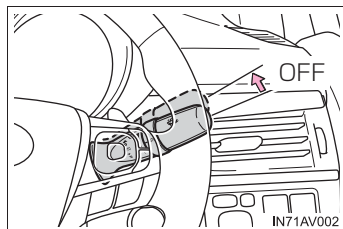
⚠ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**■ ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5 % に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1 % に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。

洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 30)

電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは(PCS[プリクラッシュセーフティシステム]・LDA[レーンディパーチャーアラート]・オートマチックハイビーム装着車)

前方センサー(→ P. 153)にさわらないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、PCS・LDA・オートマチックハイビームの誤作動や故障につながるおそれがあります。

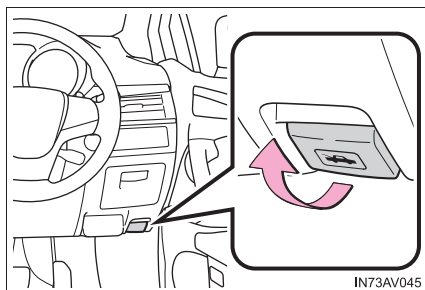
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

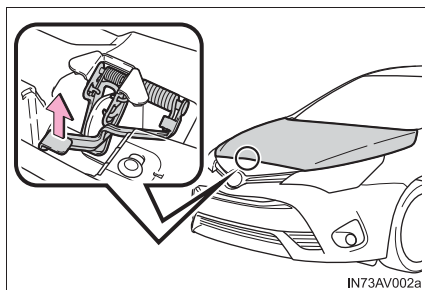
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

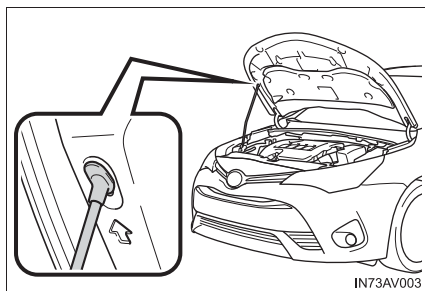
- 1** ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2** レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3** ボンネットステーをステー穴に挿し込む



 知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーを交換するときは

この車は欧州車用バッテリーを搭載しています。
欧州車用以外のバッテリーを使用すると、バッテリーランプが正しく取り付けられず、使用できません。バッテリー交換を行うときは、純正品と同等の欧州車用バッテリーを使用してください。

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットステーを使用するときは

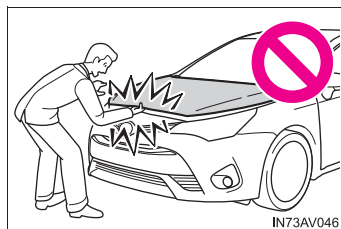
ボンネットステーが確実にステー穴に挿し込まれているか確認してください。
確実に挿し込まれていないと、ボンネットが落下し重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告**■ エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットステーの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、ボンネットステーが確実にもとの位置に固定されているか確認してください。固定されずにボンネットを閉めると、ステーが曲がるおそれがあります。

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

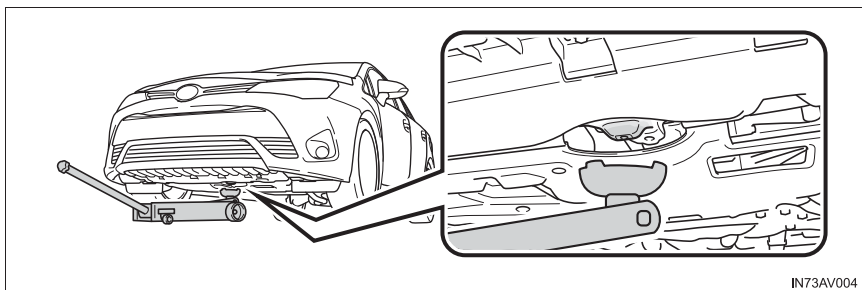
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

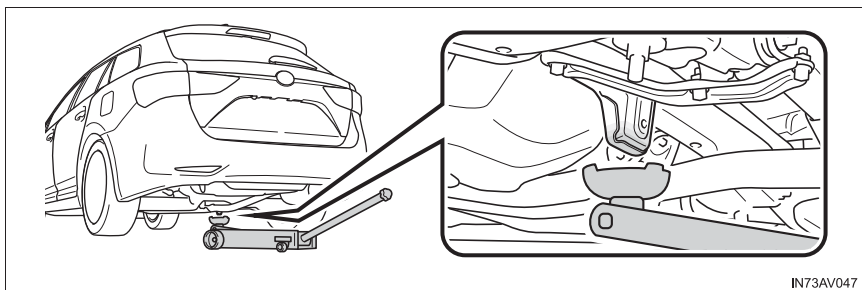
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



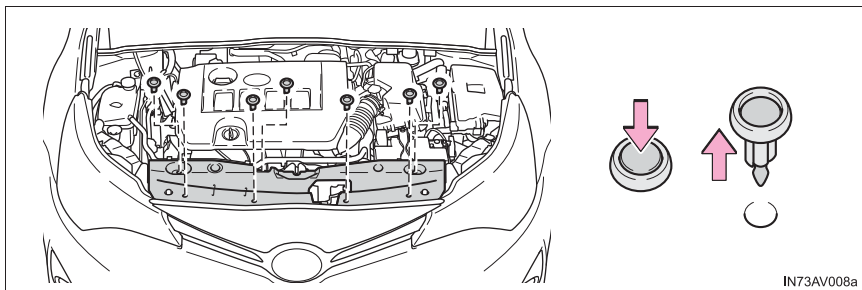
■ リヤ側



エンジンルームカバー

ヒューズや電球(バルブ)の点検・交換などを行うときに取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方



① 中央部分を押す

② 引き抜く

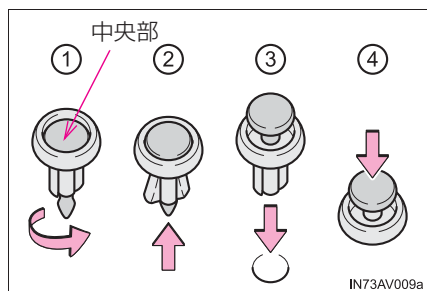
クリップの取り付け方

① 中央部をまわす

② 中央部を押し上げる

③ クリップを挿し込む

④ 中央部を押す



 警告**■ けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

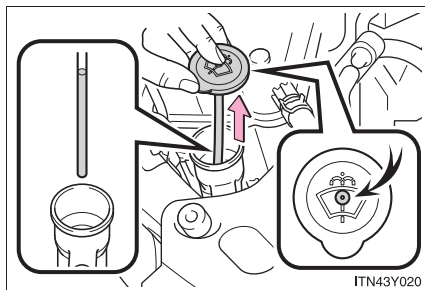
 注意**■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補給

液面が低下したら、ウォッシャー液を補給する

キャップの中央部を指で押さえ、まっすぐに引き上げて、チューブの液面を確認します。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

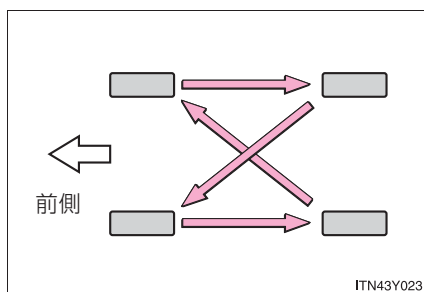
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



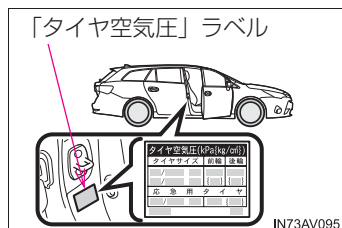
知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ：

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm ²)]	
	前輪	後輪
205/60R16 92V	240(2.4)	220(2.2)
215/55R17 94W	240(2.4)	230(2.3)



応急用タイヤ：420 kPa（4.2 kg/cm²）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

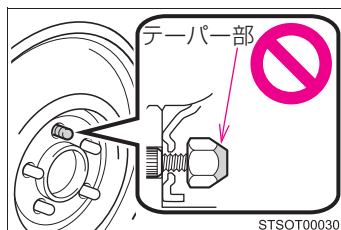
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。

テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→P. 320)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
- タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

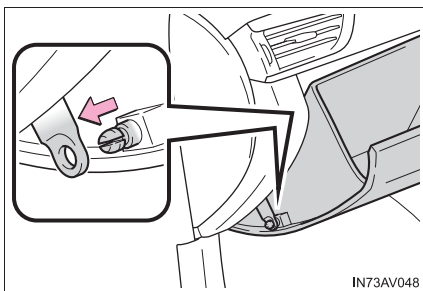
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

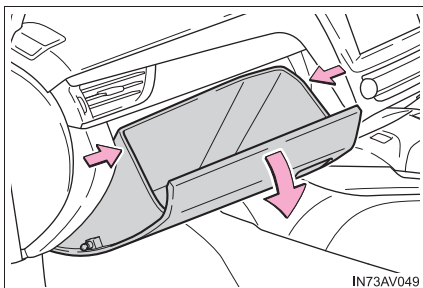
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

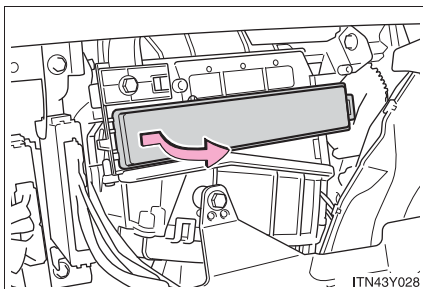
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開け、ダンパーをはずす



- 3 グローブボックスを左右から押してツメをはずし、取りはずす

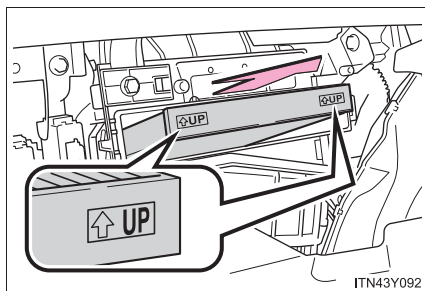


- 4 フィルターカバーを取りはずす



- 5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

交換：20,000km [10,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

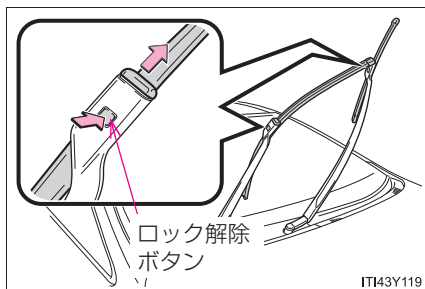
フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

ワイパーゴムの交換

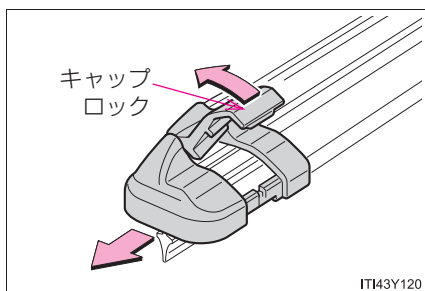
以下の手順に従ってワイパーゴムを交換してください。

▶ フロントワイパー

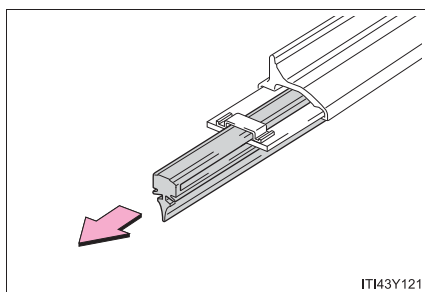
- 1 ワイパーを立てた状態で、ワイパーブレードのロック解除ボタンを押し、ワイパーブレードを取りはずす



- 2 ワイパーブレード先端のキャップロックを解除し、キャップを取りはずす



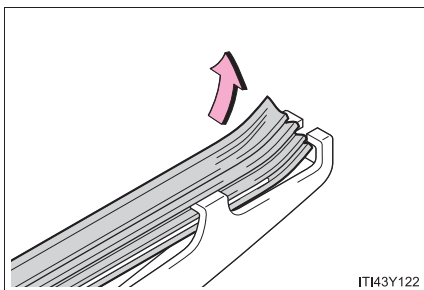
- 3 ワイパーゴムを抜き取り、新品のゴムと交換する



- 4 取り付けるときは、取りはずすときと逆の手順で取り付ける

▶ リヤワイパー

- 1 ワイパーを立てた状態で、ワイパーゴムを抜き取り、新品のゴムと交換する



- 2 取り付けるときは、取りはずすときと逆の手順で取り付ける

キーの電池交換

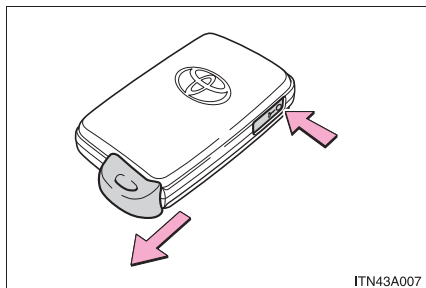
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

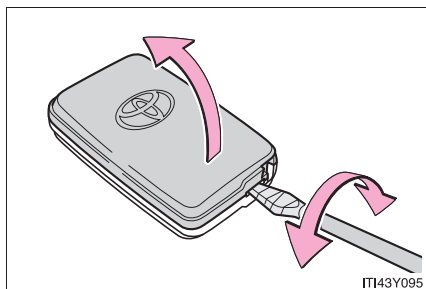
- マイナスドライバー
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。
- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池 CR 1632

電池交換のしかた

- 1 メカニカルキーを抜く

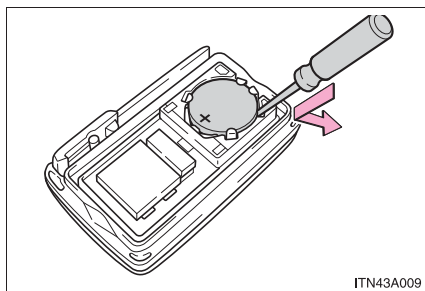


- 2 カバーをはずす



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

**知識****■電池が消耗していると**

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステムが作動しない
- 作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR 1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告**■取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

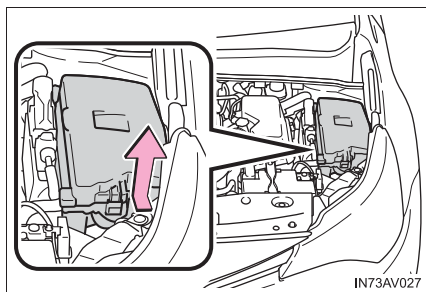
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

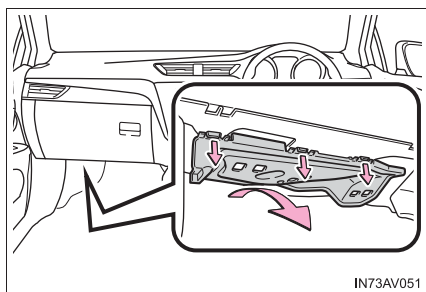
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

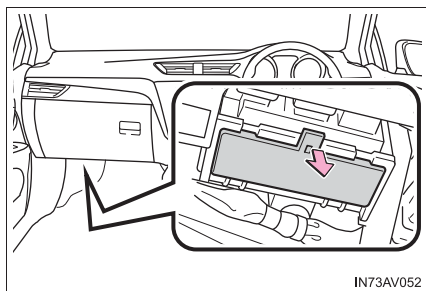


▶ 助手席足元

グローブボックス下カバーを取りはずす

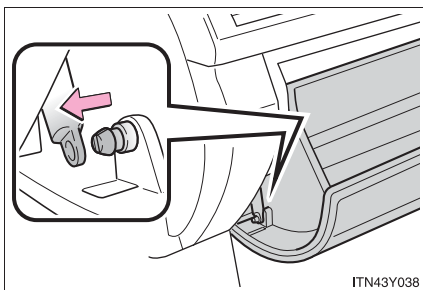


ヒューズボックスカバーを取りはずす

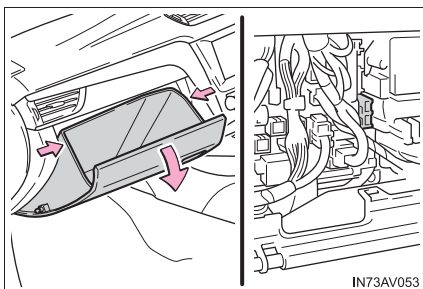


▶ グローブボックス後方

グローブボックスを開け、ダンパー
をはずす



グローブボックスを左右から押し
て、ツメをはずし、取りはずす

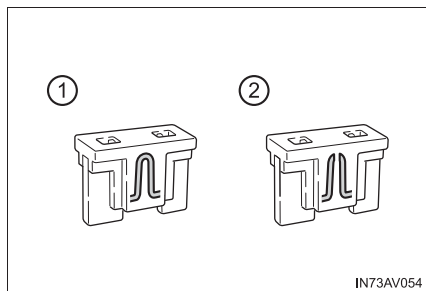
**3** ヒューズはずしを取りはずす

- 4 ヒューズはずしを使用して、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 252)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

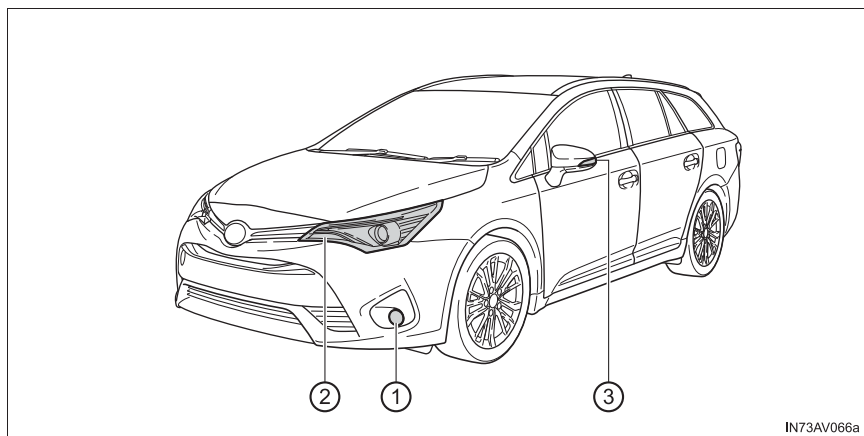
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 321）

エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 233

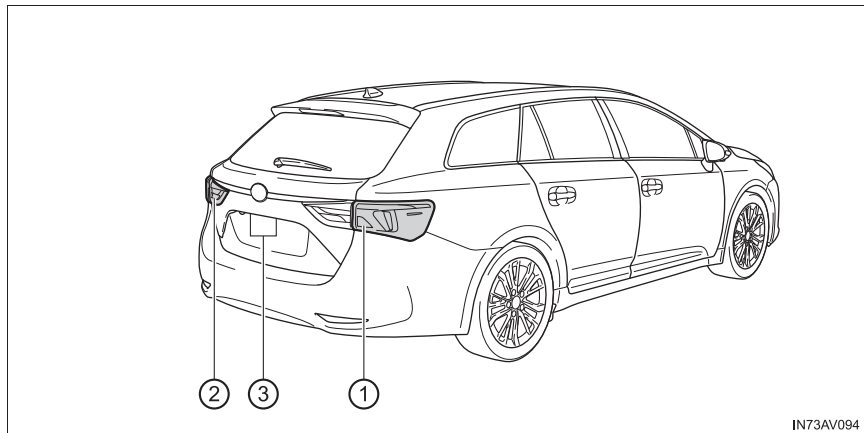
フロントのバルブ位置



- ① フロントフォグランプ★
コーナリング／フォグランプ★
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ③ サイド方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤのバルブ位置



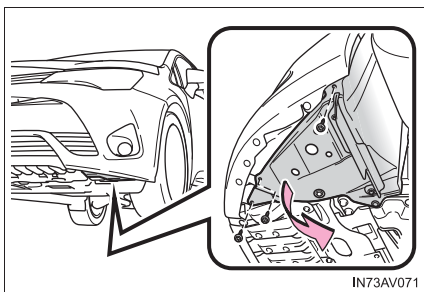
IN73AV094

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

電球交換のしかた

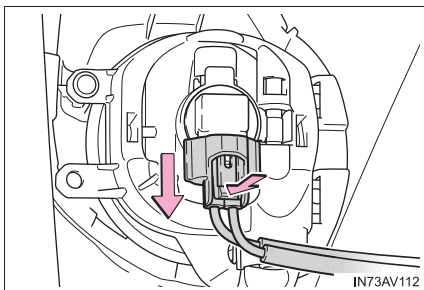
■ フロントフォグランプ★

- 1 ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる



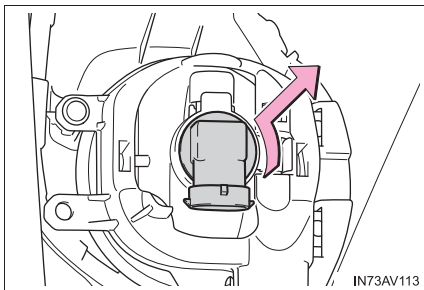
IN73AV071

- 2 コネクターを引き抜く

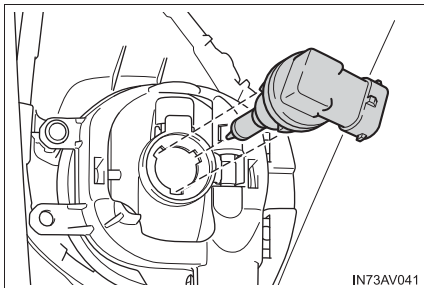
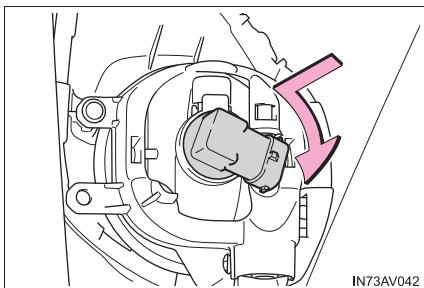


IN73AV112

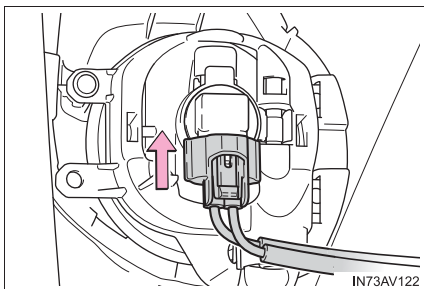
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 電球を取りはずす**4** 電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。

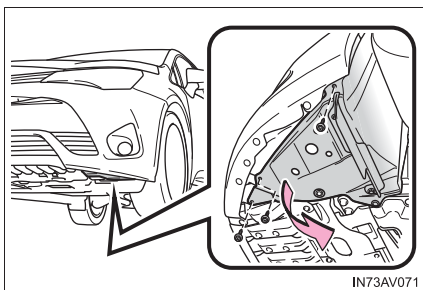
**5** 電球をまわして固定する**6** コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

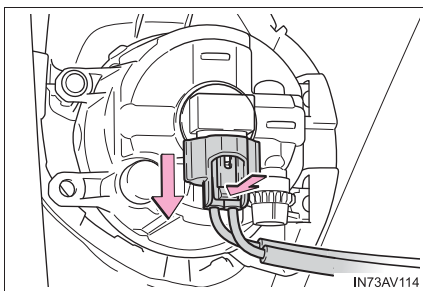
**7** フェンダーライナーをもとにもどし、ボルトを取り付ける

■ コーナリング／フォグランプ★

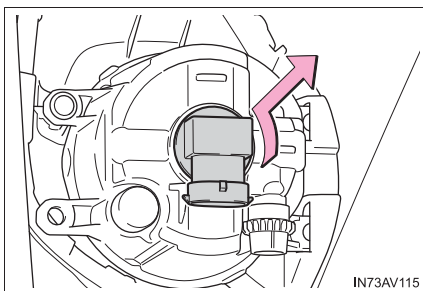
- 1 ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる



- 2 コネクターを引き抜く

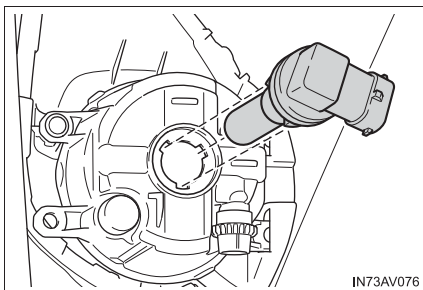


- 3 電球を取りはずす



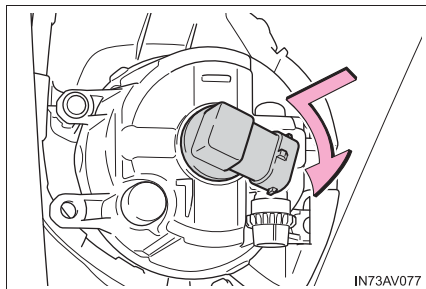
- 4 電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

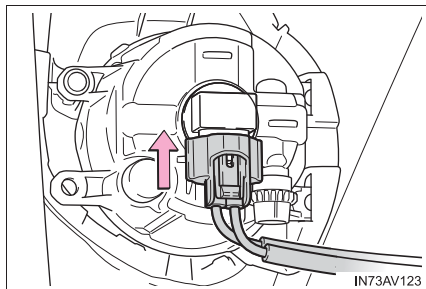
5 電球をまわして固定する



IN73AV077

6 コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんコーナリング／フォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

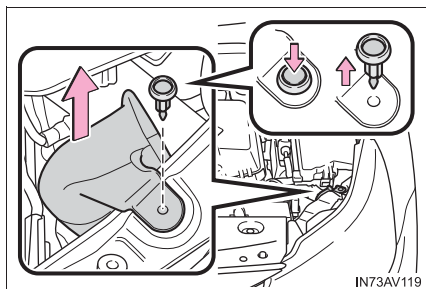


IN73AV123

7 フェンダーライナーをもとにもどし、ボルトを取り付ける

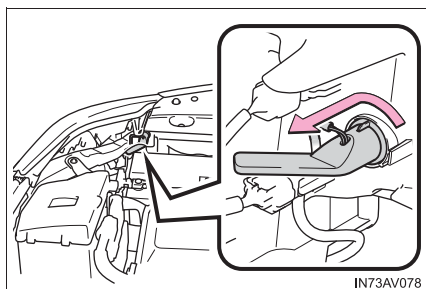
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 助手席側のエアクリーナーダクト上部のクリップを取りはずし、エアクリーナーダクトをずらす

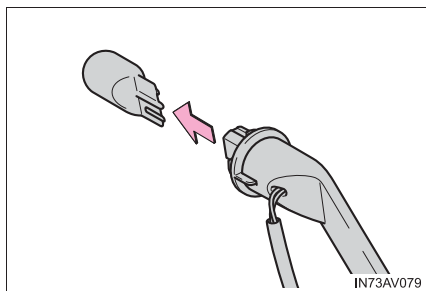
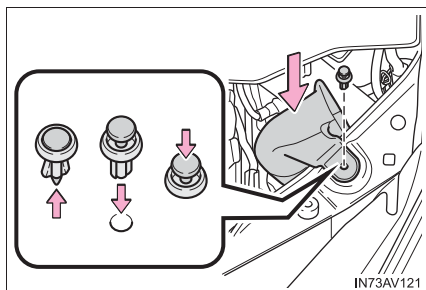


IN73AV119

2 ソケットを取りはずす

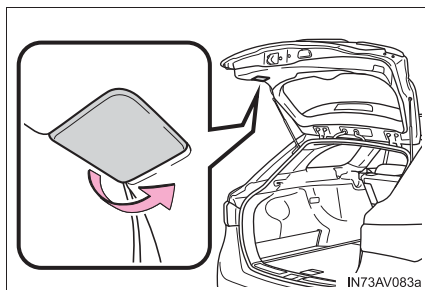


IN73AV078

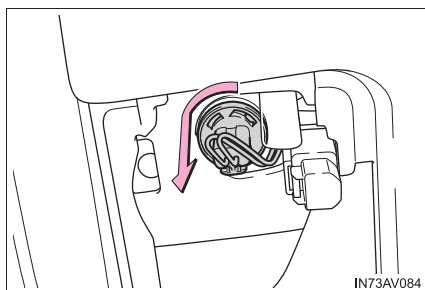
3 電球を取りはずす**4** 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける**5** エアクリーナーダクトとクリップをもとどおり取り付け

■ 後退灯

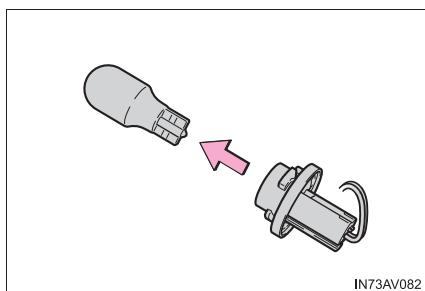
- 1 バックドアを開けて、カバーを取りはずす



- 2 ソケットを取りはずす



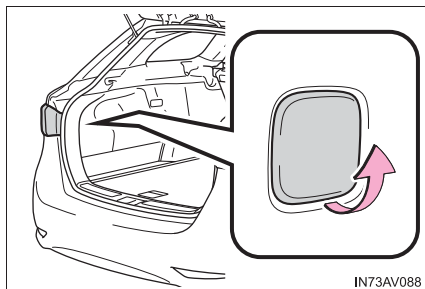
- 3 電球を取りはずす



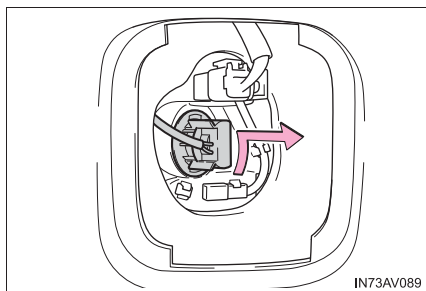
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

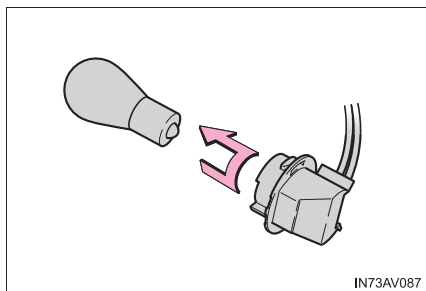
- 1 バックドアを開けて、カバーを取りはずす



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



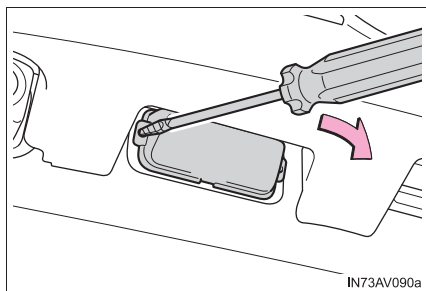
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

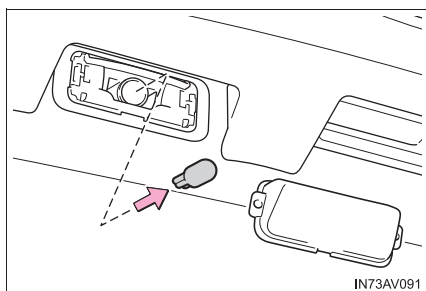
1 カバーを取りはずす

カバーの穴に小さいドライバーなどを挿し込み図のように動かすと、カバーの片側がういてカバーがはずれます。

傷付きを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



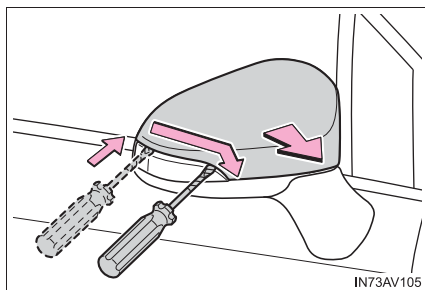
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯

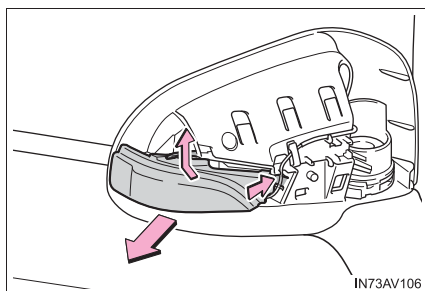
- 1** ドアミラーのカバーを取りはずす

ドライバーを差し込んで、ランプに沿って滑らせます。

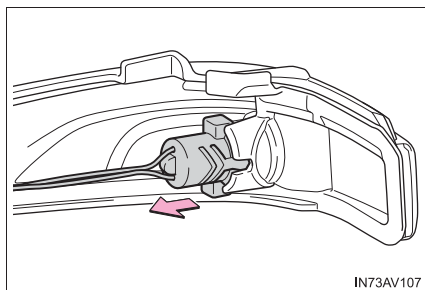
カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



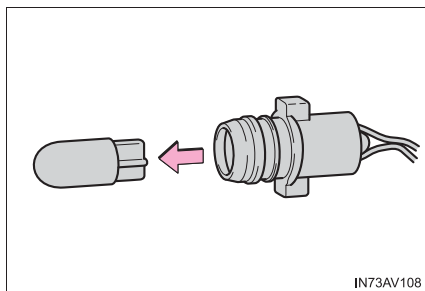
- 2** 2つのクリップを押して、取り付け位置からランプを外す



- 3** ソケットを取りはずす

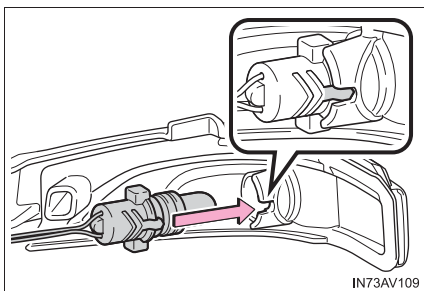


- 4** 電球を取りはずす

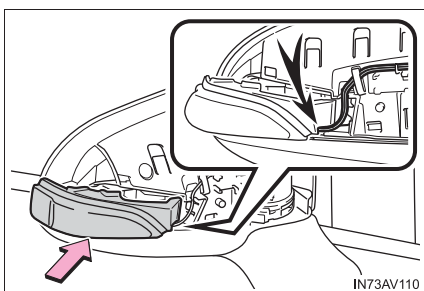


- 5 電球を交換し、ソケットをランプ本体に取り付ける

ソケットのツメと本体の溝を合わせてください。

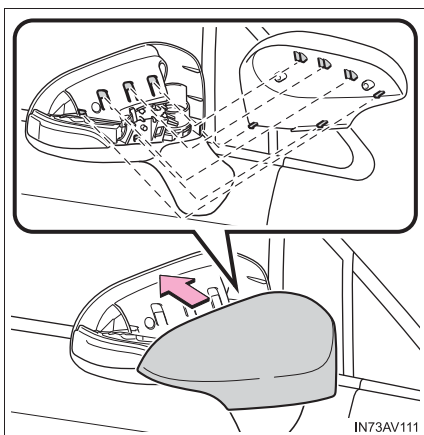


- 6 ランプの下にコードがあるので、フックにかけて固定する



- 7 6 つのツメを合わせてドアミラーのカバーを戻す

カチッと音がしてカバーが固定されたことを確認してください。



■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- リヤフォグランプ
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

 知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ LED ランプについて

ヘッドランプ・車幅灯・リヤフォグランプ・制動灯・尾灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	264
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	265
発炎筒.....	266
車両を緊急停止するには.....	268

7-2. 緊急時の対処法

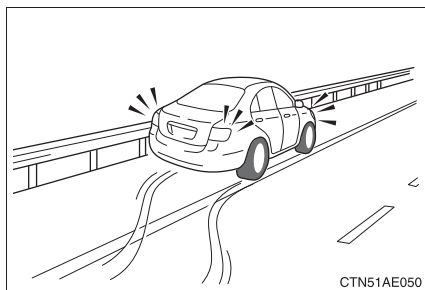
けん引について.....	269
フューエルポンプ シャットオフシステム.....	276
警告灯がついたときは.....	277
警告メッセージが 表示されたときは.....	280
パンクしたときは.....	289
エンジンが かからないときは.....	299
シフトレバーが シフトできないときは.....	301
パーキングブレーキが 解除できないときは.....	302
電子キーが正常に 働かないときは.....	305
バッテリーが あがったときは.....	307
オーバーヒートした ときは.....	310
スタックしたときは.....	313

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

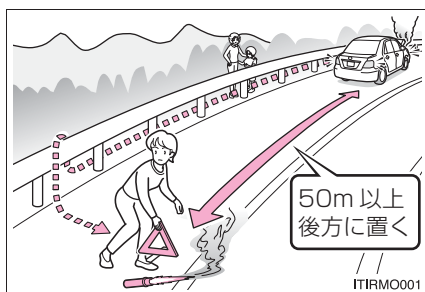
非常点滅灯（→P. 265）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

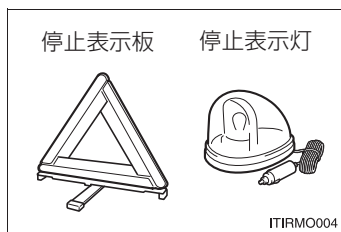
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 266）と停止表示板を置く
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

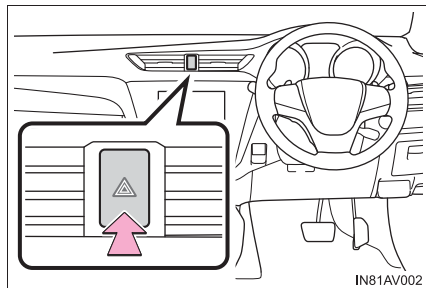


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

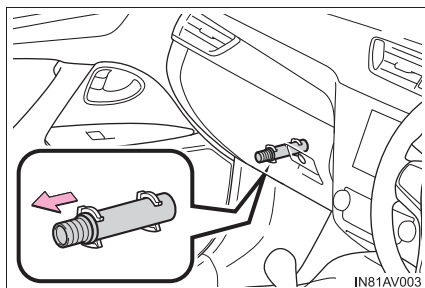
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

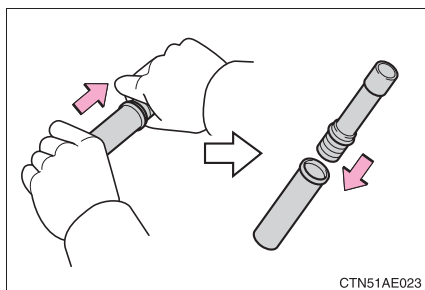
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

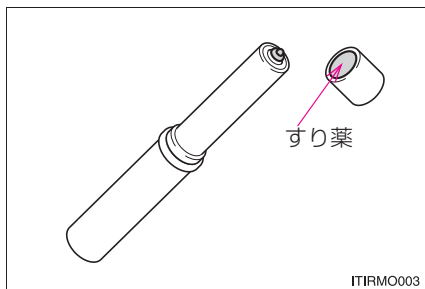


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

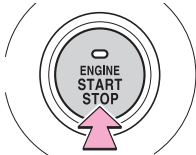
■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
 - 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
 - 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する
- 

2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTY52AD216
- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

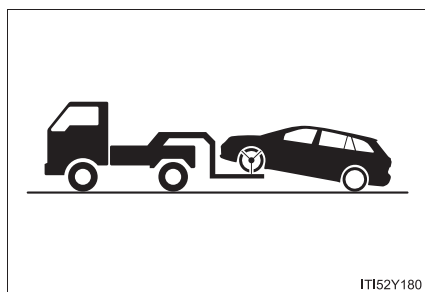
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

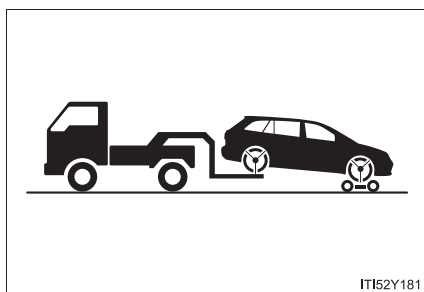
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

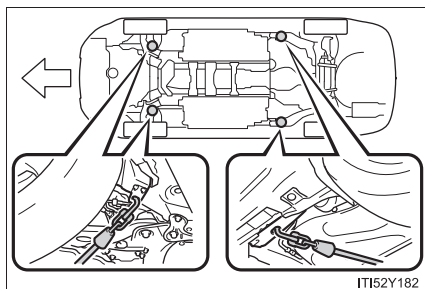
▶ うしろ向きにけん引するときは



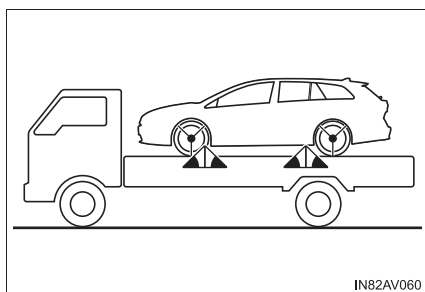
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する

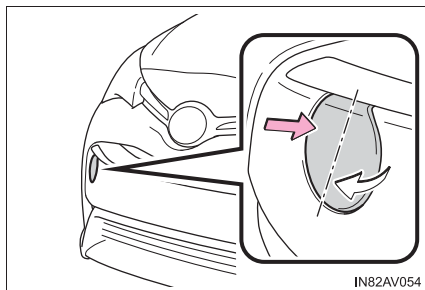


鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する

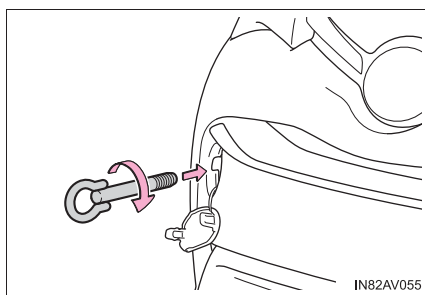


他車にけん引してもらおうとき

- 1 けん引フックを取り出す (→P. 290)
- 2 フタの外側を押してからフタをはずす

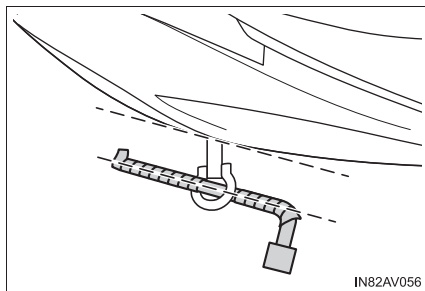


- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

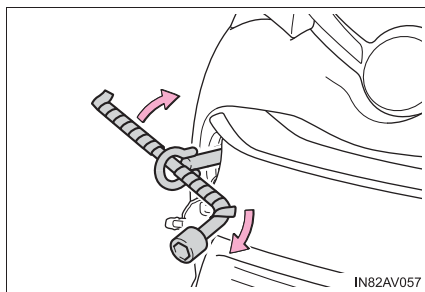


- 4 けん引フックに、ホイールナットレンチや金属の固い棒などをバンパーと平行に差し込む

傷がつくのを防ぐため、ホイールナットレンチや金属の固い棒に布などを巻いて保護してください。



- 5 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



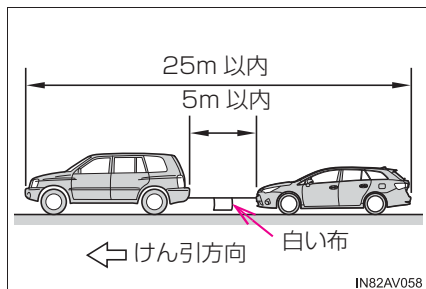
6 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

7 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

**8** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

9 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 301

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

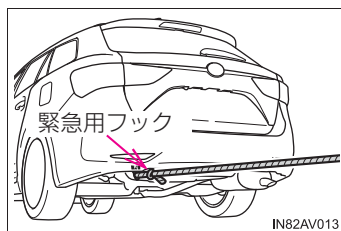
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→P. 290)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



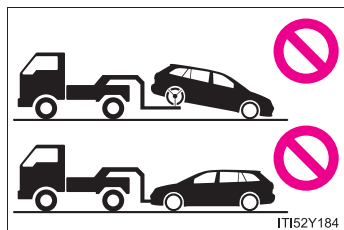
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

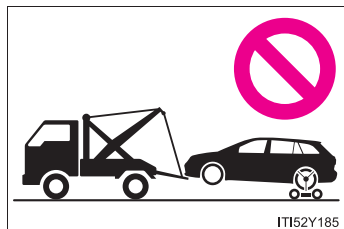
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯 ・ ブレーキ液の不足（警告ブザー） ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	ブレーキ警告灯 電動パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	PCS 警告灯★ 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周囲のフロントウインドウガラスに汚れ（くもり、結露、凍結などを含む）や付着物がある → 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 155） ・ 前方センサー温度が作動範囲外 → センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 → VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 158、183）
	AFS OFF 表示灯★ AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC システム異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 VSC システムと TRC システムの作動時は点滅します。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9 L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※¹ 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）※² パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	マスターウォーニング システム異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージを表示（ブザーが鳴る場合もあります） → P. 280

※¹ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※² **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**

パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

知識

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなる場合があります。
 ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

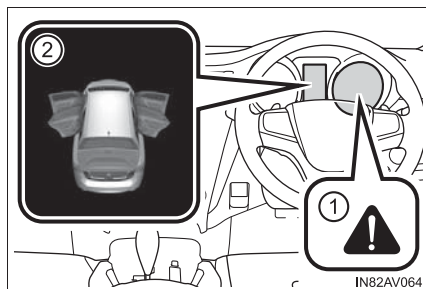
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウオーニング

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



対処後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 エンジン油圧不足 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 充電システム故障 	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車 して取扱書を確認	ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ステアリングロック システムチェック 	ステアリングロックシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
プリクラッシュ セーフティ故障 販売店で 点検してください   (点滅)	PCS(プリクラッシュセーフティシステム)★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
クルーズシステム チェック 	クルーズコントロールシステム★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。それでもセットできない、またはセットしてもすぐ解除される場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
LDAシステム チェック 	LDA(レーンディパーチャーアラート)★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → 安全な場所に停車し、エンジンをかけなおしてLDAシステムをリセットするか、LDA スイッチを押してシステムを再始動してください。異常がなければ、LDA システムが使用できます。
パーキングブレーキ 動作できません   (点滅)	パーキングブレーキがかからない 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パーキングブレーキ チェック   (黄色)	パーキングブレーキシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
パワーステアリング システムチェック  	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/hをこえたときには  が点滅しブザーが鳴ります。 → 開いているドアを閉める
パーキングブレーキを 解除して下さい  (点滅)	パーキングブレーキが解除されてない パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/hをこえたときには警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 (点滅)	パーキングブレーキの状態を判定できない パーキングブレーキシステムが現在の状態を判定できないとき、警告ブザーが鳴ります。 → 警告メッセージが消えるまで待ちます。警告メッセージが消えない場合は、パーキングブレーキを解除してください。
パーキングブレーキ オーバーヒート   (点滅) (点滅)	パーキングブレーキがオーバーヒートした 警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキの使用をひかえる システムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュ セーフティ 現在使用できません  OFF (点滅)	PCS(プリクラッシュセーフティシステム)★が現在機能していない → トヨタ販売店で点検を受けてください。
VSCがOFFのため プリクラッシュ ブレーキも 停止します  OFF	VSC が OFF になり、プリクラッシュブレーキ★が停止した → VSC を ON にする (→ P. 182)
LDAカメラ高温のため 一時使用できません 	LDA(レーンディパーチャーアラート)★の一時停止 (前方センサー周辺が作動範囲外の高温状態) → しばらく走行してから LDA を再起動する
	(LDA [レーンディパーチャーアラート]★制御中) 車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が橙色で点滅します。 警告ブザーが数秒間鳴ります。 → 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす
ヘッドランプ システム故障 販売店で 点検してください 	ヘッドランプレベリングシステムの異常 AHB(オートマチックハイビーム)★の異常 LED ヘッドランプの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ!	衝突の可能性が高い プリクラッシュブレーキが作動している(プリクラッシュセーフティシステム★) 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速する
ライトが 点灯しています  (点滅)	ランプが点灯したままになっている → ランプを消灯する
LDA 約50km/h以下で 使用できません	車速が 約 50km/h 以下のため、LDA (レーンディパーチャーアラート)★ が使用できない → 約 50km/h 以上の車速で走行する
センサ作動温度外 前方センサシステム 一時利用不可 少々お待ち下さい  (点滅)	前方センサーシステム★の一時停止(前方センサー周辺の作動温度範囲外) 次のシステムが一時的に使用できなくなります ・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)★ ・ オートマチックハイビーム★ ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)★ → メッセージが消えるまでしばらくお待ちください。
センサ視界不良 前方センサシステム 一時利用不可 ガラス を拭いてください  (点滅)	前方センサーシステム★の一時停止(フロントウインドウガラスの汚れや、氷などの付着) 次のシステムが一時的に使用できなくなります ・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)★ ・ オートマチックハイビーム★ ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)★ → フロントウインドウガラスの汚れや氷などを取り除く (→ P. 155)

知識

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) ★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白(橙)線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

- LDAの作動条件以外の車速のとき
- 白(橙)線を認識できていないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした → 電子キーを携帯してエンジンを始動する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトレバーが P の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → エンジンスイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす
1 回	連続音 (10 秒間)	キーが 見つかりません 電源をOFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた → シフトレバーを P にする

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	連続音	Pレンジに 入れて下さい キーが 見つかりません (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → シフトレバーを P にする → 電子キーを車内にもどす
1 回	連続音	車室内に キーがあります  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する 車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れて下さい  (点滅)	・ メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押したした際、車室内でキーを検出できなかった ・ エンジンスイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが 2 回連続で続いた → ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる
1 回	なし	始動時は Pレンジに 入れて下さい  (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている → シフトレバーを P にしてからエンジンを始動させる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	電源OFF時は Pレンジに入れて エンジンスイッチを 押して下さい  (点滅)	シフトレバーがPもしくはN以外 でエンジンスイッチをOFFにしようとした → エンジンスイッチのモードを OFF にしたい場合は、シフトレ バーをPにしてエンジンスイッ チを押す
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した → 次回エンジン始動時にエンジン 回転数を少し高めにし、約5分 間その回転数を保持しバッテ リーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→ P. 246)
1 回	なし	始動時はブレーキを 踏みながら エンジンスイッチを 押して下さい  (点滅)	エンジンスイッチがOFFの状態で 運転席のドアを開閉してからエン ジンをかけずにエンジンスイッ チをアクセサリモードに2回以上 した → ブレーキを踏んでエンジンス イッチを押す 電子キーが正常に働かないときの エンジン始動の方法で(→P. 305) エンジンスイッチに電子キーでふ れた → ブザーが鳴ってから10秒以内 にエンジンスイッチを押す
1 回	なし	ステアリングロック 未解除  (点滅)	エンジンスイッチを押してから約 3秒以内にステアリングロックが 解除できなかった → ブレーキペダルを踏んでハンド ルを左右にまわしながらエン ジンスイッチを押す

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 236 を参照してください)

警告

■ タイヤがパンクしたときは

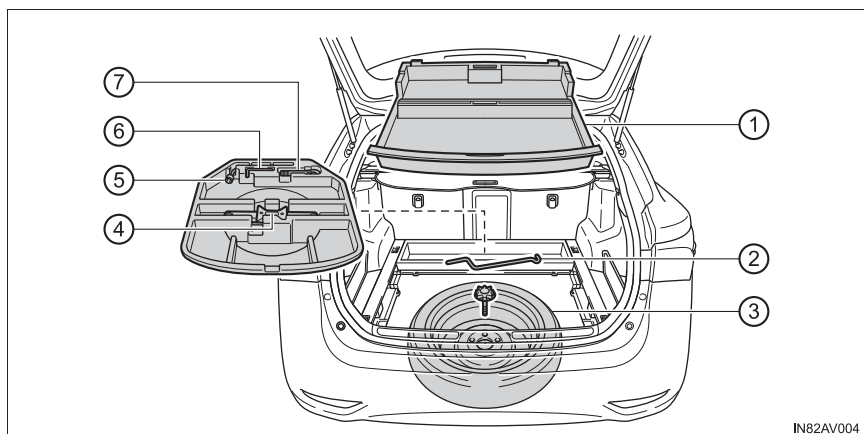
パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 265)

工具とジャッキ位置



① デッキアンダートレイ

② ジャッキハンドル

③ 応急用タイヤ

④ ジャッキ

⑤ ホイールナットレンチ

⑥ パーキングブレーキ解除ツール

⑦ けん引フック

 警告**■ ジャッキの使用について**

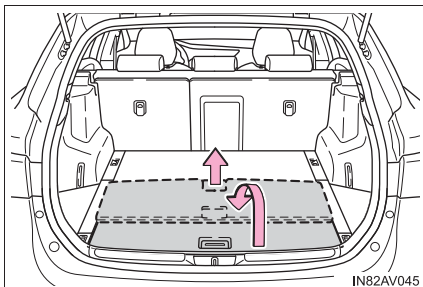
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

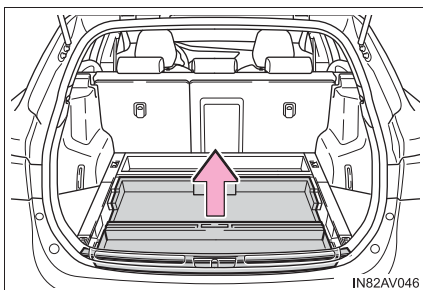
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

ジャッキの取り出し方

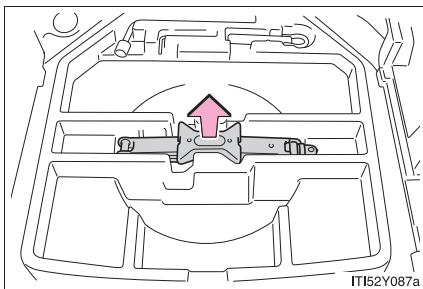
- 1 デッキボードを取りはずす



- 2 デッキアンダートレイを取りはずす

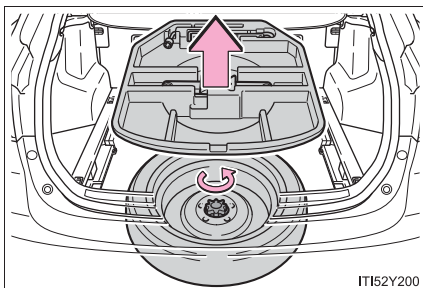


- 3 ジャッキを取り出す



応急用タイヤの取り出し方

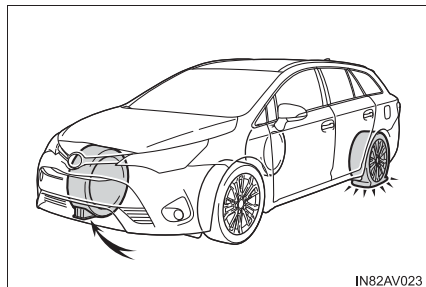
ツールホルダーを、車両から降ろして、留め具を取りはずし、タイヤを取り出す



パンクしたタイヤの交換

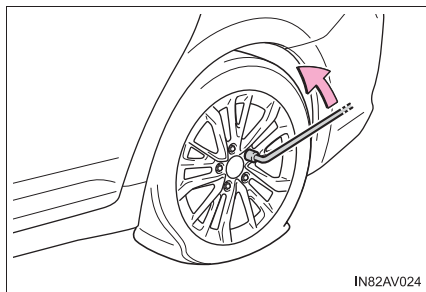
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

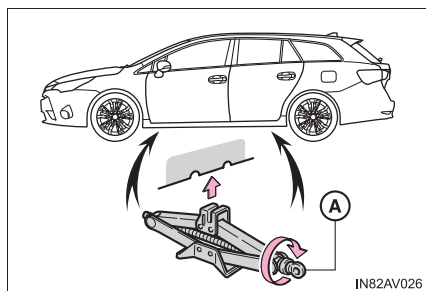


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

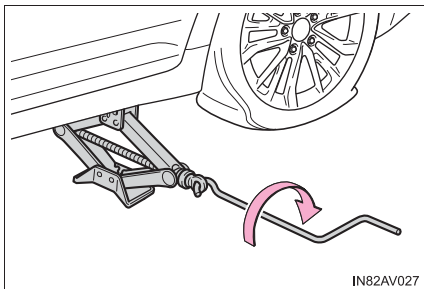
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

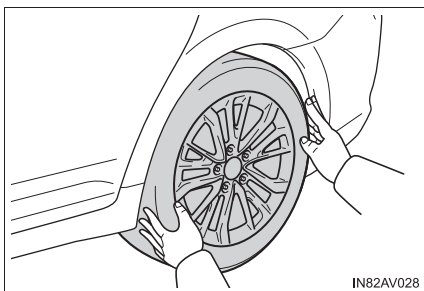


- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

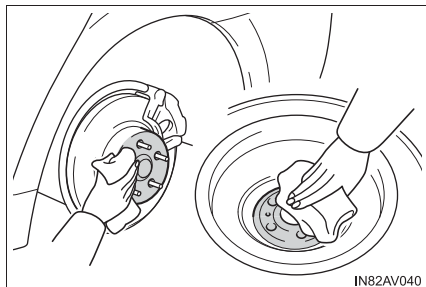
■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1050 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 238)

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

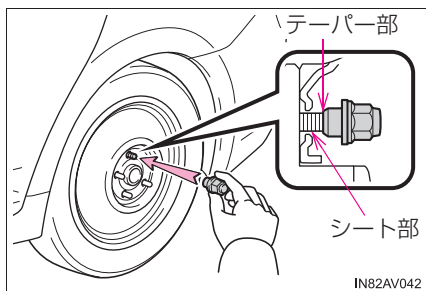
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

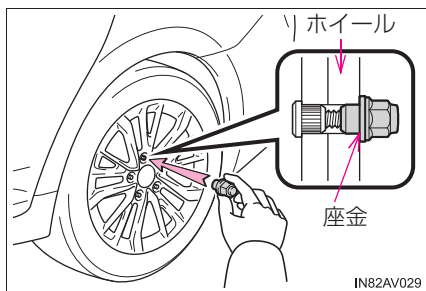
▶ 応急用タイヤにかえるとき

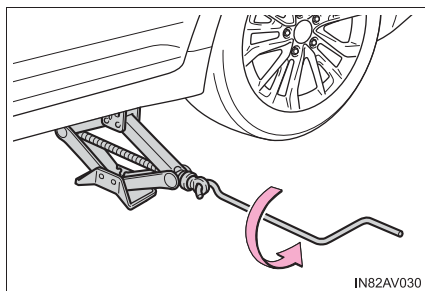
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



▶ アルミホイールにかえるとき

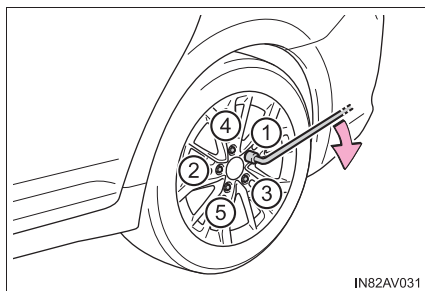
ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする



3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

**5** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する **知識****■ 応急用タイヤについて**

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 320)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 1** 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2** パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3** タイヤチェーンを前輪に装着する

 警告**■ 応急用タイヤを使用するときは**

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- PCS ★
- VSC
- TRC
- AFS (アダプティブフロントライティングシステム) ★
- クルーズコントロール★
- LDA (レーンディパーチャーアラート) ★
- EPS

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 123）や、ステアリングロックの解除（→P. 126）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 123）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモバイザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 61）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 307）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 300）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 307)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

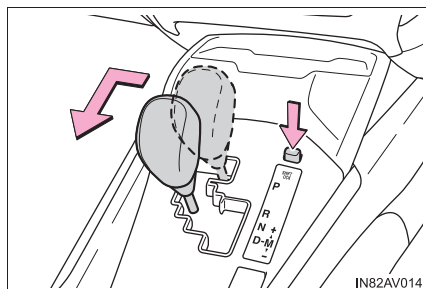
上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。



パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリーがあがったときやパーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。

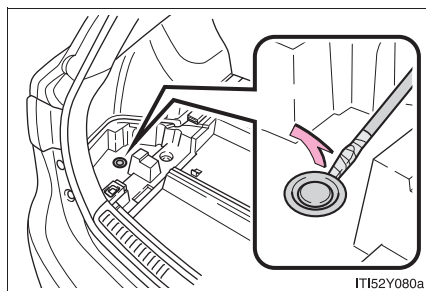
バッテリーが正常なときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

手動解除する前に

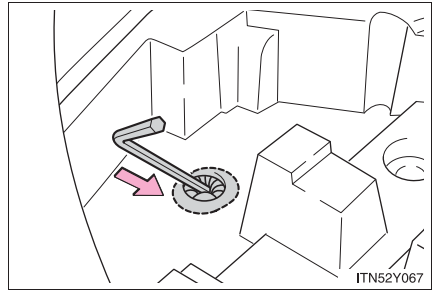
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めがある場合は輪止めをする

手動解除の方法

- 1 パーキングブレーキ解除ツールをラゲージルームから取り出す
(→P. 290)
- 2 左側のデッキサイドボードとデッキボードを取りはずす
(→P. 210, 211)
- 3 キャップを取りはずす

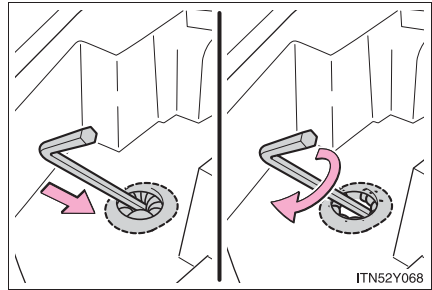


- 4 保護シールを取りはずすか、パーキングブレーキ解除ツールを挿し込んで破る



- 5 パーキングブレーキ解除ツールを押しあて、手を放してもはずれないよう挿し込む
カチカチと音がすることを確認しながら時計まわりにまわす
(約 600 回、20 分程度)

反時計まわりへまわすと、空まわりしますので、手を持ちかえずにまわせませう。



パーキングブレーキを解除したあとは、パーキングブレーキ解除ツールをはずし、もとの場所に格納してください。

知識

■保護シールについて

保護シールが損傷したとき、または保護シールを紛失した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

万一、パーキングブレーキシステムに水が入ると、システムの交換が必要になる場合があります。

■手動解除について

パーキングブレーキを手動で解除することはできますが、手動でかけることはできません。

 警告**■ 手動解除するときの警告**

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーを P に入れて、輪止めがある場合は輪止めをしてください。
お守りいただかないと、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずエンジンスイッチを OFF にして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ パーキングブレーキの手動解除について**

- 手動で解除を行うときは、完全に解除されるまでパーキングブレーキ解除ツールをまわしてください。
途中で作業をやめると、パーキングブレーキシステムの故障につながります。
- 解除を行うときは、パーキングブレーキ解除ツール以外を使用しないでください。他のツールを使用すると、解除用の穴部を破損したり、挿し込んだツールが抜けなくなるおそれがあります。

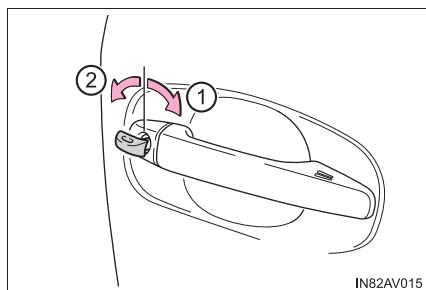
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 94）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 76）を使って、次の操作ができます。

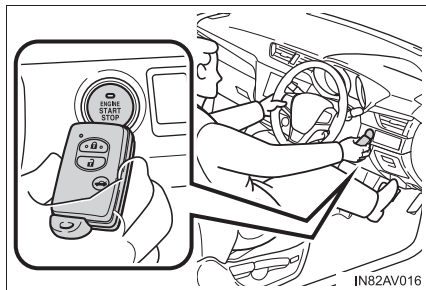
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



エンジン始動の方法

- ① シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- ② 電子キーのトヨタエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがエンジンスイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。



- ③ ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

 知識

■ エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 246)

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

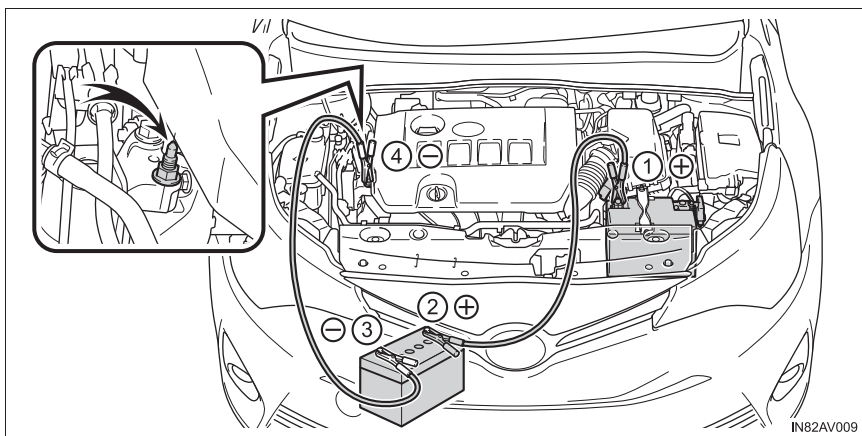
ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 124)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける（→ P. 229）
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接触しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P. 68）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

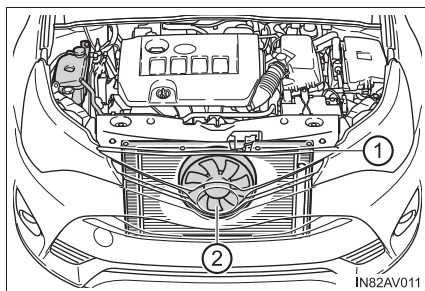
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

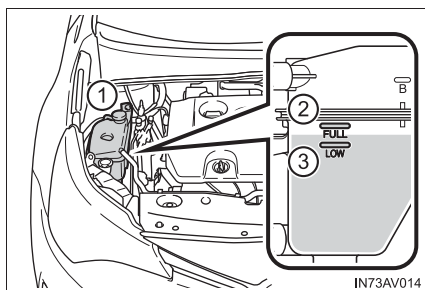


- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバタンク

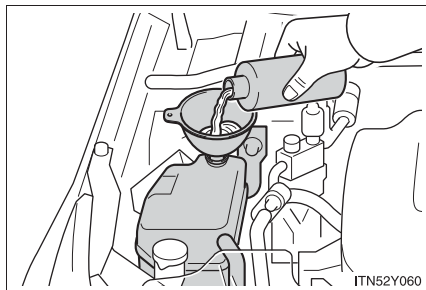
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6** エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7** ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りの販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

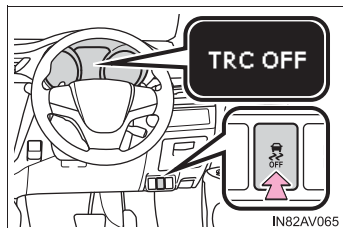
ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石をあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ 脱出しにくいときは

 を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	316
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	322
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	60

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値※ ¹)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20 ※ ² —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.9	4.2

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

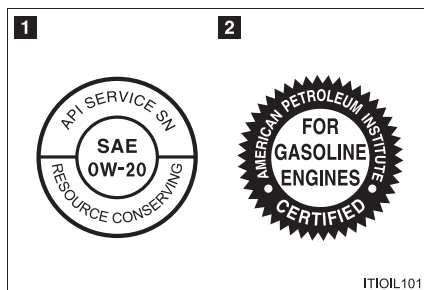
※² 0W-20 は、上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

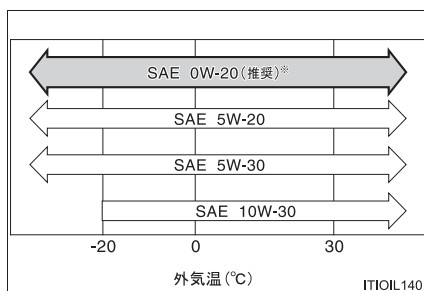
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% – 12℃ 濃度 50% – 35℃	6.2

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※ ¹)
トヨタ純正 CVT フルード FE	7.2

※¹ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※ ²	71

※² エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
タクティー ブレーキフルード J-4 ※ ³

※³ DOT4 をご使用ください。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa（kg/cm ² ）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92V	16x6 1/2J	240(2.4)	220(2.2)
	215/55R17 94W	17x7J	240(2.4)	230(2.3)
応急用タイヤ	T145/70D17 106M	17x4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）	19
	コーナリングランプ（バルブタイプ：H11）	55
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	パーソナル／インテリアランプ	8
	バニティランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZRT272W	3ZR-FAE（2L ガソリン）	2WD（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択する
 - 2 ▲ または ▼ を押して変更する項目を選択し、 を押す
 - 3 ▲ または ▼ を押して設定したい項目を選択し、 を押す
- 設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 76, 79, 91)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 76, 79, 91)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 76, 79)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○

■ ドアロック (→ P. 83)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
シフト連動オートアンロック	あり	なし	—	○
シフト連動オートロック	なし	あり	—	○
車速感応オートロック	あり	なし	—	○
運転席ドア連動オートアンロック	なし	あり	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 137)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	— 2 ~ 2	—	○
フォローミーホーム (ランプが自動消灯するまでの時間)	30 秒	60 秒	—	○
		90 秒		
		120 秒		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション (→ P. 199)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○

■ メーター (→ P. 72)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LDA (レーンディパーチャーアラート) ★の感度	高	標準	○	—
AFS (アダプティブフロントライティングシステム) ★	On	Off	○	—
言語	日本語	英語	○	—
割込み表示	する	しない	○	—
エコドライブインジケータランプの表示	あり	なし	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	※ 1	○	—
	平均燃費		○	—
ドライブインフォ 2	距離 (航続可能距離)	※ 1	○	—
	平均車速 (リセット間)		○	—

※ 1 瞬間燃費、平均燃費 (リセット間)、平均燃費 (給油後)、平均燃費 (始動後)、平均車速 (リセット間)、平均車速 (始動後)、距離 (航続可能)、距離 (始動後走行)、走行時間 (リセット間)、走行時間 (始動後)、ブランクから 2 項目を選択

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■ カスタマイズを行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ カスタマイズを行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	328
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	332
アルファベット順さくいん	334
五十音順さくいん	335

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 77）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 77）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 246）
- エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 124）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 94）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 82）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 123）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 123）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 92）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 126）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 305）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 307）

**ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない**

- エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 301）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 126）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 108）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 125)



警告音・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」(→ P. 332) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 277、280 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 289）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 313）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 286
	シフトポジションがP以外になっている	P. 286
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 246
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 92
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 286

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P. 282
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 282
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 278
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 132
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 116
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 157

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 192

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 181, 277

AFS

(アダプティブフロントライティングシステム) 138, 278

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 181, 277

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 321

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 318

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 52

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 165, 281

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 157, 278

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークル
スタビリティコントロール) 181

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 30, 277

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 181, 278

TRC

(トラクションコントロール) 181, 278

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
(バッテリーあがりの処置).....	307
アームレスト	
(リヤアームレスト)	216
アウターミラー (ドアミラー) ...	106
操作	106
格納のしかた	106
ミラーヒーター	195
アクセサリースocket	215
アクセサリモード	124
アシストグリップ	218
アダプティブフロント	
ライティングシステム	
(AFS)	138
アラーム	
音さくいん	332
警告ブザー	277, 280
アンチロックブレーキ	
システム (ABS)	181
アンテナ	91

い

イグニッションスイッチ	
(エンジンスイッチ)	123
エンジンのかけ方	123
自動電源 OFF 機能	125
車両を緊急停止するには	268
モードの切りかえ	124
位置交換	
(タイヤローテーション)	236
イベントデータレコーダー	
(EDR)	8
イモビライザーシステム	61
イルミネーション	
作動について	201
点灯する部位	199
ユーザーカスタマイズ機能	324
イルミネーテッド	
エントリーシステム	201
インジケーター (表示灯)	66
インナーミラー	104

う

ウinker (方向指示灯)	134
電球 (バルブ) の交換	252
方向指示レバー	134
ワット数	321
ウインドウ	
ウォッシャー	143, 146
パワーウインドウ	108
リヤウインドウ	
デフォグガー	195
ウインドウロックスイッチ	108
ウォーニングランプ	
(警告灯)	65, 277
ウォッシャー	143, 146
液の補給	235
スイッチ	143, 146
タンク容量	320
冬の前の準備・点検	187
動けなくなったときは	
(スタック)	313
雨滴感知式ワイパー	143
運転	112
雨の日の運転	113
運転を補助する装置	181
環境に配慮した運転	67
寒冷時の運転	187
正しい姿勢	24
手順	112
運転席シートベルト	
非着用警告灯	278

え

AFS	138
エアコン	192
曇り取り	
(フロントガラス)	195
フィルターの交換	242
エアバッグ	30
SRS エアバッグ警告灯	277
お子さまのための注意	31
改造・廃棄	33
作動条件	34
正しい姿勢	24
配置	30
エコドライブ	
インジケーターランプ	67, 73
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	181
機能	181
パワーステアリング警告灯	277
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	61
エンジン回転計	
(タコメーター)	68
エンジンがかからない	
(エンジンが始動	
できない)	299
エンジン警告灯	277
エンジンスイッチ	123
エンジンの始動方法	123
エンジンルームカバー	233
オーバーヒート	310
緊急時の停止方法	268
フューエルポンプ	
シャットオフシステム	276
ボンネット	229

エンジンイモビライザー	
システム（盗難防止システム）...	61
エンジンオイル.....	317
警告メッセージ.....	280
冬の前の準備・点検.....	187
メンテナンスデータ.....	317
容量.....	317
エンジンスイッチ.....	123
エンジンのかけ方.....	123
自動電源 OFF 機能.....	125
車両を緊急停止するには.....	268
モードの切りかえ.....	124
エンジンフード（ボンネット）...	229
開け方.....	229
エンジンルーム.....	233
エンジンルームカバー.....	233
エンジンルームから	
蒸気が出ている.....	310

お

オートエアコン.....	192
オートドアロック・	
アンロック機能.....	83
オートマチックハイビーム.....	172
オートレベリングシステム	
（ヘッドランプ）	
警告メッセージ.....	283
作動について.....	141
オーバーヒート.....	310
オープナー	
給油口／給油扉.....	150
バックドア.....	86
ボンネット.....	229

オイル（エンジンオイル）.....	317
応急用タイヤ.....	289
空気圧.....	320
交換方法.....	289
お子さまを乗せるとき.....	39
ウインドウロックスイッチ ...	108
エアバッグ.....	31
お子さまの安全のために.....	39
キーの電池.....	247
シートベルトの着用.....	27
チャイルドシートの取り付け ...	40
チャイルドプロテクター.....	82
発炎筒の取り扱いに	
関する警告.....	267
バックドアに関する警告.....	88
バッテリーに関する警告.....	309
パワーウインドウに	
関する警告.....	110
オドメーター.....	68
機能.....	68
表示の切りかえ・	
リセットボタン.....	69

か

カーテンシールドエアバッグ	30
カーペット	
洗浄	227
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	69
外装の電球（バルブ）	252
交換要領	252
ワット数	321
カスタマイズ機能	322
ガソリンスタンドでの情報	352
型式	321
カップホルダー	205
ガラスの曇り取り （リヤウインドウ デフォッガー）	195
ガレージジャッキ	232
冠水路走行	120
寒冷時の運転	187

き

キー	76
エンジンが かからないときは	299
エンジンが始動できない	305
キーナンバープレート	76
キーの構成	76
キーレスエントリー	76, 91
キーをなくした	77
正常に働かない	305
施錠・解錠ができない	305
電子キー	76
電池が切れた	246, 305
メカニカルキー	76
ワイヤレスリモコン	76
キーレスエントリー	
スマートエントリー& スタートシステム	91
ワイヤレスドアロック	76
きしみやひっかき音が 聞こえる（ブレーキパッドウェア インジケーター）	116
給油	148
給油口が開けられない	151
給油のしかた	150
メンテナンスデータ	316
給油後平均燃費	71
緊急時シートベルト固定機構	27
緊急始動機能	300

緊急時の対処

エンジンが始動できない.....	299
オーバーヒートした	310
キーの電池が切れた	246, 305
キーをなくした	77
警告灯がついた	277
警告メッセージが	
表示された	280
けん引.....	269
故障したときは	264
シフトレバーが	
シフトできない	301
車両を緊急停止する	268
スタックした	313
電子キーが正常に働かない....	305
パーキングブレーキが	
解除できない	302
発炎筒.....	266
バッテリーがあがった.....	307
パンクした	289
緊急ブレーキシグナル	181

く

空気圧 (タイヤ)	320
クーラー	192
区間距離計 (トリップメーター)	68
機能	68
切りかえ・リセットボタン	69
曇り取り	
フロントガラス.....	195
ミラーヒーター	195
リヤウインドウ	
デフォッガー	195
クラクション (ホーン).....	102
クリアランスランプ (車幅灯)	137
スイッチ	137
電球 (バルブ) の交換	261
ワット数	321
クリップ	
エンジンルームカバー	233
フロアマット	22
クルーズコントロール.....	177
クルーズコントロール	177
警告メッセージ	281
グローブボックス	203
グローブボックスランプ.....	203

け

警音器 (ホーン)	102
計器類 (メーター)	68
警告灯 / 表示灯	64
照度調整	72
マルチインフォメーション ディスプレイ	70
メーター	68
警告灯	65, 277
ABS & ブレーキアシスト	277
SRS エアバッグ	277
アダプティブフロント ライティングシステム (AFS)	278
エンジン	277
シートベルト非着用	278
スリップ表示灯	278
燃料残量	278
パーキングブレーキ	278
パワーステアリング	277
PCS	278
プリテンショナー	277
ブレーキ	277
マスターウォーニング	279
警告ブザー	
シートベルト非着用	278
シフトダウン制限	132
パーキングブレーキ 未解除走行時	278, 282
半ドア	80
半ドア走行時	282
リバース	133
警告メッセージ	280
化粧ミラー (バニティミラー) ...	214
けん引	269
けん引のしかた	269
フック	271

こ

交換	
キーの電池	246
タイヤ	289
電球 (バルブ)	252
ヒューズ	248
工具 (ツール)	290
航続可能距離	71
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	258
ワット数	321
コートフック	218
小物入れ	208
コンソールボックス	204

さ

サイドエアバッグ	30
サイド方向指示灯	134
電球 (バルブ) の交換	260
方向指示レバー	134
ワット数	321
サイドミラー (ドアミラー)	106
操作	106
格納のしかた	106
ミラーヒーター	195
三角表示板収納スペース	211
サンバイザー	214

し

シート	97, 98
正しい運転姿勢	24
チャイルドシート	40
調整	97, 98
手入れ	226
ヘッドレスト	100
シートベルト	26
お子さまの着用	27
緊急時シートベルト固定機構	27
シートベルト非着用	
警告灯	278
高さ調節	26
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	227
妊娠中の方の着用	28
シートベルト非着用警告灯	278
シートベルトプリテンショナー	27
機能	27
プリテンショナー警告灯	277
室内灯（インテリアランプ）	199
始動のしかた	123
シフトポジション	129
シフトレバー	128
シフトポジションの	
切りかえ	128
シフトレンジの	
切りかえ	130, 131
シフトロックシステム	
（解除ボタン）	301
操作	128
リバース警告ブザー	133

シフトレバーが

シフトできないときは	301
シフトロックシステム	301
締め付けトルク（ホイール）	296
ジャッキ	
ガレージジャッキ	232
車載ジャッキ	290
車速	
スピードメーター	68
平均車速	71
ジャッキハンドル	290
車幅灯	137
電球（バルブ）の交換	261
ランプスイッチ	137
ワット数	321
車両型式	321
車両仕様（スペック）	316
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	268
収納装備	202
瞬間燃費	71
仕様（車両仕様）	321
衝撃感知ドアロック解除	
システム	84
初期化	
パワーウィンドウ	109
助手席シートベルト	
非着用警告灯	278

す

水温計 68

スイッチ

イグニッション 123

ウインドウロック 108

ウォッシャー 143, 146

AFS OFF 138

LDA 165

エンジンスイッチ 123

オーディオ 219

オートマチックハイビーム 172

クルーズコントロール 177

シート調整 97

スポーツモード 129

TRC OFF 182

TRIP 69

電話 219

ドアミラー 106

ドアロック 81

トーク 219

パーキングブレーキ 135

ハザードランプ 265

パドルシフト 130, 131

パワーウィンドウ 108

PCS OFF 158

非常点滅灯

(ハザードランプ) 265

VSC OFF 183

フォグランプ 142

方向指示レバー 134

ホーン (警音器) 102

メーター操作スイッチ 71

メーター表示切りかえ 69

ランプ 137

リヤウインドウ

デフォッガー 195

ワイパー 143, 146

スターター

エンジンの始動 123

スターターがまわらない 299

スタック 313

ステアリングアシステッドビークル

スタビリティコントロール

(S-VSC) 181

ステアリングスイッチ 219

ステアリングホイール

(ハンドル) 102

位置調整 102

ステアリングロック 126

解除できないとき 126

警告メッセージ 281、287

ストップランプ (制動灯)

緊急ブレーキシグナル 181

電球 (バルブ) の交換 261

ワット数 321

スノータイヤ (冬用タイヤ) 187

スピードメーター 68

スペアタイヤ (応急用タイヤ) 289

空気圧 320

交換方法 289

スペアタイヤ 289

スペック (車両仕様) 316

スポーツシーケンシャル

シフトモード

7速スポーツシーケンシャル

シフトマチックモード..... 131

スポーツモードスイッチ 129

スマートエントリー&

スタートシステム..... 91

アンテナの位置 91

エンジンの始動 123

カスタマイズ設定 322

緊急始動機能 300

警告ブザー 92

警告メッセージ 285、286

作動範囲 92

正常に働かないとき 305

節電機能 94

電波がおよぼす

影響について 96

ドアの解錠・施錠 79、86

スモールランプ（車幅灯） 137

電球（バルブ）の交換 261

ランプスイッチ 137

ワット数 321

せ

清掃 222、226

アルミホイール 223

外装 222

シートベルト 227

内装 226

制動灯

緊急ブレーキシグナル 181

電球（バルブ）の交換 261

ワット数 321

積算距離計（オドメーター） 68

機能 68

表示の切りかえ・

リセットボタン 69

セキュリティインジケーター 61

節電機能 94

センサー

インナーミラー 105

雨滴感知センサー 144

Toyota Safety Sense C 153

ライトセンサー 140

洗車 222

前照灯（ヘッドランプ） 137

電球（バルブ）の交換 261

ライトセンサー 140

ランプ消し忘れ防止機能 140

ランプスイッチ 137

前方センサー 153

オートマチックハイビーム 172

LDA（レーンディパーチャー

アラート） 165

PCS（プリクラッシュ

セーフティシステム） 157

そ

走行時間	71
走行モード（ドライブモード） ..	129
速度計（スピードメーター）	68

た

ターンシグナルランプ （方向指示灯）	134
電球（バルブ）の交換	256, 258, 260
方向指示レバー	134
ワット数	321
タイヤ	236
応急用タイヤ	289
空気圧	320
交換	289
締め付けトルク	296
チェーン	187
点検	236
パンクしたときは	289
冬用タイヤ	187
ホイールサイズ	320
ローテーション （位置交換）	236
タイヤが空まわりする （スタックした）	313
タイヤチェーン	187
タコメーター （エンジン回転計）	68

ち

チェーン（タイヤチェーン）	187
チャイルドシート	40
ISOFIX バーでの取り付け	52
シートベルトでの固定	48
選択方法	43
トップテザーアンカー	59
チャイルドプロテクター	82
駐車ブレーキ （パーキングブレーキ）	135
解除できないとき	302
警告メッセージ	281, 282
操作	135
パーキングブレーキ表示灯	278
未解除走行時警告ブザー	278, 279, 282
メンテナンスデータ	319

つ

通算平均燃費	71
ツール（工具）	290

て

ディスチャージヘッドランプ オートレベリングシステム	141
電球（バルブ）の交換	261
ランプスイッチ	137
手入れ	222, 226
アルミホイール	223
外装	222
シートベルト	227
内装	226
テールランプ（尾灯）	137
電球（バルブ）の交換	261
ランプスイッチ	137
ワット数	321
デッキアンダートレイ	210

デッキサイドボード	211
デッキフック	
（荷物固定用フック）	209
デッキボード	210
デフォッガー	
（リヤウインドウ デフォッガー）	195
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	252
ワット数	321
点検基準値	
（メンテナンスデータ）	316
電子キー	76
作動範囲	92
正常に働かないとき	305
節電機能	94
電池が切れた	305
電池交換	246
電池交換（キー）	246
電話スイッチ	219

と

ドア	79
オートドアロック・	
アンロック機能	83
警告メッセージ	282
衝撃感知ドアロック	
解除システム	84
スマートエントリー&	
スタートシステム	91
チャイルドプロテクター	82
ドアガラス	108
ドアロックスイッチ	81
バックドア	86
ロックレバー	81
ワイヤレスリモコン	76

ドアカーテシランプ	199
位置	199
ワット数	321
ドアガラス	108
ドアミラー	
操作	106
格納のしかた	106
ミラーヒーター	195
盗難防止装置	61
トークスイッチ	219
時計	68
時刻を設定する	72
表示	68
トップテザーアンカー	59
トノカバー	212
ドライブインフォメーション （マルチインフォメーション ディスプレイ）	71
メーター操作スイッチ	71
トラクションコントロール （TRC）	181
トランスミッション	128
シフトダウン	
制限警告ブザー	132
操作	128
パドルシフト	
スイッチ	130, 131
メンテナンスデータ	319
トリップメーター	68
機能	68
切りかえ・リセットボタン	69
Toyota Safety Sense C	152

な

内装	
収納装備	202
手入れ	226

に

ニーエアバッグ	30
荷物	
積むときの注意	121
荷物固定用フック	209
荷室内装備	209

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	313
---------------------------	-----

ね

燃費	
給油後平均燃費	71
瞬間燃費	71
平均燃費	71
燃費情報 (ドライブ インフォメーション)	71
燃料	316
ガソリンスタンドでの情報	352
給油	148
種類	316
燃料残量警告灯	278
フューエルポンプ シャットオフシステム	276
容量	316
燃料計	68

は

パーキングブレーキ	135
解除できないとき	302
警告メッセージ	281, 282
操作	135
冬季の注意	188
ブレーキ表示灯	278
未解除走行時警告ブザー	278, 279, 282
メンテナンスデータ	319
パーソナルランプ	200
排気ガス	38
ハイビーム (ヘッドランプ)	137
オートマチックハイビーム	172
電球 (バルブ) の交換	261
ランプスイッチ	137
ワット数	321
ハイマウントストップランプ 電球 (バルブ) の交換	261
ハザードランプ (非常点滅灯)	265
スイッチ	265
電球 (バルブ) の交換	256, 258, 260
ワット数	321
挟み込み防止機能	110
発炎筒	266
バックアップランプ (後退灯) 電球 (バルブ) の交換	258
ワット数	321
バックドア	86
警告メッセージ	282
バックドアグリップ	87
バッテリーあがりを 防ぐために	87

バッテリー

バッテリーがあがった.....	307
パドルシフトスイッチ.....	130, 131
バニティ（化粧用）ミラー.....	214
バニティミラーランプ.....	214
装備について.....	214
ワット数.....	321

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）.....	252
ワット数.....	321

パワーウィンドウ..... 108

ウィンドウロックスイッチ....	108
閉めることが できないときは.....	109
操作.....	108
挟み込み防止機能.....	109

パワーステアリング..... 181

警告メッセージ.....	282
パワーステアリング警告灯....	277

パンクした..... 289**番号灯**

（ライセンスプレートランプ）..	137
電球（バルブ）の交換.....	259
ランプスイッチ.....	137
ワット数.....	321

ハンドル

（ステアリングホイール）.....	102
位置調整.....	102

ひ**ビークルスタビリティ**

コントロール（VSC）.....	181
------------------	-----

ヒーター

オートエアコン.....	192
ミラーヒーター.....	195
非常点滅灯（ハザードランプ）....	265
スイッチ.....	265

電球（バルブ）の

交換.....	256, 258, 260
ワット数.....	321

尾灯（テールランプ）..... 137

電球（バルブ）の交換.....	261
ランプスイッチ.....	137
ワット数.....	321

ヒューズ.....248**表示灯.....66****日よけ（サンバイザー）.....214****ヒルスタートアシスト**

コントロール.....	181
-------------	-----

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	307
フォグランプ	142
スイッチ	142
電球（バルブ）の交換	
.....	253, 255, 261
ワット数	321
ブザー	
シートベルト非着用警告	278
シフトダウン制限警告	132
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告	
.....	278, 279, 282
半ドア警告	282
ブレーキ警告	277
リバース警告	133
フック	
けん引フック	271
コートフック	218
荷物固定用フック	209
フロアマット固定フック	22
フューエルポンプ	
シャットオフシステム	276
フューエルメーター（燃料計）	68
フューエルリッド	
（給油口／給油扉）	148
給油口／給油扉が開かない	151
給油のしかた	150
冬の前の準備	
（寒冷時の運転）	187
冬用タイヤ	187
プリクラッシュセーフティ	
システム（PCS）	157
機能	157
PCS OFF スイッチ	158
PCS 警告灯	278

ブレーキ

緊急ブレーキシグナル	181
警告ブザー	278, 279, 282
警告メッセージ	281, 282
パーキングブレーキ	135
ブレーキ警告灯	277
メンテナンスデータ	319
ブレーキアシスト	181
ABS &	
ブレーキアシスト警告灯	277
機能	181
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	116
ブレーキフルード	319
フロアマット	22
フロントシート	97
正しい運転姿勢	24
調整	97
手入れ	226
ヘッドレスト	100
フロントドア	79
フロントパーソナルランプ	200
フロントフォグランプ	142
スイッチ	142
電球（バルブ）の交換	253
ワット数	321
フロント方向指示灯	134
電球（バルブ）の交換	256
方向指示レバー	134
ワット数	321

へ

平均車速	71
平均燃費	71
ヘッドランプ	137
電球（バルブ）の交換	261
ライトセンサー	140
ランプ消し忘れ防止機能	140
ランプスイッチ	137
ヘッドランプオートレベリング	
システム	141
ヘッドレスト	100

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	289
メンテナンスデータ	320
ホイールナットレンチ	290
方向指示灯	134
電球（バルブ）の交換	
.....	256, 258, 260
方向指示レバー	134
ワット数	321
ホーン（警音器）	102
保証	9
ボトルホルダー	206
ボンネット	229
開け方	229

ま

マスターウォーニング	279
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70
警告メッセージ	280
ドライブインフォメーション ..	71
メーター操作スイッチ	71

み

ミラー	
アウターミラー	106
インナーミラー	104
パニティミラー	214
ミラーヒーター	195

め

メーター（計器類）	68
警告灯	65, 277
照度調整	72
時計調整	72
表示切りかえボタン	69
表示灯	66
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70
メーター	68
メーター照度調整	72
メカニカルキー	76
メンテナンスデータ	316

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	322
雪道ですべて動けない (スタックした)	313
油脂類	316

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	137
電球 (バルブ) の交換	259
ランプスイッチ	137
ワット数	321
ラゲージスルー	217
ラゲージフック	209
ラゲージルーム	209
ラゲージルームランプ W 数	321
作動について	87
ラジエーター オーバーヒート	310
メンテナンスデータ	319
ランプ 室内灯	199
電球 (バルブ) の交換	252
パーソナルランプ	200
非常点滅灯 (ハザードランプ)	265
フロントフォグランプ	142
ヘッドランプ (前照灯)	137
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー)	134
ライトセンサー	140
ランプ消し忘れ防止機能	140
リヤフォグランプ	142
ワット数	321
ランプ消し忘れ防止機能	140

り

リヤアームレスト	216
リヤウインドウデフォッガー スイッチ	195
リヤシート	98
リヤパーソナルランプ	200
リヤフォグランプ	142
スイッチ	142
電球 (バルブ) の交換	261
ワット数	321
リヤ方向指示灯	134
電球 (バルブ) の交換	258
方向指示レバー	134
ワット数	321

る

ルームミラー (インナーミラー)	104
ルームランプ	199

れ

レーンディパーチャー アラート (LDA)	165
警告メッセージ	281, 283, 284
操作	165
冷却水	319
水温計	68
冬の前の準備	187
メンテナンスデータ	319
冷却装置 (ラジエーター)	319
オーバーヒート	310
メンテナンスデータ	319

レバー

シフト	128
方向指示	134
ボンネット解除	229
ロック（ドア）	79

ろ

ロック

ウインドウロック	108
シフトロック	301
スマートエントリー& スタートシステム	91
チャイルドプロテクター	82
ドア	79, 81
バックドア	86
ワイヤレスリモコン	76

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補充	235
フロント	143
リヤ	146
ワイパーゴムの交換	244
ワイパーブレード（寒冷地用） ..	188
ワイヤレスリモコン	76
作動の合図	80
操作	76
電池の交換	246
半ドア警告ブザー	80
ワックス	222
ワット数	321

ガソリンスタンドでの情報

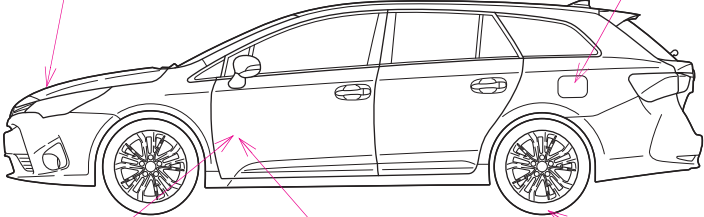
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 229

給油口

P. 148



INPAV022

ボンネット解除レバー

P. 229

給油口オープナー

P. 150

タイヤ空気圧

P. 320

燃料の容量（参考値）	60L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 316
タイヤが冷えている ときの空気圧	P. 320
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時： 3.9L オイルとフィルター交換時：4.2L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

